Canon

imageRUNNER
ADVANCE
8085 PRO

機能追加／変更のお知らせ

はじめに

本製品の機能に、追加／変更がございます。このお知らせをお読みになり、取扱説明書とともに保管してください。

メモ　本書で使われている画面は、特にお断りがない限り、imageRUNNER ADVANCE 8085 PRO に マルチカラーイメージリーダーユニットが装着されている場合のものです。

※ Canon、Canon ロゴ、imageRUNNER ADVANCE はキヤノン株式会社の商標です。

目次

はじめに **1**

システムバージョンアップ時の注意事項 **5**

デフォルト設定の変更内容がクリアされます 5

オプションに関する変更 **6**

オプションが追加されました 6

設定 / 登録に関する変更 **7**

設定 / 登録一覧表 7

追加項目 7

削除項目 11

オートクリアの設定変更を制限できるようになりました（オートクリア移行時間の制限） 11

IPSec 設定で登録するセキュリティーポリシーの暗号化アルゴリズムが変更されました 11

SNMP の専用コミュニティーを設定できるようになりました

SNMPv3 の暗号化アルゴリズムの強度が増しました 16

SNMPv1 で専用コミュニティーを設定する 16

SNMPv3 ユーザーを追加する 16

PDF の下限バージョンを指定できるようになりました（PDF の下限バージョン指定） 17

Rights Management サーバーを設定できるようになりました

（Rights Management サーバー設定） 17

プリンタードライバーからのジョブ制限を詳細に指定できるようになりました 19

メールアドレスの入力を補完できるようになりました（メールアドレスの入力補完） 19

ファクスのデフォルト画面を変更できるようになりました（デフォルト画面の変更） 20

ファクス機能のデフォルト設定を変更できるようになりました（デフォルト設定の変更） 20

「その他の機能」のショートカットボタンを登録できるようになりました

（「その他の機能」のショートカット登録） 21

個人の名称を登録できるようになりました（発信人の名称登録） 21

認証ユーザー名を発信人として使用できるようになりました

（認証ユーザー名を発信人として使用） 22

ファクス送信結果レポートを設定できるようになりました（ファクス送信結果レポート） 23

ファクス通信管理レポートを設定できるようになりました（ファクス通信管理レポート） 24

モデムダイヤルインを設定できるようになりました（モデムダイヤルイン設定） 25

リモートファクス送信を設定できるようになりました（リモートファクス送信設定） 25

ボックスのセキュリティーを設定できるようになりました（ボックスのセキュリティー設定） 26

ボックスの暗証番号を 7 桁固定にする 26

プリンタードライバーから保存時のプリント設定の変更を制限する 27

メモリーメディアへのファイル保存／プリントを制限できるようになりました

（メモリーメディア設定） 27

ホールド機能を使用できるようになりました（ホールド機能を使用） 28

ホールドジョブの自動削除までの時間を設定できるようになりました

（ホールドジョブの自動削除までの時間） 28

アドレス帳にファクス番号を登録できるようになりました 28

宛先表エクスポート時にパスワードを含めるかどうか設定できるようになりました 31

ファクス送信回線を自動選択に補正できるようになりました

（ファクス送信回線を自動選択に補正） 31

SSL 暗号化通信に必要な鍵ペアを生成する際に、

署名アルゴリズムと鍵のアルゴリズムを選択できるようになりました 32

監査ログの取得を設定できるようになりました（監査ログを取得） 32

FIPS 140-2 に準拠した暗号方式を使用できるようになりました

（暗号方式を FIPS 140-2 準拠にする） 33

スキャン機能に関する変更

（［ファクス］、［スキャンして送信］、［スキャンして保存］）..... 34

リモートファクス機能を使用できるようになりました.....34

サーバー機の設定.....34

クライアント機の設定.....35

リモートファクスの使用.....37

［ファクス］、［スキャンして送信］、［スキャンして保存］でフリーサイズを選択して
スキャンできるようになりました.....38

［スキャンして送信］、［スキャンして保存］で
Rights Management サーバーのポリシー適用 PDF を生成できるようになりました.....38

「スキャンして保存」で組み合わせて使用できる機能が変更になりました.....40

ボックス.....40

アドバンスドボックス／ネットワーク／メモリーメディア.....41

プリント機能に関する変更

（［コピー］、［保存ファイルの利用］、［セキュアプリント］、状況確認 / 中止）..... 43

［セキュアプリント］と状況確認／中止画面で、割込／優先プリントできるようになりました
（割込 / 優先プリント）.....43

［ウェブブラウザー］で Web ページのプリントが非対応になりました.....44

「コピー」で組み合わせて使用できる機能が変更になりました.....44

「保存ファイルの利用」で組み合わせて使用できる機能が変更になりました.....44

ボックス保存ファイルプリント.....44

アドバンスドボックスに関する変更..... 48

アドバンスドボックス管理者がコンピューターからアクセスしたときの操作権限が
拡がりました.....48

アドバンスドボックス内のファイルが画像表示できるようになりました.....48

カスタムメニュー機能に関する変更..... 50

[カスタムメニュー] でマイボタンの使用を制限できるようになりました（マイボタンの使用）....50

リモート UI 機能に関する変更..... 52

URI 送信を設定できるようになりました（URI 送信設定）.....52

本機のアドバンスドボックスをループバックアドレスで宛先に指定する.....56

監査ログを管理できるようになりました（監査ログのエクスポート／クリア）.....57

監査ログ管理機能と管理できるログの種類について.....57

ログを管理する.....58

アドレス帳のエクスポート／インポートにパスワードを含めることができるようになりました....62

宛先表をファイルに保存する（エクスポート）.....62

宛先表をファイルから読み込む（インポート）.....64

鍵ペアとサーバー証明書、CA 証明書のアルゴリズムが変更されました.....65

鍵ペアとサーバー証明書.....65

CA 証明書.....65

MEAP 機能に関する変更 66

SMS は常時、SSL 暗号化通信で使用することになりました.....66

SMS 使用時に MEAP アプリケーションの設定情報を管理できるようになりました
（MEAP アプリケーションの設定情報管理).....67

SMS 使用時に MEAP アプリケーションのログを管理できるようになりました
(MEAP アプリケーションのログ管理).....69

アプリケーションログのダウンロード.....69

アプリケーションログの削除.....70

SSO-H 使用時にデフォルトパスワードでのログインを許可できるようになりました
（管理者がデフォルトのパスワードで運用することを許可する）.....72

情報セキュリティ規格（IEEE 2600）について..... 74

IEEE 2600 で定められたセキュリティーについて.....74

ホールド機能の追加 75
ジョブホールド機能について.....75
プリントとホールド.....75
ホールドキューとは.....75
imageRUNNER ADVANCE 8085 PRO と関連アプリケーション 76
ジョブチケットを利用したワークフロー.....77
ホールド画面について.....77
ホールドキューにファイルを保存する.....79
ボックスからファイルを移動／複製する.....79
ホールドキュー内のファイルをプリントする.....81
ジョブを中止する.....82
タッチパネルディスプレーから中止する.....82
状況確認／中止画面から中止する.....82
プリントの仕上がりや保存ファイルの内容を確認する（試しプリント）.....83
ホールドキュー内のファイルを整理する.....84
ジョブの詳細情報を確認する.....84
ジョブの画像を確認する.....84
ボックスへジョブを移動／複製する.....85
ジョブを削除する.....86
優先プリントする.....86
ジョブの部数を変更する（部数）.....87
プリントした用紙を仕分ける（仕上げ）.....88
ページをそろえてプリントする（ソート）.....90
ページごとに仕分けてプリントする（グループ）.....91
ページ順に仕分けてホチキスする（ホチキス）.....93
ページ範囲ごとの設定を編集する.....95

システムバージョンアップ時の注意事項

デフォルト設定の変更内容がクリアされます

システムバージョンアップのため、コントローラーバージョンの先頭 2 桁を「20」以上にしたときは、以下のデフォルト設定の変更がクリアされます。

■ [保存ファイルの利用]→[ボックス]→[送信する]

- ファイル形式の設定
- その他の機能の設定

■ [受信トレイ]→[システムボックス]→[メモリー受信ボックス]→[送信する]

- ファイル形式の設定
- その他の機能の設定

デフォルトの設定を変更している場合は、あらかじめ設定を確認のうえ、システムバージョンアップ完了後に再度設定を行ってください。

メモ　コントローラーバージョンを確認するには、操作パネルの 123（カウンター確認）を押したあと、[デバイス構成確認] を押します。

オプションに関する変更

オプションが追加されました

本製品の性能を高めることができるオプション製品が以下のように追加されました。

■ コピーカードリーダー・F1

コントロールカードを使用して部門別 ID 管理を行います。

■ リモートFAX送信キット

リモートファクス送信機能を使用するためのオプションです。FAX ボードを装着しなくても、同一ネットワーク上にある FAX ボードを装着した他の imageRUNNER ADVANCE 製品を介してファクスを送信できるようになります。

設定 / 登録に関する変更

設定 / 登録一覧表

メモ　機器情報配信項目の表示は以下のとおりです。機器情報配信機能については、e- マニュアル > セキュリティーを参照してください。
- ○：機器情報配信対象
- ×：機器情報配信対象外
- リモートUIでは名称が異なる場合があります。

追加項目

■ 環境設定：タイマー／電力設定

以下の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	リモート UI による設定	機器情報配信項目	参照ページ
オートクリア移行時間の制限	ON、OFF	OFF	○	○	P. 11

■ 環境設定：ネットワーク

[IPSec 設定] と [SNMP 設定] に太字の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	リモート UI による設定	機器情報配信項目	参照ページ
IPSec 設定 *1					P. 11
登録：IKE 設定					
IKE モード	メイン、アグレッシブ	メイン	○	×	
認証方式	事前共有鍵方式、電子署名方式	事前共有鍵方式	○	×	
認証 / 暗号化アルゴリズム	自動、手動指定	自動	○	×	
	認証 / 暗号化アルゴリズム：手動指定				
	・認証 SHA1、**SHA2**	SHA1	○	×	
	・暗号 3DES-CBC、AES-CBC	3DES-CBC	○	×	
	・DH グループ Group1（762）、Group2（1024）、Group14（2048）、**ECDH-P256、ECDH-P384**	Group2（1024）	○	×	
登録：IPSec 通信設定					
有効期間：時間	1 ～ 65535 分	480	○	×	
有効期間：サイズ	1 ～ 65535 MB	65535	○	×	
PFS	ON、OFF	OFF	○	×	
認証 / 暗号化アルゴリズム	自動、手動指定	自動	○	×	
	認証 / 暗号化アルゴリズム：手動指定				
	ESP、**ESP(AES-GCM)、AH(SHA1)**	ESP	○	×	
	ESP 設定時： ESP 認証 SHA1、NULL	SHA1	○	×	
	ESP 暗号 3DES-CBC、AES-CBC、NULL	3DES-CBC	○	×	
接続モード	トランスポートモード、表示のみ		○	×	

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	リモート UI による設定	機器情報配信項目	参照ページ
SNMP 設定					P. 16
SNMPv1 を使用	ON、OFF	ON	○	○	
専用コミュニティー設定					
専用コミュニティー	ON、OFF	ON	○	×	
MIB アクセス権限	読込 / 書込、読込のみ	読込のみ	○	×	
SNMPv3 を使用	ON、OFF	OFF	○	×	P. 16
ユーザー設定					
ユーザー設定の有効 / 無効		-	○	×	
登録	ユーザー名、MIB アクセス制限、セキュリティー設定、認証アルゴリズム（MD5、SHA1）、認証パスワード、暗号化アルゴリズム（DES、**AES**）、暗号化パスワード	-	○	×	
詳細 / 編集	ユーザー名、MIB アクセス制限、セキュリティー設定、認証アルゴリズム（MD5、SHA1）、認証パスワード、暗号化アルゴリズム（DES、**AES**）、暗号化パスワード	-	○	×	
削除	-	-	○	×	

*1 IPSec セキュリティーボードを有効にしているときに表示される項目です。

■ ファンクション設定：共通

［ファイル生成］に、以下の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	リモート UI による設定	機器情報配信項目	参照ページ
PDF の下限バージョン指定	指定しない、1.5、1.6、1.7	指定しない	○	○	P. 17
Rights Management サーバー設定					P. 17
サーバーの URL	サーバーの URL：最大 128 文字	（空欄）	○	×	
ユーザー名	ユーザー名：最大 128 文字	（空欄）	○	×	
パスワード	パスワード：最大 32 文字	（空欄）	○	×	
ユーザー毎パスワードを使用	ON、OFF	OFF	○	×	

■ ファンクション設定：プリンター

太字の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	リモート UI による設定	機器情報配信項目	参照ページ
プリンタージョブの制限	**ON、OFF**	OFF	○	○	P. 19
	・ON 設定時 許可するジョブの選択 プリント保留、プリント保留＋セキュアプリント	プリント保留	○	×	

■ **ファンクション設定：送信**

以下の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	リモート UI による設定	機器情報配信項目	参照ページ
E メール /I ファクス設定					
メールアドレスの入力補完	ON、OFF	ON	×	○	P. 19
ファクス設定 *1					
デフォルト画面の変更	標準、アドレス帳	標準	×	×	P.20
デフォルト設定の変更	登録、初期化	ー	×	×	P.20
「その他の機能」のショートカット登録	ショートカットボタン 1：各モード、割り当てなし	濃度	×	×	P.21
	ショートカットボタン 2：各モード、割り当てなし	原稿の種類	×	×	
	ショートカットボタン 3：各モード、割り当てなし	両面原稿	×	×	
	ショートカットボタン 4：各モード、割り当てなし	原稿サイズ混載	×	×	
発信人の名称登録	01 ～ 99：登録 / 編集、削除	ー	○	×	P.21
認証ユーザー名を発信人として使用	ON、OFF	OFF	×	○	P.22
ファクス送信結果レポート	エラー時のみ、ON、OFF	エラー時のみ	○	○	P.23
	エラー時のみ、または ON 設定時： 送信原稿の表示：ON、OFF	ON	○	○	
ファクス通信管理レポート	40 通信で自動プリント：ON、OFF	ON	○	○	P.24
	指定時刻プリント：ON、OFF	OFF	○	○	
	時刻指定：00：00 ～ 23：59	00：00	○	○	
モデムダイヤルイン設定 *1*2	回線 1：ON、OFF	OFF	○	○	P.25
	回線 2*3：ON、OFF	OFF	○	○	
	回線 3*4：ON、OFF	OFF	○	○	
	回線 4*4：ON、OFF	OFF	○	○	
リモートファクス送信設定 *1*2					P.25
リモートファクスサーバーアドレス	IP アドレスまたはホスト名（最大 48 文字）	（空欄）	○	×	
送信タイムアウト	1 ～ 99 時間	24 時間	○	○	
送信回線数	1 ～ 4 回線	1	○	×	
回線指定	自動、回線 1、回線 2*5、回線 3*5、回線 4*5	自動	○	×	
リモートファクスを使用	ON、OFF	ON	○	○	

*1 リモートファクスの設定をしている場合に表示される項目です。リモートファクスの設定方法については、P.34 を参照してください。

*2 リモートファクスサーバー機で設定を「ON」にしている場合に表示される項目です。

*3 リモートファクスサーバー機で G3 回線増設キット（2 回線）を追加している場合に表示される項目です。

*4 リモートファクスサーバー機で G3 回線増設キット（2 回線）と G3 回線増設キット（3･4 回線）を追加している場合に表示される項目です。

*5［送信回線数］で設定した回線数に応じて表示されます。

■ **ファンクション設定：ファイル保存／利用**

［ボックス設定］に以下の項目が追加されました。また、［メモリーメディア設定］が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	リモート UI による設定	機器情報配信項目	参照ページ
ボックス設定					
ボックスのセキュリティー設定	ボックス暗証番号 7 桁固定 / アクセス制限：ON、OFF	OFF	○	○	P. 26
	プリンタードライバーから保存時のプリントの表示：ON、OFF	ON	○	○	
メモリーメディア設定					
スキャン / プリント機能を使用	スキャン機能を使用：ON、OFF	ON	○	○	P. 27
	プリント機能を使用：ON、OFF	ON	○	○	

■ **ファンクション設定：ホールド**

以下の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	リモート UI による設定	機器情報配信項目	参照ページ
ホールド機能を使用	ON、OFF	ON	×	×	P. 28
ホールドジョブの自動削除までの時間	なし、1、2、3、6、12 時間、1、2、3、7、30 日	3 日	×	×	P. 28

■ **宛先設定**

太字の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	リモート UI による設定	機器情報配信項目	参照ページ
宛先の登録 *1	新規宛先の登録、詳細 / 編集、削除	—	○	○ *2	P.28
アドレス帳エクスポートの対象にパスワードを含める	ON、OFF	OFF	○	○	P. 31
リモートアドレス帳取得設定 *1	アドレス帳を取得：ON、OFF	OFF	○	○	P.28
	リモートアドレス帳サーバーアドレス：IP アドレスまたはホスト名（最大 128 文字）	—	×	×	
	通信タイムアウト：15 ～ 120 秒	30 秒	○	○	
	ファクス送信回線を自動選択に補正：ON、OFF	ON	○	○	

*1 リモートファクスの設定をしている場合に表示される項目です。リモートファクスの設定方法については、P.34 を参照してください。

*2 新規宛先の登録：○
詳細 / 編集：○
削除：○
宛先の絞込み：×

■ **管理設定：デバイス管理**

太字の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	リモート UI による設定	機器情報配信項目	参照ページ
証明書設定					p. 32
証明書設定：鍵生成：ネットワーク通信用の鍵生成					
鍵の名前	最大 24 文字	（空欄）	○	×	
署名アルゴリズム	**SHA1、SHA256、SHA384、SHA512**	SHA1	○	×	
鍵のアルゴリズム	RSA	RSA	○	×	
鍵の種類	512、1024、**2048**、**4096**	512	○	×	
監査ログを取得	**ON、OFF**	OFF	○	×	P. 32
暗号方式を FIPS 140-2 準拠にする *2	**ON、OFF**	OFF	○	×	P. 33

*2 IPSec セキュリティーボードを有効にしているときに表示される項目です。

削除項目

■ **ファンクション設定：共通**

［スキャン動作］から以下の項目が削除されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	機器情報配信項目
スキャン動作			
リモートスキャン時のデータ圧縮率	高圧縮、普通、低圧縮	普通	○

オートクリアの設定変更を制限できるようになりました（オートクリア移行時間の制限）

本機能を「ON」に設定すると、一般ユーザーは以下の機能を操作できなくなります。

- ［環境設定］（設定／登録）の［オートクリア移行時間］（→e-マニュアル > 設定/登録）
- ［環境設定］（設定／登録）の［オートクリア後の機能］（→e-マニュアル > 設定/登録）

1 **（設定／登録）→［環境設定］→［タイマー / 電力設定］→［オートクリア移行時間の制限］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

IPSec 設定で登録するセキュリティーポリシーの暗号化アルゴリズムが変更されました

［IPsec 設定］で新しいセキュリティーポリシーを登録する際、[IKE 設定] と［IPSec 通信設定］で使用する認証と暗号化のアルゴリズムが変更されました。[IKE 設定] と［IPSec 通信設定］の設定方法は以下のとおりです。

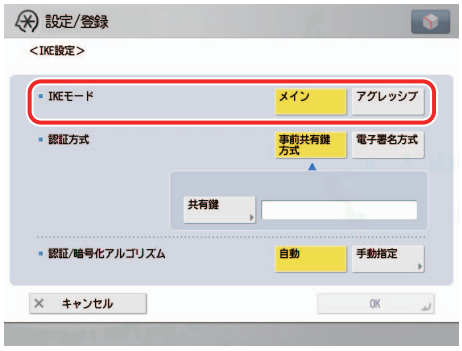
重要　この機能は、IPSec セキュリティーボードが装着されている場合に使用できます。

メモ　［IPsec 設定］でのセキュリティーポリシー登録方法については、e- マニュアル > ネットワークを参照してください。

1 **（設定／登録）→［環境設定］→［ネットワーク］→［TCP/IP 設定］→［IPSec 設定］を押したあと、<IPSec を使用 > を「ON」にします。**

2 < ポリシー外パケットの受信 > の［登録］を押します。→ポリシー名に名称を入力したあと、［IKE 設定］を押します。

3 登録画面で［IKE 設定］を押して IKE フェーズ 1 で使用するモードを選択します。



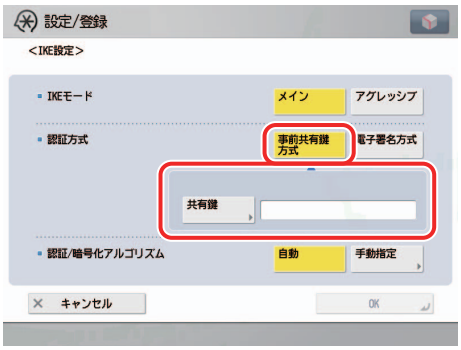
［メイン］：　　メインモードを設定します。IKE セッション自体を暗号化するため、セキュリティーが強固です。
［アグレッシブ］：アグレッシブモードを設定します。暗号化されないため IKE セッションが高速化します。

4 IKE 設定画面で IKE フェーズ 1 に使用する認証方式を指定します。

事前共有鍵方式を選択する場合は、事前共有鍵を準備してください。電子署名方式を選択する場合は、事前に CA 証明書の登録（→ e- マニュアル > セキュリティ）、鍵ペアファイルと証明書ファイルのインストール（→ e- マニュアル > リモート UI）を行ってください。

● 事前共有鍵方式を設定する：

□ <認証方式>の［事前共有鍵方式］→［共有鍵］を押して、事前共有鍵を入力します。



● 電子署名方式を設定する：

□ <認証方式>の［電子署名方式］→［鍵と証明書］を押して、使用したい鍵ペアを選択したあと［使用鍵に設定］を押してIPSecに使用する鍵ペアを登録します。

「Device Signature Key」（機器署名用鍵ペア）、および「AMS」（アクセス制限用鍵ペア）は使用鍵に設定できません。

重要　署名アルゴリズムの「RSA-MD5」、「RSA-MD2」を使用している鍵ペアを選択した場合に IPSec 通信を FIPS（連邦情報処理規格：Federal Information Processing Standards）140-2 に準拠させたときは、この鍵ペアを設定したポリシーは無効（OFF）になります。FIPS 140-2 に準拠した暗号方式を使用できるようになりました（暗号方式を FIPS 140-2 準拠にする）（P.33）

メモ
- 鍵と証明書画面で鍵ペアを選択したあと［証明書詳細情報］を押すことによって、証明書の内容を確認できます。また、証明書詳細情報画面で［証明書検証］を押して証明書を検証することもできます。
- 鍵と証明書画面で<使用状況>に「使用中」と表示されている鍵ペアを選択したあと［使用先を表示］を押すことによって、鍵ペアの用途を確認できます。

5 IKE 設定画面で、IKE フェーズ 1 に使用する認証と暗号化のアルゴリズムを選択します。

● 認証と暗号化のアルゴリズムを指定する：

□ <認証/暗号化アルゴリズム>の［手動指定］を押して、IKE SAに適用する認証と暗号化のアルゴリズムを選択します。

< 認証 > の［SHA1］：	認証アルゴリズムに SHA1（Secure Hash Algorithm 1）を設定します。160 ビットのハッシュ値をサポートします。
< 認証 > の［SHA2］：	認証アルゴリズムに SHA2（Secure Hash Algorithm 2）を設定します。256 ビット、および 384 ビットのハッシュ値をサポートします。
< 暗号 > の［3DES-CBC］：	暗号化アルゴリズムに 3DES (Triple Data Encryption Standard)、暗号モードに CBC (Cipher Block Chaining) を設定します。3DES は、DES を 3 回行うため処理時間は長くなりますが、暗号の強度は高まります。CBC では、前のブロックの暗号化結果が次のブロックに連鎖され、暗号を解読しにくくすることができます。
< 暗号 > の［AES-CBC］：	暗号化アルゴリズムに AES（Advanced Encryption Standard）、暗号モードに CBC を設定します。AES は、128、192、および 256 ビットの鍵長の暗号鍵をサポートします。サポートする鍵長が長いため、暗号の強度が高まります。CBC では、前のブロックの暗号化結果が次のブロックに連鎖され、暗号を解読しにくくすることができます。
<DH グループ > の［Group1(762)］：	DH（Diffie-Hellman）鍵交換方式に Group1 を設定します。Group1 では、762 ビットの MODP（Modular Exponentiation）をサポートします。
<DH グループ > の［Group2(1024)］：	DH 鍵交換方式に Group2 を設定します。Group2 では 1024 ビットの MODP をサポートします。
<DH グループ > の［Group14(2048)］：	DH 鍵交換方式に Group14 を設定します。Group14 では 2048 ビットの MODP をサポートします。
<DH グループ > の［ECDH-P256］：	256 ビットの鍵長の ECDH（Elliptic Curve Diffie Hellman）鍵交換方式を設定します。
<DH グループ > の［ECDH-P384］：	384 ビットの鍵長の ECDH 鍵交換方式を設定します。

● 認証と暗号化のアルゴリズムを自動で設定する：

□ <認証/暗号化アルゴリズム>の［自動］を押します。

認証と暗号化のアルゴリズムの優先順位は、以下のとおりです。

優先順位	認証アルゴリズム	暗号化アルゴリズム	DH 鍵交換方式
1	SHA1	AES（128 ビット）	Group2
2	SHA2（256 ビット）		
3	SHA2（384 ビット）		
4	SHA1	AES（192 ビット）	
5	SHA2（256 ビット）		
6	SHA2（384 ビット）		
7	SHA1	AES（256 ビット）	
8	SHA2（256 ビット）		
9	SHA2（384 ビット）		
10	SHA1	3DES	
11	SHA2（256 ビット）		
12	SHA2（384 ビット）		

6 **登録画面で［IPSec 通信設定］を押して、SA の有効時間や有効タイプ、および PFS（Perfect Forward Security）を指定します。**

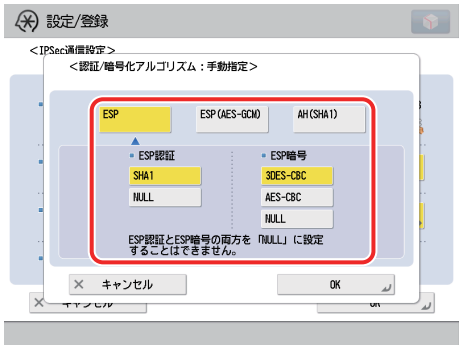
< 有効期間 > の［時間］と［サイズ］：	生成される IKE SA と IPSec SA の有効期間を指定します。有効期間内のセキュリティーポリシーが適用された IPSec 通信では鍵交換のネゴシエーションを行わずにパケットを送受信できます。［時間］と［サイズ］のいずれかを必ず設定してください。両方を設定した場合は、［時間］と［サイズ］のどちらか一方が設定値に達したときに SA の有効期限が切れます。
<PFS> を「ON」：	PFS 機能を有効にすると、1 つの暗号鍵が第三者に知られてしまっても、他の暗号鍵には被害が波及しないため、機密性が向上します。
<PFS> を「OFF」：	PFS 機能を無効にした場合、1 つの暗号鍵が第三者に知られると、他の暗号鍵も予測される怖れがあります。<PFS> を「ON」に設定した場合は、通信先の PFS も有効にする必要があります。

7 IPSec 通信設定画面で、IKE フェーズ 2 に使用する認証と暗号化のアルゴリズムを選択します。

● **認証と暗号化のアルゴリズムを指定する：**

□ <認証/暗号化アルゴリズム>の［手動指定］を押します。

□ 認証方式のアルゴリズムを設定します。



設定できる認証と暗号化のアルゴリズムは、以下のとおりです。

認証方式	説明
［ESP］	<ESP 認証 > ［SHA1］：ESP 認証方式のアルゴリズムに SHA1 を設定します。160 ビットのハッシュ値をサポートします。 ［NULL］：ESP 認証方式のアルゴリズムを設定しません。
	<ESP 暗号 > ［3DES-CBC］：ESP 暗号化方式のアルゴリズムに 3DES、暗号モードに CBC を設定します。3DES は、DES を 3 回行うため処理時間は長くなりますが、暗号の強度は高まります。CBC では、前のブロックの暗号化結果が次のブロックに連鎖され、暗号を解読しにくくすることができます。 ［AES-CBC］：ESP 暗号化方式のアルゴリズムに AES、暗号モードに CBC を設定します。AES は、128、192、および 256 ビットの鍵長の暗号鍵をサポートします。サポートする鍵長が長いため、暗号の強度が高まります。CBC では、前のブロックの暗号化結果が次のブロックに連鎖され、暗号を解読しにくくすることができます。 ［NULL］：ESP 暗号化方式のアルゴリズムを設定しません。
［ESP(AES-GCM)］	128 ビット、192 ビット、および 256 ビットの鍵長の AES-GCM（Advanced Encryption Standard - Galois Counter Mode）を設定します。AES-GCM は、暗号化と認証を同時に行うアルゴリズムです。
［AH(SHA1)］	AH 認証方式のアルゴリズムに SHA1 を設定します。160 ビットのハッシュ値をサポートします。

重要 IPSec 通信を FIPS 140-2 に準拠させた場合は、認証方式に［ESP(AES-GCM)］を設定しているポリシーは無効（OFF）になります。同時に、このポリシーの認証アルゴリズムは SHA1 へ、暗号アルゴリズムは 3DES-CBC へ自動的に変更されます。FIPS 140-2 に準拠した暗号方式を使用できるようになりました（暗号方式を FIPS 140-2 準拠にする）（P.33）

● **認証と暗号化のアルゴリズムを自動で設定する：**

□ <認証/暗号化アルゴリズム>の［自動］を押します。

ESP 認証・暗号化方式が設定されます。認証と暗号化のアルゴリズムの優先順位は、以下のとおりです。

優先順位	ESP 認証方式のアルゴリズム	ESP 暗号化方式のアルゴリズム
1	SHA1	AES（128 ビット）
2	SHA1	AES（192 ビット）
3	SHA1	AES（256 ビット）
4	SHA1	3DES

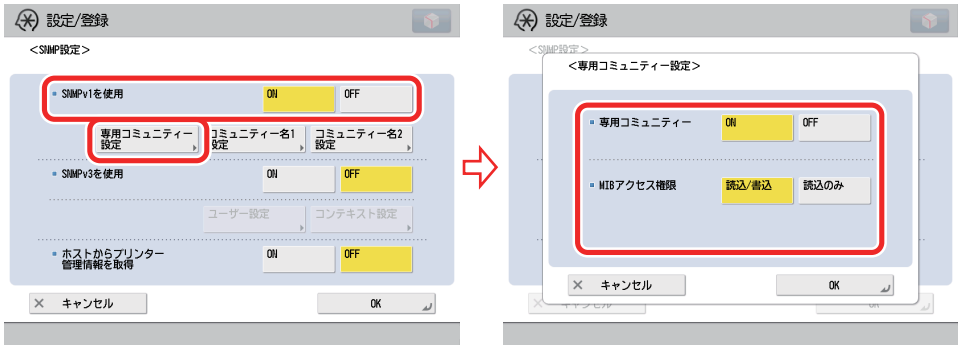
SNMP の専用コミュニティーを設定できるようになりました
SNMPv3 の暗号化アルゴリズムの強度が増しました

メモ　SNMP 設定の詳細については、e- マニュアル > ネットワークを参照してください。

SNMPv1 で専用コミュニティーを設定する

1 **ネットワーク画面の［SNMP 設定］で、SNMPv1 を設定します。**

2 **［専用コミュニティー設定］→［ON］を押したあと、<MIB アクセス権限 > を設定します。**



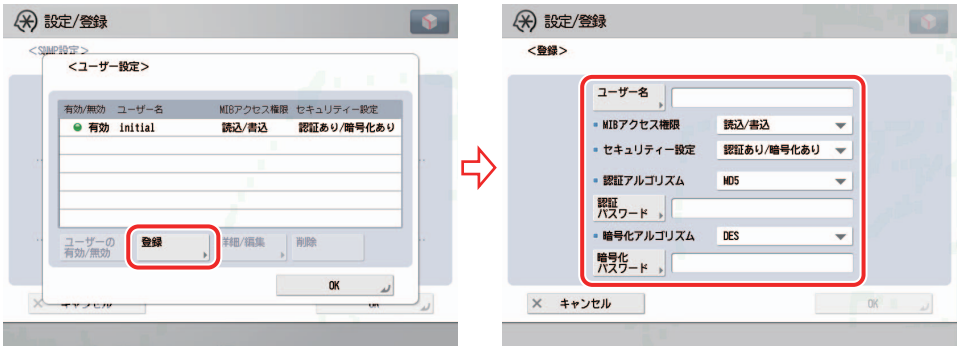
SNMPv3 ユーザーを追加する

1 **ネットワーク画面の［SNMP 設定］で、SNMPv3 を設定します。**

2 **<SNMPv3 を使用 > を「ON」にして、［ユーザー設定］→［登録］を押したあと、ユーザー名、MIB アクセス権限、セキュリティーを設定します。**

- セキュリティー設定ドロップダウンリストから[認証あり/暗号化あり] を選択した場合：
  認証アルゴリズムを以下から選択して、認証パスワードを入力します。
  - MD5
  - SHA1

  暗号化アルゴリズムを以下から選択して、暗号化パスワードを入力して［OK］を押します。
  - DES
  - AES
- セキュリティー設定ドロップダウンリストから［認証あり/暗号化なし] を選択した場合：
  認証アルゴリズムを以下から選択して、認証パスワードを入力して［OK］を押します。
  - MD5
  - SHA1
- セキュリティー設定ドロップダウンリストから［認証なし/暗号化なし］を選択した場合：
  ［OK］を押します。



PDF の下限バージョンを指定できるようになりました（PDF の下限バージョン指定）

PDF 生成時に付与するバージョンの下限を指定できます。

重要　本設定では、PDF 生成時に付与され得るバージョン範囲の下限を指定します。PDF に設定する機能によっては、本設定で指定したバージョンよりも上になる場合があります。

メモ　I ファクスの送信では、この設定は無効になります。

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［共通］→［ファイル生成］→［PDF の下限バージョン指定］を押します。**

2 **［指定しない］、［1.5］、［1.6］または［1.7］を選択したあと、［OK］を押します。**

Rights Management サーバーを設定できるようになりました（Rights Management サーバー設定）

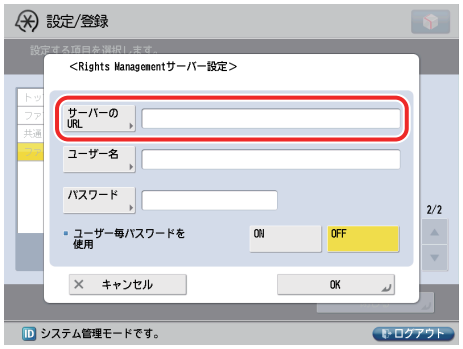
本機は、Adobe LiveCycle Rights Management との連携によって閲覧権限などが管理された PDF を生成できます。ここでは、Adobe LiveCycle Rights Management サーバーに接続するときの設定について説明しています。

Rights Management サーバーを利用した PDF を生成する手順については、「［スキャンして送信］、［スキャンして保存］で Rights Management サーバーのポリシー適用 PDF を生成できるようになりました」（→ P.38）を参照してください。

重要
- 本機能を設定するには、Adobe LiveCycle Rights Management ESまたはAdobe LiveCycle Rights Management ES2 が必要です。詳細については、お買い求めの販売店へお問い合わせください。
- 本機能を設定するには、Adobe LiveCycle Rights Managementサーバーと本製品がイントラネットやインターネットで接続されている必要があります。

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［共通］→［ファイル生成］→［Rights Management サーバー設定］を押します。**

2 **Adobe LiveCycle Rights Management サーバーの URL を入力します。**



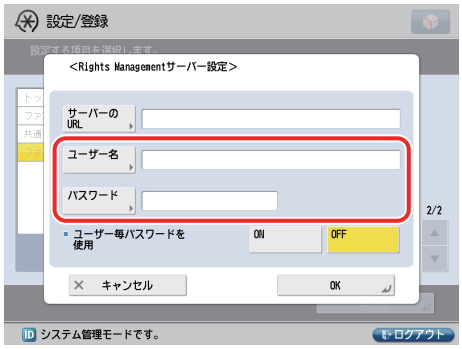
サーバーの URL は、「https://<IP アドレスまたはホスト名 >:< ポート番号 >」の形式で入力してください。

入力例：

- https://192.168.1.21:8443
- https://RMServer.host.canon.jp:8443

重要　IP アドレス、ホスト名、ポート番号については、Adobe LiveCycle Rights Management サーバーの管理者にお問い合わせください。

3 必要に応じて、Adobe LiveCycle Rights Management サーバーにログインするためのユーザー名とパスワードを入力します。



手順 4 で < ユーザー毎パスワードを使用 > を「ON」にする場合、ここにユーザー名とパスワードを入力する必要はありません。

< ユーザー毎パスワードを使用 > を「OFF」にする場合でも、ユーザー名とパスワードをジョブごとに毎回入力する場合は、空欄にします。

4 < ユーザー毎パスワードを使用 > の「ON」または「OFF」を選択します。

本機能を利用した PDF を生成するときは、Adobe LiveCycle Rights Management サーバーへのログイン画面が表示されます。

手順 3 でユーザー名とパスワードを入力して、< ユーザー毎パスワードを使用 > が「OFF」の場合、ログイン画面にはユーザー名とパスワードが自動入力された状態で表示されます。ユーザー名とパスワードが未入力のときは、ジョブごとに毎回入力する必要があります。

< ユーザー毎パスワードを使用 > が「ON」の場合は、Adobe LiveCycle Rights Management サーバーにログインするためのユーザー名とパスワードを、ジョブごとに入力します。

5 ［OK］を押します。

プリンタードライバーからのジョブ制限を詳細に指定できるようになりました

プリンタードライバーからのジョブを受け付けるかどうかの設定をします。

メモ　本機能の設定をする場合は、管理者としてログインする必要があります。管理者の種類については、e- マニュアル > セキュリティを参照してください。

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［プリンター］→［プリンタージョブの制限］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

選択する項目

［ON］：　プリンタードライバーからのジョブを制限します。
［OFF］：　プリンタードライバーからのジョブを制限しません。

● **［ON］を選択した場合：**

□ ［プリント保留］または［プリント保留＋セキュアプリント］を選択したあと、［OK］を押します。

< 許可するジョブの選択 >

［プリント保留］：　ボックスへの保存、合成のフォーム登録を許可します。
［プリント保留＋セキュアプリント］：　ボックスへの保存、合成のフォーム登録、セキュアプリントを許可します。

● **［OFF］を選択した場合：**

□ ［OK］を押します。

メールアドレスの入力を補完できるようになりました（メールアドレスの入力補完）

E メールアドレスを新規に入力するときに、本製品のアドレス帳に登録されている E メールアドレスから前方一致するアドレスを表示します。

メモ
- あらかじめ本製品のアドレス帳にEメールアドレスを登録しておく必要があります。
- アクセス番号で制限されているEメールアドレスは表示されません。

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［E メール /I ファクス設定］→［メールアドレスの入力補完］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

選択する項目

［ON］：E メールアドレスを新規に入力するときに、本製品のアドレス帳に登録されている E メールアドレスから前方一致するアドレスを表示します。
［OFF］：E メールアドレスを新規に入力するときに、本製品のアドレス帳に登録されている E メールアドレスから前方一致するアドレスを表示しません。

ファクスのデフォルト画面を変更できるようになりました（デフォルト画面の変更）

メインメニューから [ファクス] を選択したとき、オートクリアがかかったとき、（リセット）を押したときなどに、［標準］または［アドレス帳］のどの画面を表示させるかを設定します。

重要　この機能を使用するためには、リモートファクスの設定が必要です。詳細は、P.34 を参照してください。

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［デフォルト画面の変更］を押します。**

2 **［標準］または［アドレス帳］を選択したあと、［OK］を押します。**

メモ　［アドレス帳］を選択した場合は、表示するアドレス帳の種類を選択できます。詳しくは、imageRUNNER ADVANCE（リモートファクスサーバー機）の e- マニュアル > 設定 / 登録を参照してください。

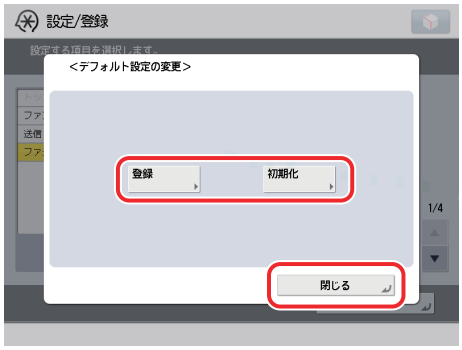
ファクス機能のデフォルト設定を変更できるようになりました（デフォルト設定の変更）

［ファクス］ファンクションのデフォルトとして登録されている設定を変更できます。

重要　この機能を使用するためには、リモートファクスの設定が必要です。詳細は、P.34 を参照してください。

1 **登録するモードをあらかじめ設定したあと、（設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［デフォルト設定の変更］を押します。**

2 **［登録］または［初期化］を選択したあと、［はい］→［閉じる］を押します。**



［登録］：現在のファクスの設定がデフォルトに設定されます。

［初期化］：デフォルトを工場出荷時の設定に戻します。

「その他の機能」のショートカットボタンを登録できるようになりました（「その他の機能」のショートカット登録）

ファクス画面に表示するショートカットボタンを登録します。［その他の機能］から、任意のボタンを 4 個まで登録できます。使用することが多い機能を登録しておくと便利です。

重要　この機能を使用するためには、リモートファクスの設定が必要です。詳細は、P.34 を参照してください。

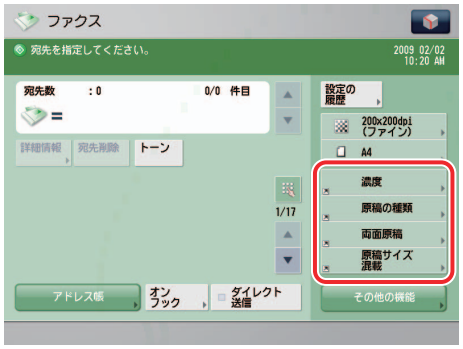
1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［「その他の機能」のショートカット登録］を押します。**

2 **ショートカットボタンを選択したあと、ショートカットボタンに登録する機能を選択します。**

ショートカットボタンの登録を解除するときは、［割り当てなし］を選択します。

3 **［OK］を押します。**

例）登録されたショートカットボタンは、下の画面のように表示されます。



個人の名称を登録できるようになりました（発信人の名称登録）

部や課の名称、個人名などを発信人の名称に登録する方法を説明します。

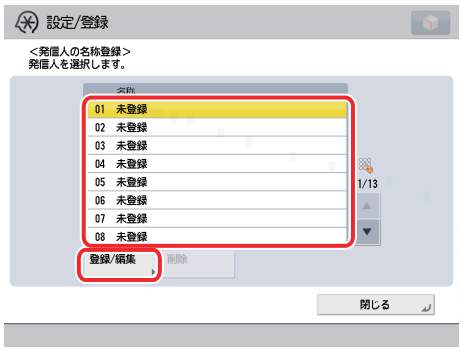
ファクスの場合に、発信元記録として相手先に表示／プリントできます。

重要　この機能を使用するためには、リモートファクスの設定が必要です。詳細は、P.34 を参照してください。

メモ　ユーザー略称の代わりに発信人の名称を表示／プリントする場合は、［その他の機能］から行います。（→ imageRUNNER ADVANCE（リモートファクスサーバー機）の e- マニュアル > ファクス）

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［発信人の名称登録］を押します。**

2 **発信人の名称を登録する番号（項目）を選択したあと、［登録 / 編集］を押します。**



発信人の名称は、99 件（01 ～ 99）まで登録できます。

登録してある発信人の名称を削除するには、削除する発信人の名称の番号を選択したあと、［削除］を押します。複数の発信人の名称を削除する場合は、1 つずつ選択して削除してください。

3 **発信人の名称を入力したあと、［OK］を押します。**

認証ユーザー名を発信人として使用できるようになりました（認証ユーザー名を発信人として使用）

SSO-H による認証でログインしている場合は、発信人の名称リストの「100」にログインユーザー名が表示されます。本設定を「ON」にすると、「100」のログインユーザー名が発信人名称の初期値になります。

重要　この機能を使用するためには、リモートファクスの設定が必要です。詳細は、P.34 を参照してください。

メモ
- SSO-HによるログインサービスについてはimageRUNNER ADVANCE（リモートファクスサーバー機） のe-マニュアル> MEAPを参照してください。
- 本設定が「OFF」の場合は「00」のユーザー略称が発信人名称の初期値となります。ユーザー略称の登録については、imageRUNNER ADVANCE（リモートファクスサーバー機） のe-マニュアル > 設定/登録を参照してください。

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［認証ユーザー名を発信人として使用］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

ファクス送信結果レポートを設定できるようになりました（ファクス送信結果レポート）

ファクス送信結果レポートとは、目的の相手先へ正常に送信できたかを確認するためのレポートです。ファクス送信結果レポートは、文書を送信したあとに自動的にプリントできます。また、送信エラーが発生したときのみプリントするように設定することもできます。

ファクス送信結果レポートに送信原稿の一部をつけてプリントすることもできます。

重要　この機能を使用するためには、リモートファクスの設定が必要です。詳細は、P.34 を参照してください。

メモ
- ［ファンクション設定］（設定／登録）の、［用紙カセット自動選択のON/OFF］の［その他］で「ON」に設定している給紙箇所に、 A3、B4、A4、A4Rの普通紙、再生紙、薄紙または色紙がセットされているときにレポートをプリントできます。ただし、［用紙カセット自動選択のON/OFF］で、［コピー］の［用紙の種類を考慮する］を「ON」に設定している場合は、色紙に設定されている給紙箇所からはプリントできません。（→imageRUNNER ADVANCE（リモートファクスサーバー機） のe-マニュアル > 設定/登録）
- ［ファンクション設定］（設定／登録）の送信結果レポートを「エラー時のみ」または「ON」に設定している場合は、ファクス送信結果レポートと共に、送信結果レポートもプリントされます。
- 本設定を「ON」にしてファクス同報送信を行った場合、ファクスマルチ送信結果レポートが出力されます。

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［ファクス送信結果レポート］を押します。**

2 **［エラー時のみ］、［ON］または［OFF］を選択します。**

● **［エラー時のみ］または［ON］を選択した場合：**

□ 送信原稿の表示の［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。

［ON］：　ファクス送信結果レポートに原稿の一部をつけてプリントします。
［OFF］：　ファクス送信結果レポートに送信原稿をつけずにプリントします。

● **［OFF］を選択した場合：**

□ ［OK］を押します。

ファクス送信結果レポートはプリントされません。

ファクス通信管理レポートを設定できるようになりました（ファクス通信管理レポート）

ファクスの送信の履歴をレポートとしてプリントします。レポートは、40 件の文書の送信が終了した時点でプリントするか、指定した時刻にプリントするかを選択ができます。

ファクス通信管理レポートを手動でプリントする場合は、状況確認／中止画面から行います。（→ imageRUNNER ADVANCE（リモートファクスサーバー機）の e- マニュアル > 状況確認 / 中止）

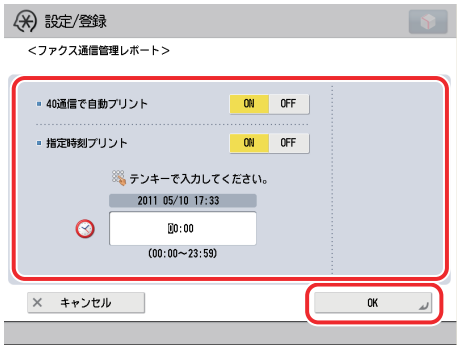
重要　この機能を使用するためには、リモートファクスの設定が必要です。詳細は、P.34 を参照してください。

メモ

- ［ファンクション設定］（設定／登録）の、［用紙カセット自動選択のON/OFF］の［その他］で「ON」に設定している給紙箇所に、 A3、B4、A4、A4Rの普通紙、再生紙、薄紙または色紙がセットされているときにレポートをプリントできます。ただし、［用紙カセット自動選択のON/OFF］で、［コピー］の［用紙の種類を考慮する］を「ON」に設定している場合は、色紙に設定されている給紙箇所からはプリントできません。（→imageRUNNER ADVANCE（リモートファクスサーバー機） のe-マニュアル > 設定/登録）
- ［管理設定］（設定／登録）の［ジョブ履歴の表示］を「OFF」に設定している場合、表示されません。
- ［管理設定］（設定／登録）の［ジョブ履歴の表示］の設定を「OFF」から「ON」に変えた場合、下記の設定が自動的に「OFF」になります。
  - 40通信で自動プリント
  - 指定時刻プリント
- プリント機能が使用できないことを示す「プリンターの点検が必要です。（担当サービスに連絡）」というメッセージが表示された場合、復旧後のファクス通信管理レポートには、最新40件までの通信履歴が印字されます。

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［ファクス通信管理レポート］を押します。**

2 **各項目を設定したあと、［OK］を押します。**



<40 通信で自動プリント >：

［ON］：　40 件の文書を通信し終えた時点でレポートをプリントします。
［OFF］：　40 通信で自動プリントは設定されません。

< 指定時刻プリント >：

［ON］：　指定した時刻にレポートをプリントします。
［OFF］：　指定時刻プリントは設定されません。

時刻の表示形式は 24 時間制です。時刻は 0 を含む 4 桁の数字を入力します。

例：　7 時 5 分 → 0705
　　23 時 18 分 → 2318

入力を間違えたときは、再度 4 桁の数字を入力します。

指定時刻までに 40 通信以上が行われたときは、新しいものから 40 通信分のレポートをプリントします。

モデムダイヤルインを設定できるようになりました（モデムダイヤルイン設定）

［モデムダイヤルイン設定］を「ON」にすると、1 本の電話回線に 2 つの電話番号を持たせ、2 回線接続しているように使用できます。FAX ボードの装着状態により、最大で 8 回線接続しているようにファクスを送受信できます。

重要　この機能を使用するためには、あらかじめ以下の設定が必要です。
- リモートファクスの設定がされている（→P.34）
- リモートファクスサーバー機の［モデムダイヤルイン設定］で、回線が増設されている

メモ
- リモートFAX送信キットでファクス機能を使用している場合、本機能の設定をリモートファクスサーバー機と同じにしてください。
- リモートFAX送信キットでファクス機能を使用している場合、表示される回線数は以下の設定に応じて決まります。
  - ［ファンクション設定］（設定／登録）の［リモートファクス送信設定］にある［送信回線数］（→P.25）

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［モデムダイヤルイン設定］を押します。**

2 **各回線の［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

リモートファクス送信を設定できるようになりました（リモートファクス送信設定）

本機をリモートファクスのクライアント機として使う場合の設定をします。

重要
- リモートファクスサーバー機で部門別ID管理を設定している場合は、リモートファクスサーバー機に登録されている部門IDと暗証番号でリモートファクスクライアント機にログインすると、送信できます。
- この機能を使用するためには、あらかじめサーバー機で設定をしておく必要があります。詳細は、P.34を参照してください。

■ リモートファクスサーバーアドレス

サーバー側の imageRUNNER ADVANCE シリーズ（リモートファクスサーバー）の IP アドレスまたはホスト名を指定します。

IP アドレスを指定する場合は、IPv4（Internet Protocol Version 4）アドレスと IPv6（Internet Protocol Version 6）アドレスの登録ができます。

■ 送信タイムアウト

送信タイムアウトの時間を設定しておくと、設定時間が経過した場合に、リモートファクスサーバーから応答がないときは、リモートファクス送信を中止します。

■ 送信回線数

リモートファクスを送信する際に選択できる回線の数を設定します。回線数はリモートファクスサーバー機に接続されている電話回線の数と同じにしてください。

■ 回線指定

リモートファクスを送信するときに使用する回線を指定します。

［その他の機能］の［回線選択］や、アドレス帳で宛先に登録されている送信回線の設定が自動選択になっている場合は、ここで設定した回線が送信に使用されます。

メモ
- リモートファクスサーバー機がモデムダイヤルイン設定で増設している回線は、［送信回線数］で設定する回線数には含めないでください。（→imageRUNNER ADVANCE（リモートファクスサーバー機）のe-マニュアル > 設定/登録）
- リモートファクスサーバー機がモデムダイヤルイン設定で増設している回線は、リモートファクスクライアント機側のモデムダイヤルイン設定をリモートファクスサーバー機と同じにすることによって、リモートファクス送信時に選択できるようになります。

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［リモートファクス送信設定］を押します。**

● リモートファクスサーバーアドレスを指定する場合：

□ ［リモートファクスサーバーアドレス］を押します。

□ ホスト名またはIPアドレスを入力したあと、［OK］を押します。

ホスト名とは、サービスを提供しているホストコンピューターをネットワーク上で識別するためにつけられた固有の名前です。リモートファクスサーバーの名前を入力します。

● 送信タイムアウトを設定する場合：

□ ［送信タイムアウト］を押します。

□ ［−］［+］を押して送信タイムアウト時間を設定したあと、［OK］を押します。

● 送信回線数を選択する場合：

□ ［送信回線数］を押します。

□ 使用する回線数を設定します。

● 回線を指定する場合：

□ ［回線指定］を押します。

□ ［自動選択］または優先的に使用する回線を選択します。

ボックスのセキュリティーを設定できるようになりました（ボックスのセキュリティー設定）

ボックスに保存されるファイルのセキュリティーを向上させる設定を行います。

ボックスの暗証番号を 7 桁固定にする

ボックスにファイルを保存するときの暗証番号は 1 桁から設定できます。本機能を「ON」に設定すると、暗証番号を 7 桁に固定できます。

重要 本機能を「ON」に設定する前に 7 桁未満の暗証番号を登録していた場合、その暗証番号をそのまま使用することは可能です。ただし、セキュリティーを維持するために、7 桁で登録しなおしてください。

メモ
- 本機能を「ON」に設定したときは、システムボックス、ファクスボックスの暗証番号も7桁固定となります。
- ボックスの暗証番号を設定する方法については、e-マニュアル > 設定/登録を参照してください。
- システムボックス、ファクスボックスの暗証番号を設定する方法については、e-マニュアル > 設定/登録を参照してください。

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［ファイル保存 / 利用］→［ボックス設定］を押します。**

2 **［ボックスのセキュリティー設定］→［ボックス暗証番号 7 桁固定 / アクセス制限］を押します。**

3 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

メモ　設定変更は、本体の主電源スイッチを入れなおしたあとに有効になります。主電源スイッチを入れなおす方法は、e- マニュアル > お使いになる前にを参照してください。

プリンタードライバーから保存時のプリント設定の変更を制限する

［ファンクション設定］（設定／登録）の < プリンタードライバーから保存時のプリント > は、コンピューターからプリンタードライバー経由でファイルをボックスに保存するときに保存内容をプリントするかどうかを設定します。（→ e- マニュアル > 設定 / 登録）本機能を「OFF」に設定すると、< プリンタードライバーから保存時のプリント > の設定を変更できなくなります。

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［ファイル保存 / 利用］→［ボックス設定］を押します。**

2 **［ボックスのセキュリティー設定］→［プリンタードライバーから保存時のプリントの表示］を押します。**

3 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

メモ　設定変更は、本体の主電源スイッチを入れなおしたあとに有効になります。主電源スイッチを入れなおす方法は、e- マニュアル > お使いになる前にを参照してください。

メモリーメディアへのファイル保存／プリントを制限できるようになりました（メモリーメディア設定）

メモリーメディアへのファイルの保存や、メモリーメディアにあるファイルのプリントを制限します。

［プリント機能を使用］を「OFF」に設定している場合

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［ファイル保存 / 利用］→［メモリーメディア設定］→［スキャン / プリント機能を使用］を押します。**

2 **［スキャン機能を使用］または［プリント機能を使用］を選択したあと、［ON］または［OFF］を選択します。**

ホールド機能を使用できるようになりました（ホールド機能を使用）

ホールド機能を使用するかどうかを設定します。

この機能を使用するために必要なオプションについては、P. 76 を参照してください。

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［ホールド］→［ホールド機能を使用］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択します。**

ホールドジョブの自動削除までの時間を設定できるようになりました（ホールドジョブの自動削除までの時間）

ホールドジョブを自動的に削除するまでの時間を設定できます。ホールドジョブが投入されたあと、またはジョブチケット編集／ジョブ操作が行われたあと、一定時間でホールドジョブが自動的に削除されます。

この機能を使用するために必要なオプションについては、P. 76 を参照してください。

メモ　本製品の日付や時刻を変更すると、ホールドジョブを自動削除するまでの経過時間に影響します。

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［ホールド］→［ホールドジョブの自動削除までの時間］を押します。**

2 **［▼］［▲］を押してホールドジョブを自動削除するまでの時間を設定して、［OK］を押します。**

アドレス帳にファクス番号を登録できるようになりました

ファクス番号や F コード、パスワードなどを登録できます。

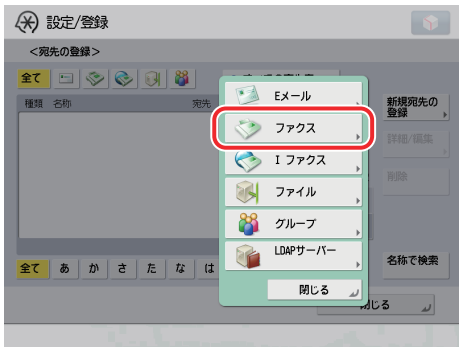
重要　この機能を使用するためには、リモートファクスの設定が必要です。詳細は、P.34 を参照してください。

メモ　リモート FAX 送信キットでファクス機能をお使いの場合、ECM 送信、送信スピード、国際送信については、リモートファクスサーバー側の設定に従って送信されます。

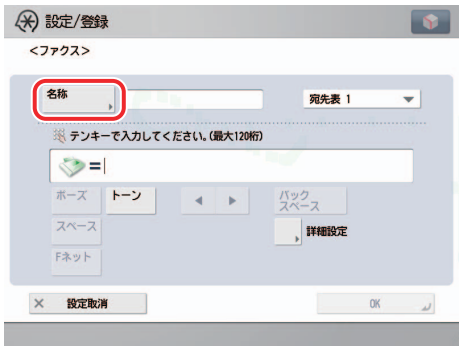
1 **（設定／登録）→［宛先設定］→［宛先の登録］を押します。**

2 **［新規宛先の登録］を押します。**

3 ［ファクス］を押します。



4 ［名称］を押します。



5 宛先の名称を入力したあと、［次へ］を押します。

6 宛先の名称のフリガナを入力したあと、［OK］を押します。

前の手順で入力した文字のフリガナが、あらかじめ入力されています。

メモ

- アドレス帳画面で［あ］、［か］、［さ］などの目次キーを押すと、フリガナの1文字目をもとに宛先を限定し、並べ替えて表示できます。
- アドレス帳画面で［名称で検索］を押すと、アドレス帳の絞込み画面が表示されます。フリガナをもとに、半角24文字までのカタカナ、記号を使用して宛先を絞り込むことができます。
- 宛先の絞込みについては、imageRUNNER ADVANCE（リモートファクスサーバー機） のe-マニュアル > ファクスを参照してください。

7 登録先宛先表指定ドロップダウンリストを押したあと、宛先表 1 ～ 10 のいずれかを選択します。

宛先表 1 ～ 10 は、アドレス帳を 10 個に分けているものです。宛先をグループ分けするときなどに便利です。

ここで選択した宛先表 1 ～ 10 に、ファクス番号が登録されます。

8 ⓪～⑨、⊛、#（テンキー）でファクス番号を入力します。

［ポーズ］：　海外への送信のときに、国際電話識別番号などの次や、ファクス番号の末尾で押します。数字と数字の間で［ポーズ］を押すと「p」と表示され、数字の末尾で［ポーズ］を押すと「P」と表示されます。（→ imageRUNNER ADVANCE（リモートファクスサーバー機）の e- マニュアル > 設定 / 登録）

［トーン］：　ダイヤル回線から、プッシュ信号を入力する前に押します。［トーン］を押すと、「T」と表示されます。ダイヤル回線に接続している場合でも、プッシュホンサービスなどを利用できます。（→ imageRUNNER ADVANCE（リモートファクスサーバー機）の e- マニュアル > 設定 / 登録）

［◀］［▶］：　カーソルを移動するときに押します。

［バックスペース］：　数字を押し間違えたときに押します。カーソル位置の手前の数字が削除されて、正しい数字が入力できます。

［スペース］：　局番とファクス番号の間などにスペースを入力するときに押します。

［詳細設定］：　F コード、パスワード、ECM 送信、送信スピード、国際送信を設定するときに押します。必要に応じて設定してください。

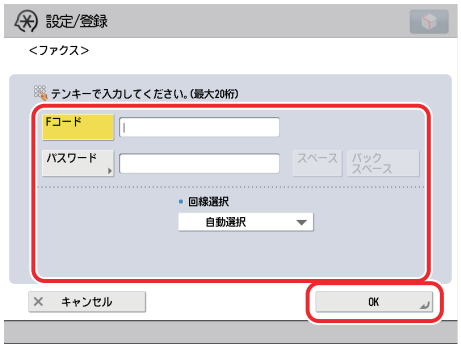
［F ネット］：　F ネットのファクス番号を入力するときに押します。［F ネット］を押すと、「.」と表示されます。（→ imageRUNNER ADVANCE（リモートファクスサーバー機）の e- マニュアル > ファクス）

重要　ポーズ、スペース、F ネットはファクス番号の先頭に入力できません。

メモ　ファクス番号の末尾にポーズを入れた場合は、ポーズ時間は 10 秒固定になります。

● **［詳細設定］を押した場合：**

□ 各項目を設定したあと、［OK］を押します。



［F コード］、［パスワード］：

［F コード］を押して、⓪～⑨、⊛、#（テンキー）で入力します。

［パスワード］を押して、⓪～⑨、⊛、#（テンキー）で入力します。［確認入力］を押して、同じパスワードを入力したあと、［OK］を押します。

スペースを入力するときは［スペース］を押します。

［バックスペース］を押すと、最後の 1 文字が削除されます。

相手先が目的の F コードにパスワードを設定していない場合は、パスワードを入力する必要はありません。

< 回線選択 >：

回線選択ドロップダウンリストを押して、回線を選択します。

重要　F コードを付加して送信する場合は、送信先のファクス機が ITU-T（国際電気通信連合の通信規格などを制定する部門）規格に準拠した F コード通信に対応している必要があります。

メモ　リモート FAX 送信キットでファクス機能を使用している場合、選択できる回線数は以下の設定に応じて決まります。
- ［ファンクション設定］（設定／登録）の［リモートファクス送信設定］にある［送信回線数］（→P.25）
- ［ファンクション設定］（設定／登録）の［モデムダイヤルイン設定］（→P.25）

9 **宛先の登録を終了します。**

● **アクセス番号管理をしている場合：**

□ ［次へ］を押します。

□ ［アクセス番号］を押します。

□ ［アクセス番号］を押したあと、⓪～⑨（テンキー）でアクセス番号を入力します。

□ ［確認入力］を押して、同じアクセス番号を入力したあと、［OK］→［OK］を押します。

アクセス番号を指定しない場合は、空欄のまま［OK］を押します。

● **アクセス番号管理をしていない場合：**

□ ［OK］を押します。

宛先表エクスポート時にパスワードを含めるかどうか設定できるようになりました

リモート UI で宛先表をエクスポートするときに、宛先に登録されているパスワードを含めるかどうか設定できます。

メモ
- エクスポート対象とするかどうか設定できるのは、以下のパスワードです。
  - ファイルサーバー宛先（外部公開時のアドバンスドボックスを含む）の認証パスワード
- 宛先表のエクスポートについては、「宛先表をファイルに保存する（エクスポート）」（→ P.62）を参照してください。

1 **（設定／登録）→［宛先設定］→［アドレス帳エクスポートの対象にパスワードを含める］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

選択する項目

［ON］： エクスポートするファイルにパスワードを含めます。
［OFF］： エクスポートするファイルにパスワードを含めません。

重要 本設定が「OFF」のときは、インポート先で宛先にパスワードを登録しなおす必要があります。

ファクス送信回線を自動選択に補正できるようになりました（ファクス送信回線を自動選択に補正）

リモートアドレス帳から取得したファクスの宛先に送信する場合、宛先に登録された送信回線を無効にして、自動で選択するかどうか設定します。

重要 この機能を使用するためには、リモートファクスの設定が必要です。詳細は、P.34 を参照してください。

1 **（設定／登録）→［宛先設定］→［リモートアドレス帳取得設定］→［ファクス送信回線を自動選択に補正］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

選択する項目

［ON］： ファクス送信回線を自動選択に補正します。
［OFF］：ファクス送信回線を自動選択に補正しません。

SSL 暗号化通信に必要な鍵ペアを生成する際に、署名アルゴリズムと鍵のアルゴリズムを選択できるようになりました

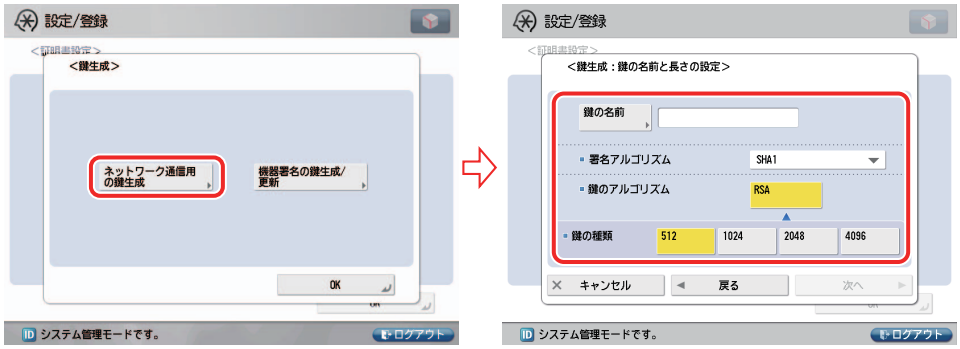
鍵ペアの生成方法は以下のとおりです。

1 **（設定／登録）→［管理設定］→［デバイス管理］を押します。**

2 **［証明書設定］→［鍵生成］を押します。**

3 **［ネットワーク通信用の鍵生成］を押す→次の項目を設定します。**

［ネットワーク通信用の鍵生成］と［機器署名の鍵生成 / 更新］が表示されるのは、機器署名を有効にしているときです。



選択する項目

［鍵の名前］：	鍵ペアの名前を入力します。
< 署名アルゴリズム >：	署名に利用するハッシュ関数を選択します。（SHA1、SHA256、SHA384、SHA512）SHA384 と SHA512 のハッシュ関数をサポートしているのは、1024 ビット以上の長さの鍵です。［SHA384］または［SHA512］を設定する場合は、< 鍵の種類 > で［1024］、［2048］、または［4096］を選択してください。
< 鍵のアルゴリズム >：	RSA（Rivest Shamir Adleman）
< 鍵の種類 >：	鍵の種類を選択します。（512、1024、2048、4096）

重要 鍵ペアの名前は、半角 24 文字以内で設定してください。全角文字は入力しないでください。

メモ
- プリインストール済みの鍵ペアの名称は、「Default Key」です。
- 鍵ペアの名前に、「Device Signature Key」（機器署名用鍵ペアの名前）、および「AMS」（アクセス制限用鍵ペアの名前）を設定することはできません。

監査ログの取得を設定できるようになりました（監査ログを取得）

本機能を「ON」に設定すると、以下のログを生成できます。生成したログは、リモート UI を使用して管理（エクスポート／クリア）できます。

- ボックス文書操作ログ
- ボックス認証ログ
- ネットワーク接続ログ
- 本体管理ログ

メモ 監査ログの管理機能の詳細については、P.57 を参照してください。

1 （設定／登録）→［管理設定］→［デバイス管理］→［監査ログを取得］を押します。

2 ［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。

メモ　設定変更は、本体の主電源スイッチを入れなおしたあとに有効になります。主電源スイッチを入れなおす方法は、e- マニュアル > お使いになる前にを参照してください。

FIPS 140-2 に準拠した暗号方式を使用できるようになりました（暗号方式を FIPS 140-2 準拠にする）

本機能を「ON」に設定すると、以下で使用されている暗号化方式を米国政府の FIPS 140-2 に準拠させることができます。

- ［環境設定］（設定／登録）の［IPSec設定］（→e-マニュアル > ネットワーク）

［暗号方式を FIPS 140-2 準拠にする］を「ON」に設定した場合、IPSec 通信の認証／暗号化アルゴリズムに「AES-GCM」を使用しているポリシーが無効（OFF）になります。同時に、このポリシーの認証アルゴリズムは SHA1 へ、暗号アルゴリズムは 3DES-CBC へ自動的に変更されます。

また、署名アルゴリズムに「RSA-MD5」、「RSA-MD2」を使用する証明書が設定されているポリシーも無効（OFF）になります。

メモ
- 本機能は、IPSecセキュリティーボードを有効にしているときにのみ使用できます。（→e-マニュアル > オプションについて）
- 使用している証明書の署名アルゴリズムを確認する方法については、e-マニュアル > セキュリティーを参照してください。

---

1 （設定／登録）→［管理設定］→［デバイス管理］→［暗号方式を FIPS 140-2 準拠にする］を押します。

2 ［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。

メモ　設定変更は、本体の主電源スイッチを入れなおしたあとに有効になります。主電源スイッチを入れなおす方法は、e- マニュアル > お使いになる前にを参照してください。

スキャン機能に関する変更（[ファクス]、[スキャンして送信]、[スキャンして保存]）

リモートファクス機能を使用できるようになりました

ファクス機能が使用できない imageRUNNER ADVANCE（クライアント機）で、ネットワークを経由して他の imageRUNNER ADVANCE（サーバー機）のファクス機能を使用できます。

重要　この機能を使用するためには、リモート FAX 送信キットが必要です。

メモ
- ファクス機能の詳細については、imageRUNNER ADVANCE（リモートファクスサーバー機） のe-マニュアル > ファクスを参照してください。
- クライアント機でファクスを受信するには、サーバー機で受信したファクスをIファクスとしてクライアント機に転送する設定が必要です。転送設定については、e-マニュアル > 設定／登録を参照してください。

● **サーバー上のファクスを利用するメリット**

一台のファクス機能を共有して使用できるため、複数台のデバイスにファクス機能を搭載させるコストが削減

メモ　この機能を使用するためには、以下の条件が必要です。
- サーバー機で［専用ポート設定］（環境設定）が［ON］に設定されている
- サーバー機でリモートFAX送信キットが有効になっている
- サーバー機とクライアント機にネットワーク設定がされている

ここでは、サーバー機の設定を行ったあと、クライアント機の設定を行います。

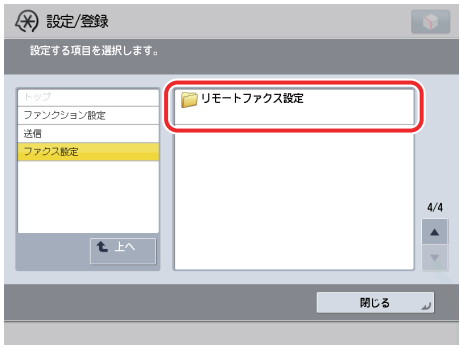
お使いの機種やオプションの装着状況によって画面が異なる場合があります。

以下の手順で行います。

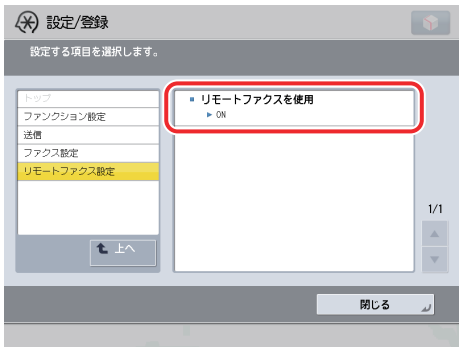
- □ サーバー機の設定
- □ クライアント機の設定
- □ リモートファクスの使用

サーバー機の設定

1 **◎（設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［リモートファクス設定］を押します。**



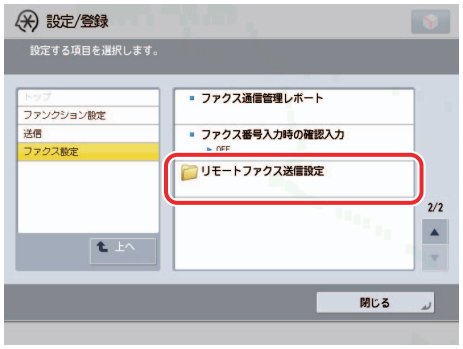
2 ［リモートファクスを使用］を押します。



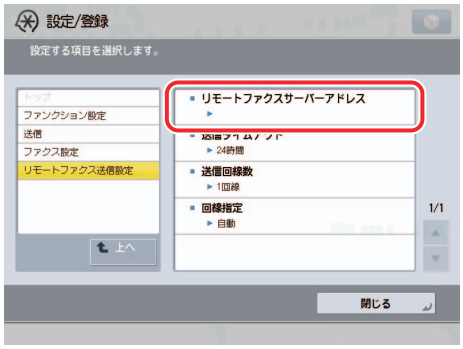
3 ［ON］を選択したあと、［OK］を押します。

クライアント機の設定

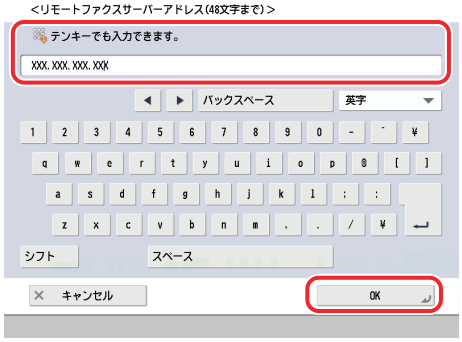
1 ◎（設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［リモートファクス送信設定］を押します。



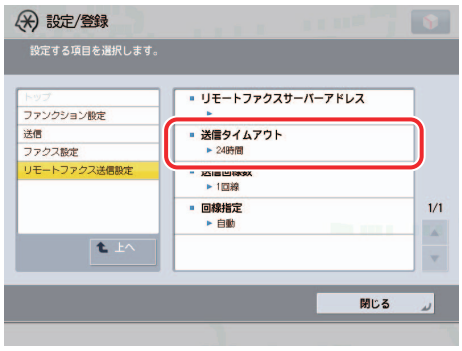
2 ［リモートファクスサーバーアドレス］を押します。



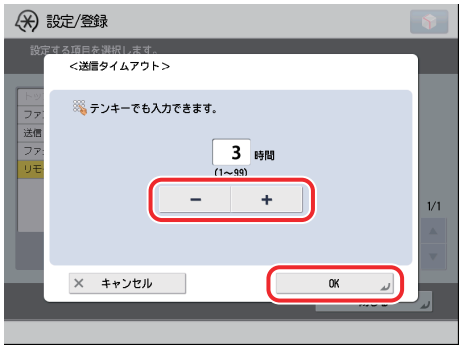
3 ホスト名または IP アドレスを入力したあと、［OK］を押します。



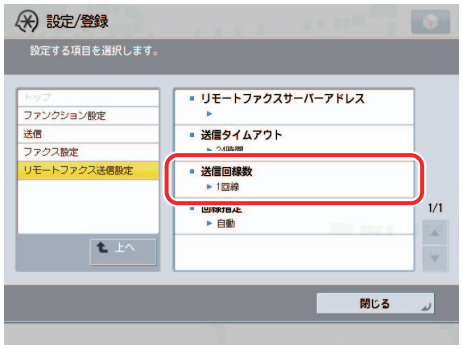
4 ［送信タイムアウト］を押します。



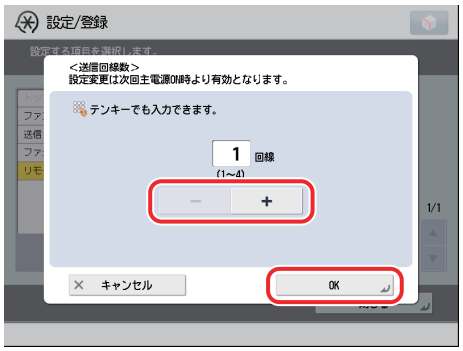
5 ［−］［+］を押して送信タイムアウト時間を設定したあと、［OK］を押します。



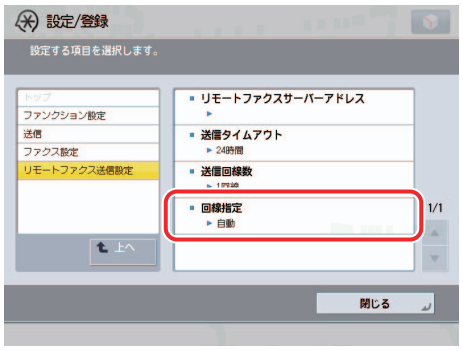
6 ［送信回線数］を押します。



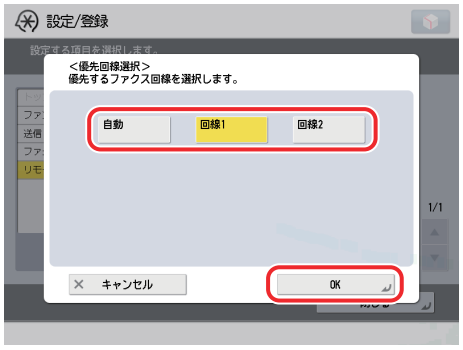
7 ［−］［+］を押して使用する回線数を設定したあと、［OK］を押します。



8 ［回線指定］を押します。



9 ［自動］または優先的に使用する回線を選択したあと、［OK］→［閉じる］を押します。



リモートファクスの使用

1 メインメニュー画面で［ファクス］を押して使用します。

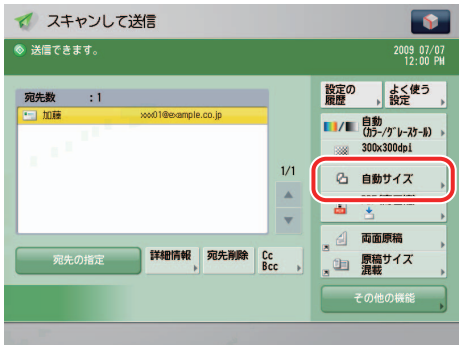
メモ　メインメニュー画面が表示されていない場合は、（メインメニュー）を押してください。

［ファクス］、［スキャンして送信］、［スキャンして保存］でフリーサイズを選択してスキャンできるようになりました

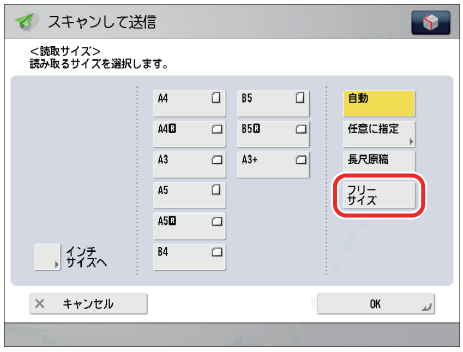
［フリーサイズ］を使うと、不定形サイズの原稿を両面読取でスキャンできます。ここでは［スキャンして送信］の画面を例に説明します。

重要
- ［フリーサイズ］は、原稿がA3より小さい場合に使ってください。
- A3よりも長い原稿を読み込む場合は［長尺原稿］を使ってください。ただし両面読取はできません。
- ［フリーサイズ］を選択する場合は、原稿をフィーダーにセットしてください。原稿台ガラスにセットしても読み込むことはできません。
- ［スキャンして保存］では、アドバンスドボックス／ネットワーク／メモリーメディアへ保存するときにに保存する場合のみ［フリーサイズ］を選択できます。

1 **原稿をセットして宛先を指定したあと、読取サイズボタンを押します。**



2 **［フリーサイズ］を押します。**



3 **［OK］を押します。**

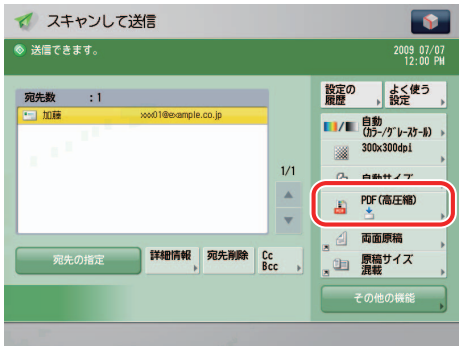
［スキャンして送信］、［スキャンして保存］で Rights Management サーバーのポリシー適用 PDF を生成できるようになりました

Adobe LiveCycle Rights Management サーバーに設定されているセキュリティーポリシーによって閲覧権限などが管理された PDF を生成できます。ここでは［スキャンして送信］の画面を例に説明します。

メモ

- ［ポリシーを適用する］を使用するには、Adobe LiveCycle Rights Management ESまたはAdobe LiveCycle Rights Management ES2が必要です。詳しくはお求めになった販売店にお問い合わせください。
- ［ポリシーを適用する］を使用するには、以下の条件が必要です。
  - Adobe LiveCycle Rights Managementサーバーと本製品がイントラネットやインターネットで接続されている
  - ［Rights Managementサーバー設定］でAdobe LiveCycle Rights ManagementサーバーのURLが設定されている（→Rights Managementサーバーを設定できるようになりました（Rights Managementサーバー設定）：P.17）
- ［ポリシーを適用する］は、以下の機能と同時に設定できません。
  - 暗号化する
  - タイムスタンプ
  - ［PDFをPDF/A準拠にする］を「ON」に設定している場合（→e-マニュアル > 設定/登録）

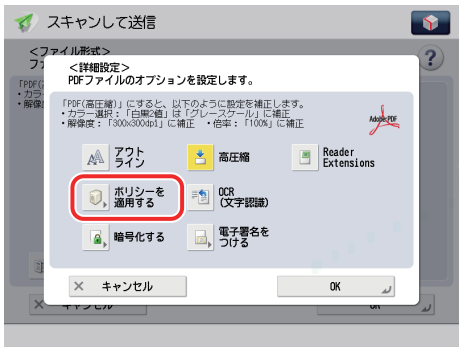
1 原稿をセットして宛先を指定したあと、ファイル形式ボタンを押します。



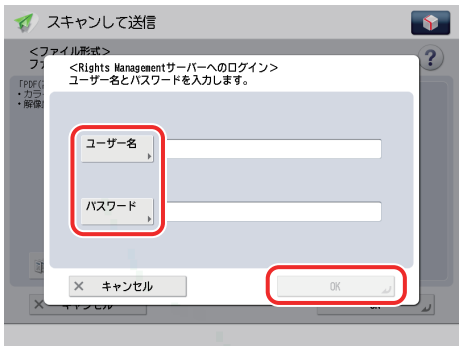
2 ［PDF］を選択したあと、［詳細設定］を押します。

［詳細設定］が表示されていない場合は、< ファイル形式 > の画面で［ポリシーを適用する］を押します。

3 ［ポリシーを適用する］を押します。



4 Adobe LiveCycle Rights Management サーバーにログインするためのユーザー名とパスワードを入力したあと、［OK］を押します。



重要　ログイン画面は、［Rights Management サーバー設定］の設定内容によって異なります。

- ［Rights Managementサーバー設定］でユーザー名とパスワードを入力して、ユーザー毎パスワードを使用が「OFF」に設定している場合、ログイン画面は［Rights Managementサーバー設定］で設定したユーザー名とパスワードが自動入力された状態で表示されます。
- ［Rights Managementサーバー設定］でユーザー毎パスワードを使用を「ON」に設定している場合、ログイン画面でユーザーごとにユーザー名とパスワードの入力が必要です。なお、SSO-Hなどのログインサービスを使用している場合は、［パスワードを保存］を「ON」に設定するとユーザー名とパスワードが保存され、保存したユーザーが次回ログインすると自動入力された状態で表示されます。

5　適用するポリシーをリストから選択したあと、［OK］を押します。

ポリシーリストには、Adobe LiveCycle Rights Management サーバーに登録されているポリシーが表示されます。

重要
- 表示可能なポリシー数は64件までです。
- 本機では、AES128bitで暗号化されたポリシーのみ適用できます。

「スキャンして保存」で組み合わせて使用できる機能が変更になりました

ある機能が先に設定されていて、あとから他の機能を設定しようとした場合にどのような設定になるかを記載しています。

ボックス

機能	組み合わせ不可能な機能
原稿台ガラス読み取り	フィーダー読み取り *1
フィーダー読み取り	原稿台ガラス読み取り *1、見開き▶ 2 ページ
読取サイズ自動	読取サイズ指定 *2、ページ集約、原稿枠消し、ブック枠消し、製本読込
読取サイズ指定	読取サイズ自動 *2、原稿サイズ混載
記録サイズ自動	自動変倍、ページ集約、製本読込
定型変倍	ズーム変倍 *2、XY 独立ズーム *2、自動変倍 *2、長さで指定 *2、ページ集約 *3、製本読込 *3、自動（カラー／白黒）、フルカラー
ズーム変倍	定型変倍 *2、XY 独立ズーム *2、自動変倍 *2、長さで指定 *2、ページ集約 *3、製本読込 *3、自動（カラー／白黒）、フルカラー
XY 独立ズーム	定型変倍 *2、ズーム変倍 *2、自動変倍 *2、長さで指定 *2、ページ集約 *3、製本読込 *3、自動（カラー／白黒）、フルカラー
自動変倍	記録サイズ自動、定型変倍 *2、ズーム変倍 *2、XY 独立ズーム *2、長さで指定 *2、自動（カラー／白黒）、フルカラー
長さで指定	定型変倍 *2、ズーム変倍 *2、XY 独立ズーム *2、自動変倍 *2、ページ集約 *3、製本読込 *3、自動（カラー／白黒）、フルカラー
濃度	背景調整 *4
背景調整	濃度 *4
文字／写真	写真 *2、印刷写真 *2、印画紙写真 *2、文字 *2
写真	文字／写真 *2、印刷写真 *2、印画紙写真 *2、文字 *2
印刷写真	文字／写真 *2、写真 *2、印画紙写真 *2、文字 *2
印画紙写真	文字／写真 *2、写真 *2、印刷写真 *2、文字 *2、自動（カラー／白黒）、フルカラー
文字	文字／写真 *2、写真 *2、印刷写真 *2、印画紙写真 *2
片面読み込み	両面読み込み *2
両面読み込み	片面読み込み *2、見開き▶ 2 ページ、製本読込
見開き▶ 2 ページ	フィーダー読み取り、両面読み込み、ページ集約、パンチ穴消し、製本読込、原稿サイズ混載
ページ集約	読取サイズ自動、記録サイズ自動、定型変倍 *3、ズーム変倍 *3、XY 独立ズーム *3、長さで指定 *3、見開き▶ 2 ページ、原稿枠消し、ブック枠消し、製本読込、原稿サイズ混載、自動（カラー／白黒）、フルカラー
原稿枠消し	読取サイズ自動、ページ集約、ブック枠消し *2、パンチ穴消し *2、製本読込、原稿サイズ混載
ブック枠消し	読取サイズ自動、ページ集約、原稿枠消し *2、パンチ穴消し *2、製本読込、原稿サイズ混載
パンチ穴消し	見開き▶ 2 ページ、原稿枠消し *2、ブック枠消し *2、製本読込
製本読込	読取サイズ自動、記録サイズ自動、定型変倍 *3、ズーム変倍 *3、XY 独立ズーム *3、長さで指定 *3、両面読み込み、見開き▶ 2 ページ、ページ集約、原稿枠消し、ブック枠消し、パンチ穴消し、原稿サイズ混載、自動（カラー／白黒）、フルカラー
原稿サイズ混載	読取サイズ指定、見開き▶ 2 ページ、ページ集約、原稿枠消し、ブック枠消し、製本読込
ネガポジ反転	自動（カラー／白黒）、フルカラー
自動（カラー／白黒）	定型変倍、ズーム変倍、XY 独立ズーム、自動変倍、長さで指定、印画紙写真、ページ集約、製本読込、ネガポジ反転、フルカラー *2、白黒 *2

機能	組み合わせ不可能な機能
フルカラー	定型変倍、ズーム変倍、XY 独立ズーム、自動変倍、長さで指定、印画紙写真、ページ集約、製本読込、ネガポジ反転、自動（カラー／白黒）*2、白黒 *2
白黒	自動（カラー／白黒）*2、フルカラー *2

*1 連続読み込みを設定している場合は、組み合わせ可能です。
*2 これらの機能が両方設定された場合、後から設定された機能のみが実施されます。
*3 ページ集約や製本に関する機能が優先されます。倍率を変更することも可能です。
*4 濃度と背景調整の調整ありの設定を組み合わせた場合、後から入力したモードが優先されます。

アドバンスドボックス／ネットワーク／メモリーメディア

機能	組み合わせ不可能な機能
原稿台ガラス読み取り	フィーダー読み取り *1、読取サイズ：フリーサイズ、原稿サイズ混載
フィーダー読み取り	原稿台ガラス読み取り *1、読取サイズ指定 *2、見開き▶ 2 ページ
読取サイズ自動	読取サイズ指定 *3、原稿枠消し、ブック枠消し
読取サイズ指定	フィーダー読み取り *2、読取サイズ自動 *3、見開き▶ 2 ページ *4、原稿枠消し *3、ブック枠消し *3、原稿サイズ混載 *4
読取サイズ：フリーサイズ	原稿台ガラス読み取り、自動変倍、見開き▶ 2 ページ、原稿枠消し、ブック枠消し、パンチ穴消し、原稿サイズ混載、連続読込
記録サイズ自動	自動変倍
定型変倍	ズーム変倍 *3、自動変倍 *3、高圧縮 PDF、サーチャブル PDF、アウトライン PDF
ズーム変倍	定型変倍 *3、自動変倍 *3、高圧縮 PDF、サーチャブル PDF、アウトライン PDF
自動変倍	読取サイズ：フリーサイズ、記録サイズ自動、定型変倍 *3、ズーム変倍 *3、解像度 *5
濃度	―
背景調整	―
文字／写真	写真 *3、文字 *3
写真	文字／写真 *3、文字 *3
文字	文字／写真 *3、写真 *3、シャープネス *14
片面読み込み	両面読み込み *3
両面読み込み	片面読み込み *3、見開き▶ 2 ページ
ファイル名	―
PDF	―
機器署名	暗号化 PDF*6
ユーザー署名	暗号化 PDF*6
タイムスタンプ	ポリシーつき PDF、暗号化 PDF*14
ポリシーつき PDF	タイムスタンプ、暗号化 PDF
可視署名	暗号化 PDF*6
高圧縮 PDF	定型変倍、ズーム変倍、アウトライン PDF*7、自動（カラー／白黒）、白黒 2 値、解像度 *8
暗号化 PDF	機器署名 *6、ユーザー署名 *6、タイムスタンプ *14、ポリシーつき PDF、可視署名 *6、Reader Extensions *9
サーチャブル PDF	定型変倍、ズーム変倍
アウトライン PDF	高圧縮 PDF*7、自動（カラー／白黒）、白黒 2 値、解像度 *8
Reader Extensions	暗号化 PDF*9
JPEG	ページ分割 *10、自動（カラー／白黒）*11、白黒 2 値
TIFF	フルカラー、自動（カラー／グレー）、自動（カラー／白黒）、グレースケール
TIFF/PDF	ページ分割 *12
TIFF/JPEG	ページ分割 *10
ページ分割	JPEG*10、TIFF/PDF*12、TIFF/JPEG*10
見開き▶ 2 ページ	フィーダー読み取り、読取サイズ指定 *4、読取サイズ：フリーサイズ、両面読み込み、原稿枠消し *13、パンチ穴消し、原稿サイズ混載
原稿枠消し	読取サイズ自動、読取サイズ指定 *3、読取サイズ：フリーサイズ、見開き▶ 2 ページ *13、ブック枠消し *3、パンチ穴消し *3、原稿サイズ混載
ブック枠消し	読取サイズ自動、読取サイズ指定 *3、読取サイズ：フリーサイズ、原稿枠消し *3、パンチ穴消し *3、原稿サイズ混載
パンチ穴消し	読取サイズ：フリーサイズ、見開き▶ 2 ページ、原稿枠消し *3、ブック枠消し *3
原稿サイズ混載	原稿台ガラス読み取り、読取サイズ指定 *4、読取サイズ：フリーサイズ、見開き▶ 2 ページ、原稿枠消し、ブック枠消し
連続読込	読取サイズ：フリーサイズ
フルカラー	TIFF
自動（カラー／グレー）	TIFF
自動（カラー／白黒）	高圧縮 PDF、アウトライン PDF、JPEG*11、TIFF
グレースケール	TIFF
白黒 2 値	高圧縮 PDF、アウトライン PDF、JPEG、シャープネス *14
解像度	自動変倍 *5、高圧縮 PDF*8、アウトライン PDF*8、シャープネス *14

機能	組み合わせ不可能な機能
シャープネス	白黒 2 値 *14、文字 *14、解像度 *14

*1 連続読込を設定している場合は、組み合わせ可能です。

*2 これらの機能が両方設定された場合、後から設定された機能のみが実施されます。

*3 読取サイズに指定サイズ（任意に指定）を選択時は、設定できません。

*4 解像度が 300 × 300 dpi、または 600×600 dpi のときに設定できます。

*5［文書の権限変更にパスワードが必要］を設定した場合、電子署名を設定するためには、「変更を許可」を「ページ抽出を除く文書変更」に設定してください。

*6 高圧縮 PDF が同時に設定されます。

*7 解像度が 300 × 300 dpi のときのみ使用できます。

*8［文書の権限変更にパスワードが必要］を設定した場合、Reader Extensions 機能を設定するためには、「変更を許可」を以下のいずれかに設定してください。

「ページ抽出を除く文書変更」

「注釈の追加、ページ抽出を除く文書変更」

「注釈追加と既存署名フィールドへの署名」

*9 ページ分割は、「ON」に設定されます。

*10 白黒 2 値の場合は、設定できません。

*11 ページ分割は、「OFF」に設定されます。

*12 原稿台ガラスへ原稿をセットした場合に、設定できます。

*13 暗号化 PDF をタイムスタンプと同時に設定する場合は、< 暗号化レベル > を［低（40-bit RC4）/Acrobat 3.0 以降］に設定してください。

［文書の権限変更にパスワードが必要］を設定した場合、電子署名を設定するためには、「変更を許可」を「ページ抽出を除く文書変更」に設定してください。

*14 次の条件をすべて満たしているときは、[シャープネス] を設定しても無効です。

カラーモードが白黒 2 値

原稿の種類が文字モード

解像度が 100 × 100 dpi、150 × 150 dpi、200 × 100 dpi のいずれか

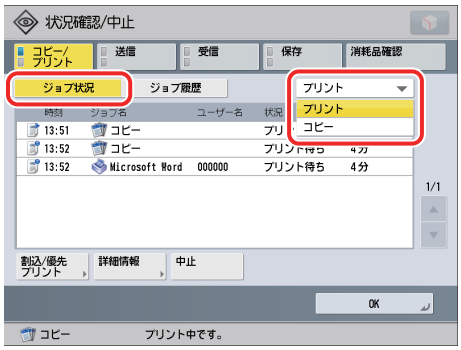
プリント機能に関する変更（[コピー]、[保存ファイルの利用]、[セキュアプリント]、状況確認 / 中止）

[セキュアプリント] と状況確認／中止画面で、割込／優先プリントできるようになりました（割込 / 優先プリント）

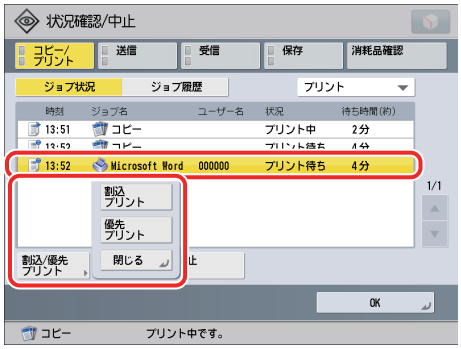
実行中のジョブを中断して、選択したジョブを優先的にプリントできます。ここでは、状況確認／中止画面での操作を説明します。

1 （状況確認／中止）→ [コピー / プリント] を押します。

2 [ジョブ状況] を押したあと、ドロップダウンリストで表示させたいジョブの種類を選択します。



3 ジョブを選択して、[割込 / 優先プリント] を押します。



実行中のジョブを中断して、選択したジョブを優先的にプリントする場合は、[割込プリント] を押してください。

選択したジョブを実行中のジョブの次に優先的にプリントする場合は、[優先プリント] を押してください。

重要

- 割り込みプリント中のジョブを、別のジョブが追い越して割り込むことはできません。追い越して割り込もうとした場合、そのジョブは割り込み中のジョブが終了したあとに実行されます。
- 割込プリント待機中のジョブを選択して、割込プリントや優先プリントを行うことはできません。
- 別のジョブにより割り込まれたジョブ、用紙なしジョブ、トナーなしジョブなど、一度実行中になってから中断したジョブは、ジョブが再開した場合、そのジョブに対して割り込みを行うことはできません。割込プリントを実行した場合でも、その操作は無視されます。
- 複数枚のコピー／プリントジョブに対して割込プリントを行った場合、残りのプリント枚数を中断して割り込みます。ただし、以下の仕上げ機能を使用している場合は、プリントが部数単位で終了してから割り込みます。
  - ホチキス
  - 製本
  - サドル折り

［ウェブブラウザー］で Web ページのプリントが非対応になりました

［ウェブブラウザー］でタッチパネルディスプレーに表示中のウェブページをプリントできなくなりました。

メモ
- タッチパネルディスプレーにウェブページを表示するには、ウェブブラウザー拡張キットが有効になっていることが必要です。
- PDFファイルを表示してプリントすることは可能です。

「コピー」で組み合わせて使用できる機能が変更になりました

以下の項目が機能組み合わせ可能になりました。

・[重連コピー] と [手差し：ユーザー設定サイズ]

・[重連コピー] と [手差し：はがき]

・[イメージ合成] と [手差し：はがき]

・[製本：分割して製本] と [製本：クリープ（ずれ）補正]

以下の項目が機能組み合わせできなくなりました。

機能	組み合わせ不可能な機能
グループソート	地紋印字 *1
シフトグループ	地紋印字 *1
インデックス印字	ページ印字、部数印字、スタンプ
ページ印字	インデックス印字
部数印字	インデックス印字
スタンプ	インデックス印字
地紋印字	グループソート *1、シフトグループ *1

*1 地紋背景に部数印字を指定した場合は、設定できません。

「保存ファイルの利用」で組み合わせて使用できる機能が変更になりました

ある機能が先に設定されていて、あとから他の機能を設定しようとした場合にどのような設定になるかを記載しています。

ボックス保存ファイルプリント

機能	組み合わせ不可能な機能
自動用紙選択	自動用紙選択（オートタテヨコ回転）、手差し *2、中とじ、C 折り *6、外 3 つ折り *6、4 つ折り *6、2 つ折り *6、サドル折り *6、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、インデックス印字
自動用紙選択（オートタテヨコ回転）	自動用紙選択、手差し *2、中とじ、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、サイズ混載プリント、インデックス印字
用紙カセット自動選択	手差し *2
手差し	自動用紙選択 *2、自動用紙選択（オートタテヨコ回転）*2、ソート *2、グループソート *2、シフトソート *2、ステイプルソート *2、中とじ *2、Z 折り *2、C 折り *2、外 3 つ折り *2、4 つ折り *2、2 つ折り *2、サドル折り *2、指定部数シフト *2、パンチ *2、両面プリント *2、文書間分割両面プリント *2、文書間連続両面プリント *2、表紙 *2、裏表紙 *2、合紙 *2、章紙 *2、インデックス紙 *2、仕切紙 *2、製本 *2、中とじ処理（製本）*2、表紙（製本）*2、分割製本 *2、クリープ（ずれ）補正（製本）*2、サドル折り（製本）*2、移動 *3、インデックス印字、地紋印字 *3、地紋印字（部数）*3
手差し（表面プリント済みの裏面に印字）	自動用紙選択、自動用紙選択（オートタテヨコ回転）、中とじ、両面プリント、表紙 *7、裏表紙 *7、合紙 *7、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）
ソート	手差し *2、グループソート *1、シフトソート *1、ステイプルソート *1、中とじ *1、指定部数シフト *1、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）

機能	組み合わせ不可能な機能
グループソート	手差し *2、ソート *1、シフトソート *1、ステイプルソート *1、中とじ *1、指定部数シフト *1、文書間分割両面プリント、文書間連続両面プリント、表紙、裏表紙、合紙、章紙、インデックス紙、仕切紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、試しプリント *1、文書結合プリント、部数印字、インデックス印字、地紋印字（部数）
シフトソート	手差し *2、ソート *1、グループソート *1、ステイプルソート *1、中とじ *1、C 折り *1、外 3 つ折り *1、4 つ折り *1、2 つ折り *1、サドル折り *1、指定部数シフト *1、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）
ステイプルソート	手差し *2、ソート *1、グループソート *1、シフトソート *1、中とじ *1、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、指定部数シフト *1、インデックス紙 *5、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、インデックス印字 *5
中とじ	自動用紙選択、自動用紙選択（オートタテヨコ回転）、手差し *2、手差し（表面プリント済みの裏面に印字）、ソート *1、グループソート *1、シフトソート *1、ステイプルソート *1、Z 折り、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、指定部数シフト *1、パンチ、片面プリント、表紙、裏表紙、合紙、章紙、インデックス紙、仕切紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、試しプリント、サイズ混載プリント、ページ印字、部数印字、スタンプ／日付印字、イメージ合成、地紋印字（部数）
Z 折り	手差し *2、中とじ、C 折り *1、外 3 つ折り *1、4 つ折り *1、2 つ折り *1、サドル折り *1、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、文書結合プリント、インデックス印字
C 折り	自動用紙選択 *6、自動用紙選択（オートタテヨコ回転）、手差し *2、シフトソート *1、ステイプルソート、中とじ、Z 折り *1、外 3 つ折り *1、4 つ折り *1、2 つ折り *1、サドル折り *1、指定部数シフト *1、パンチ、表紙、裏表紙、合紙、章紙、インデックス紙、仕切紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、インデックス印字
外 3 つ折り	自動用紙選択 *6、自動用紙選択（オートタテヨコ回転）、手差し *2、シフトソート *1、ステイプルソート、中とじ、Z 折り *1、C 折り *1、4 つ折り *1、2 つ折り *1、サドル折り *1、指定部数シフト *1、パンチ、表紙、裏表紙、合紙、章紙、インデックス紙、仕切紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、インデックス印字
4 つ折り	自動用紙選択 *6、自動用紙選択（オートタテヨコ回転）、手差し *2、シフトソート *1、ステイプルソート、中とじ、Z 折り *1、C 折り *1、外 3 つ折り *1、2 つ折り *1、サドル折り *1、指定部数シフト *1、パンチ、表紙、裏表紙、合紙、章紙、インデックス紙、仕切紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、インデックス印字
2 つ折り	自動用紙選択 *6、自動用紙選択（オートタテヨコ回転）、手差し *2、シフトソート *1、ステイプルソート、中とじ、Z 折り *1、C 折り *1、外 3 つ折り *1、4 つ折り *1、サドル折り *1、指定部数シフト *1、パンチ、表紙、裏表紙、合紙、章紙、インデックス紙、仕切紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、インデックス印字
サドル折り	自動用紙選択 *6、自動用紙選択（オートタテヨコ回転）、手差し *2、シフトソート *1、ステイプルソート、中とじ、Z 折り *1、C 折り *1、外 3 つ折り *1、4 つ折り *1、2 つ折り *1、指定部数シフト *1、パンチ、表紙、裏表紙、合紙、章紙、インデックス紙、仕切紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、インデックス印字
指定部数シフト	手差し *2、ソート *1、グループソート *1、シフトソート *1、ステイプルソート *1、中とじ *1、C 折り *1、外 3 つ折り *1、4 つ折り *1、2 つ折り *1、サドル折り *1、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）
パンチ	中とじ、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）
片面プリント	中とじ、両面プリント *1、文書間分割両面プリント *1、文書間連続両面プリント *1
両面プリント	手差し *2、手差し（表面プリント済みの裏面に印字）、片面プリント *1、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、インデックス印字
文書間分割両面プリント	手差し *2、グループソート、片面プリント *1、文書間連続両面プリント *1、表紙、裏表紙、合紙（プリントする／しない）、章紙、インデックス紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、単文書プリント、複数文書プリント、インデックス印字
文書間連続両面プリント	手差し *2、グループソート、片面プリント *1、文書間分割両面プリント *1、表紙、裏表紙、合紙（プリントする／しない）、章紙、インデックス紙、仕切紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、単文書プリント、複数文書プリント、インデックス印字
表紙	手差し *2、手差し（表面プリント済みの裏面に印字）*7、グループソート、中とじ、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、文書間分割両面プリント、文書間連続両面プリント、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、複数文書プリント、イメージ合成、インデックス印字

機能	組み合わせ不可能な機能
裏表紙	手差し[*2]、手差し（表面プリント済みの裏面に印字）[*7]、グループソート、中とじ、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、文書間分割両面プリント、文書間連続両面プリント、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、複数文書プリント、イメージ合成、インデックス印字
合紙（プリントする／しない）	手差し[*2]、手差し（表面プリント済みの裏面に印字）[*7]、グループソート、中とじ、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、文書間分割両面プリント、文書間連続両面プリント、章紙、仕切紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、複数文書プリント、イメージ合成、インデックス印字
章紙	手差し[*2]、グループソート、中とじ、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、文書間分割両面プリント、文書間連続両面プリント、合紙（プリントする／しない）、仕切紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、複数文書プリント、イメージ合成、インデックス印字
インデックス紙	手差し[*2]、グループソート、ステイプルソート[*5]、中とじ、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、文書間分割両面プリント、文書間連続両面プリント、仕切紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、複数文書プリント、イメージ合成、とじしろ、移動、インデックス印字
仕切紙	手差し[*2]、グループソート、中とじ、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、文書間連続両面プリント、合紙（プリントする／しない）、章紙、インデックス紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、単文書プリント、複数文書プリント、イメージ合成、インデックス印字
製本	自動用紙選択、自動用紙選択（オートタテヨコ回転）、手差し[*2]、手差し（表面プリント済みの裏面に印字）、ソート、グループソート、シフトソート、ステイプルソート、中とじ、Z 折り[*1]、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、指定部数シフト、パンチ、両面プリント、文書間分割両面プリント、文書間連続両面プリント、表紙、裏表紙、合紙（プリントする／しない）、章紙、インデックス紙、仕切紙、サイズ混載プリント、複数文書プリント[*4]、スタンプ／日付印字、イメージ合成、とじしろ、移動、インデックス印字、地紋印字、地紋印字（部数）
中とじ処理（製本）	自動用紙選択、自動用紙選択（オートタテヨコ回転）、手差し[*2]、手差し（表面プリント済みの裏面に印字）、ソート、グループソート、シフトソート、ステイプルソート、中とじ、Z 折り[*1]、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、指定部数シフト、パンチ、両面プリント、文書間分割両面プリント、文書間連続両面プリント、表紙、裏表紙、合紙（プリントする／しない）、章紙、インデックス紙、仕切紙、サイズ混載プリント、複数文書プリント[*4]、スタンプ／日付印字、イメージ合成、とじしろ、移動、インデックス印字、地紋印字、地紋印字（部数）
表紙（製本）	自動用紙選択、自動用紙選択（オートタテヨコ回転）、手差し[*2]、手差し（表面プリント済みの裏面に印字）、ソート、グループソート、シフトソート、ステイプルソート、中とじ、Z 折り[*1]、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、指定部数シフト、パンチ、両面プリント、文書間分割両面プリント、文書間連続両面プリント、表紙、裏表紙、合紙（プリントする／しない）、章紙、インデックス紙、仕切紙、サイズ混載プリント、複数文書プリント[*4]、スタンプ／日付印字、イメージ合成、とじしろ、移動、インデックス印字、地紋印字、地紋印字（部数）
分割製本	自動用紙選択、自動用紙選択（オートタテヨコ回転）、手差し[*2]、手差し（表面プリント済みの裏面に印字）、ソート、グループソート、シフトソート、ステイプルソート、中とじ、Z 折り[*1]、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、指定部数シフト、パンチ、両面プリント、文書間分割両面プリント、文書間連続両面プリント、表紙、裏表紙、合紙（プリントする／しない）、章紙、インデックス紙、仕切紙、サイズ混載プリント、複数文書プリント[*4]、スタンプ／日付印字、イメージ合成、とじしろ、移動、インデックス印字、地紋印字、地紋印字（部数）
クリープ（ずれ）補正（製本）	自動用紙選択、自動用紙選択（オートタテヨコ回転）、手差し[*2]、手差し（表面プリント済みの裏面に印字）、ソート、グループソート、シフトソート、ステイプルソート、中とじ、Z 折り[*1]、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、指定部数シフト、パンチ、両面プリント、文書間分割両面プリント、文書間連続両面プリント、表紙、裏表紙、合紙（プリントする／しない）、章紙、インデックス紙、仕切紙、サイズ混載プリント、複数文書プリント[*4]、スタンプ／日付印字、イメージ合成、とじしろ、移動、インデックス印字、地紋印字、地紋印字（部数）
サドル折り（製本）	自動用紙選択、自動用紙選択（オートタテヨコ回転）、手差し[*2]、手差し（表面プリント済みの裏面に印字）、ソート、グループソート、シフトソート、ステイプルソート、中とじ、Z 折り[*1]、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、指定部数シフト、パンチ、両面プリント、文書間分割両面プリント、文書間連続両面プリント、表紙、裏表紙、合紙（プリントする／しない）、章紙、インデックス紙、仕切紙、サイズ混載プリント、複数文書プリント[*4]、スタンプ／日付印字、イメージ合成、とじしろ、移動、インデックス印字、地紋印字、地紋印字（部数）
サイズ混載プリント	自動用紙選択（オートタテヨコ回転）、中とじ、Z 折り[*1]、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）
単文書プリント	文書間分割両面プリント、文書間連続両面プリント、仕切紙、複数文書プリント、文書結合プリント

機能	組み合わせ不可能な機能
複数文書プリント	文書間分割両面プリント、文書間連続両面プリント、表紙、裏表紙、合紙（プリントする／しない）、章紙、インデックス紙、仕切紙、製本 *4、中とじ処理（製本）*4、表紙（製本）*4、分割製本 *4、クリープ（ずれ）補正（製本）*4、サドル折り（製本）*4、試しプリント、単文書プリント、文書結合プリント
文書結合プリント	グループソート、Z 折り *1、単文書プリント、複数文書プリント
ページ印字	Z 折り、イメージ合成、移動、地紋印字、地紋印字（部数）
部数印字	グループソート、中とじ、イメージ合成、移動、地紋印字、地紋印字（部数）
スタンプ／日付印字	中とじ、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、イメージ合成、移動、地紋印字、地紋印字（部数）
イメージ合成	中とじ、表紙、裏表紙、合紙（プリントする／しない）、章紙、インデックス紙、仕切紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、ページ印字、部数印字、スタンプ／日付印字、地紋印字、地紋印字（部数）
とじしろ	インデックス紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、インデックス印字
移動	手差し *3、インデックス紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、ページ印字、部数印字、スタンプ／日付印字、インデックス印字、地紋印字（部数）
インデックス印字	自動用紙選択、自動用紙選択（オートタテヨコ回転）、手差し、グループソート、シフトソート、ステイプルソート *5、Z 折り *1、C 折り、外 3 つ折り、4 つ折り、2 つ折り、サドル折り、両面プリント、文書間分割両面プリント、文書間連続両面プリント、表紙、裏表紙、合紙（プリントする／しない）、章紙、インデックス紙、仕切紙、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、とじしろ、移動
地紋印字	手差し *3、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、ページ印字、部数印字、スタンプ／日付印字、イメージ合成、地紋印字（部数）*1
地紋印字（部数）	手差し *3、グループソート、中とじ、製本、中とじ処理（製本）、表紙（製本）、分割製本、クリープ（ずれ）補正（製本）、サドル折り（製本）、ページ印字、部数印字、スタンプ／日付印字、イメージ合成、移動、地紋印字 *1

*1 これらの機能が両方設定された場合、後から設定された機能のみが実施されます。
*2 フリーサイズ、ユーザー設定サイズ、はがき選択時は組み合わせて設定できません。
*3 ユーザー設定サイズは組み合わせて設定できません。
*4 読み込み時に、原稿サイズ混載を使用して読み込んだファイルのプリントはできません。
*5 コーナーホチキス（右上、右下）、ダブルホチキス（右）は、組み合わせて設定できません。
*6 折り可能な用紙が選択されている場合は設定できます。
*7「両面にプリントする」は設定できません。

アドバンスドボックスに関する変更

アドバンスドボックス管理者がコンピューターからアクセスしたときの操作権限が拡がりました

アドバンスドボックスが SMB または WebDAV サーバーとして外部公開されている場合、アドバンスドボックスの管理者はコンピューターのエクスプローラーから以下の操作が可能です。

- 一般ユーザーが作成した［個人スペース］へアクセスして、フォルダー／ファイルの編集
- ファンクション設定（設定／登録）→［ファイル保存/利用］→［アドバンスドボックス設定］→［外部からの書込禁止］を「ON」に設定している場合のフォルダー／ファイルの編集

メモ　アドバンスドボックスを使用するユーザーの登録や外部公開設定については、e- マニュアル > セキュリティーを参照してください。

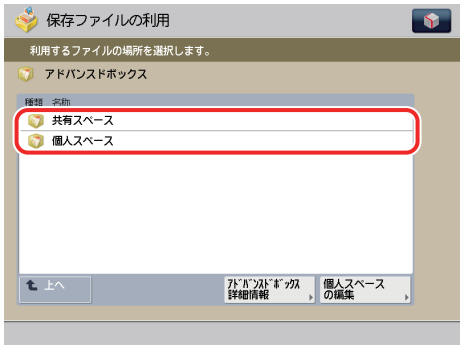
アドバンスドボックス内のファイルが画像表示できるようになりました

ボックスに保存されているファイルだけでなく、アドバンスドボックス／ネットワーク／メモリーメディアに保存されているファイルの画像をタッチパネルディスプレーに表示できるようになりました。ここでは、アドバンスドボックスを例に説明します。

重要　PDF ファイルの画像表示は、PS 拡張キットまたはダイレクトプリント拡張キット（PDF/XPS 用）が必要です。

1 **メインメニュー画面で［保存ファイルの利用］を押したあと、格納場所の選択画面で［アドバンスドボックス］を押します。**

2 **スペース選択画面で目的のスペースを選択します。**



3 **目的のファイルがある階層を表示します。**

4 **画像を表示するファイルを選択したあと、［画像表示］を押します。**

メモ

- 複数のファイルを選択して［画像表示］を押した場合は、選択されている（色つき）ファイルのみ画像が表示されます。
- 暗号化PDFを表示するときは、パスワード入力画面でパスワード入力する必要があります。
- ポリシーつきPDFを表示するときは、ログイン画面でユーザー情報を入力する必要があります。

5 ［◀］［▶］を押して確認したいページを選択します。

6 画像を表示するファイルを選択したあと、［画像表示］を押します。

［ ］［ ］を押して画像の倍率を変更することができます。

拡大した画像は、［◀］［▶］［▼］［▲］を押して、表示箇所を移動することができます。

で表示されている画像の位置を確認することができます。

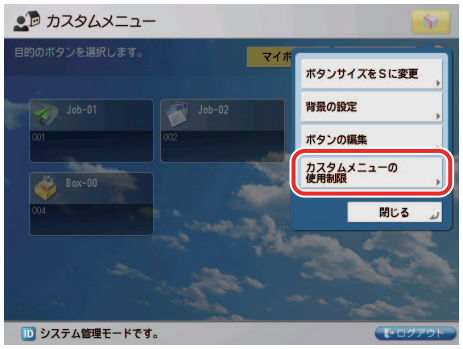
カスタムメニュー機能に関する変更

[カスタムメニュー] でマイボタンの使用を制限できるようになりました（マイボタンの使用）

メモ
- カスタムメニューの使用制限の設定は、システム管理者、またはSSO-Hのシステムアドミニストレーター(Administrator)／ネットワークアドミニストレーター(NetworkAdmin)／デバイスアドミニストレーター(DeviceAdmin)が行えます。管理者の種類については、e-マニュアル >セキュリティ を参照してください。
- 認証機能を使用していない場合は、マイボタンは表示されません。

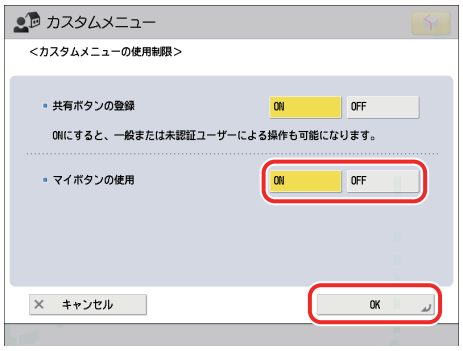
1 カスタムメニューで、 を押します。

2 ［カスタムメニューの使用制限］を押します。



メモ
システム管理者情報のみ設定して、認証機能を使用していない場合は、［カスタムメニューの使用制限］を押したあとに、ログイン画面が表示されます。システム管理部門 ID とシステム管理暗証番号を入力してください。工場出荷時の初期値は、それぞれ「7654321」に設定されています。（→ e- マニュアル > セキュリティ）

3 ［マイボタンの使用］を押したあと、[OK］を押します。



［マイボタンの使用］:マイボタンの使用を設定します。「ON」に設定した場合は、マイボタンを使用できます。「OFF」に設定した場合は、マイボタンを使用できません。

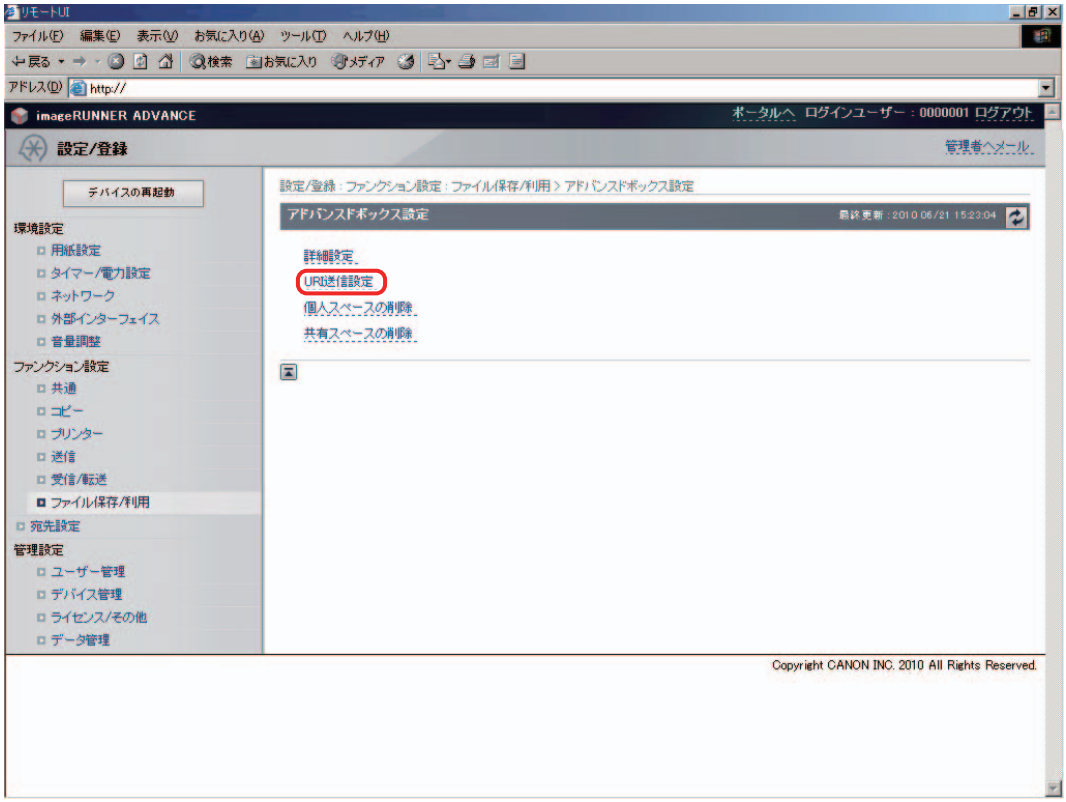
リモート UI 機能に関する変更

URI 送信を設定できるようになりました（URI 送信設定）

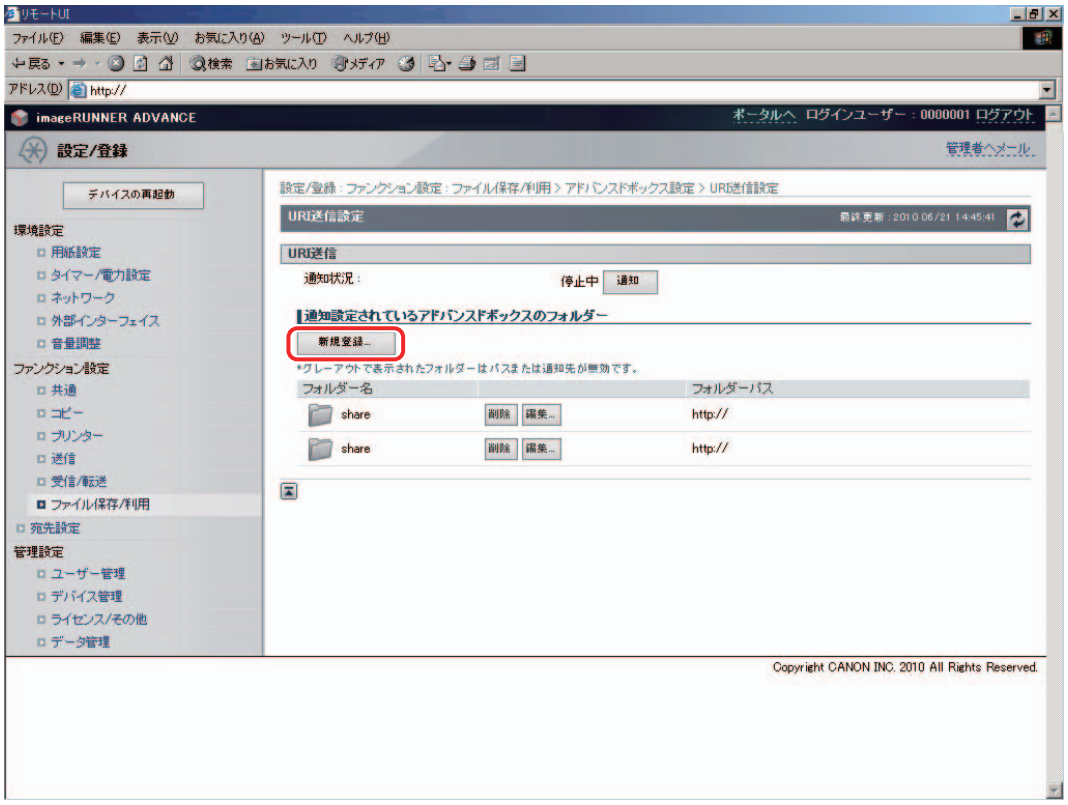
URI 送信設定では、本機のアドバンスドボックス内にファイルが保存されたときに、E メールを送信して通知する設定ができます。E メールにはファイル名を含めたフォルダーへのパス（URI:Uniform Resource Identifier）が記載されます。

1 ［設定 / 登録］をクリックして、ファンクション設定に表示されるメニューから［ファイルの保存 / 利用］を選択したあと、［アドバンスドボックス設定］をクリックします。

2 ［URI 送信設定］をクリックします。



3 ［新規登録］をクリックします。



4 通知対象となるフォルダーへのパスを入力します。

● **アドバンスドボックスをSMBサーバーとして公開している場合：**

□ 本機のホスト名またはIPアドレスに「¥share」または「¥users」をつけ、その次に「¥フォルダー名」を入力します。

入力例：

- ¥¥192.168.1.21¥share¥documents （共有スペースの直下にある「documents」というフォルダーを指定する場合）
- ¥¥192.168.1.21¥users¥suzuki （個人スペースの直下にある「suzuki」というフォルダーを指定する場合）

● **アドバンスドボックスをWebDAVサーバーとして公開している場合：**

□ 「http(s)://<本機のIPアドレスまたはホスト名>/<shareまたはusers>/<フォルダ名ー>」の形式で入力します。

入力例：

- http://192.168.1.21/share/documents （SSL無効時で、共有スペースの直下にある「documents」というフォルダーを指定する場合）
- https://192.168.1.21/users/suzuki （SSL有効時で、個人スペースの直下にある「suzuki」というフォルダーを指定する場合）

5 指定 E メールアドレスへ通知するタイミングを選択します。

選択する項目

［スキャンして保存で保存先として指定したとき］：	タッチパネルディスプレーの［スキャンして保存］から、アドバンスドボックス内の指定フォルダーへファイルが保存されるごとに通知します。なお、サブフォルダー内にファイルが保存されたときやフォルダーが追加されたときは通知しません。
［送信 / 転送機能でループバックアドレスを指定したとき］：	送信／転送機能を使用して、ループバックアドレス（ネットワーク上で自機を表すアドレス）から、アドバンスドボックス内の指定フォルダーへファイルが保存されるごとに通知します。なお、サブフォルダー内にファイルが保存されたときやフォルダーが追加されたときは通知しません。ループバックアドレスでの指定は、［スキャンして送信］や［転送設定］で本機のアドバンスドボックスを宛先にするときに使用します。（→本機のアドバンスドボックスをループバックアドレスで宛先に指定する：P.56）
［フォルダー内の文書とサブフォルダーの合計が 700 個に達したとき］：	手順 4 で通知対象に指定したフォルダー内の、ファイルとサブフォルダーの合計が 700 個に達したときに通知します。サブフォルダー内のファイルとフォルダーは、カウントされません。
［フォルダー内の文書とサブフォルダーの合計が 900 個に達したとき］：	手順 4 で通知対象に指定したフォルダー内の、ファイルとサブフォルダーの合計が 900 個に達したときに通知します。サブフォルダー内のファイルとフォルダーは、カウントされません。

メモ　指定したフォルダー内に保存できるファイルとサブフォルダーの合計は、最大 1000 個です。

6 ［宛先の選択］をクリックして通知先の E メールアドレスを指定したあと、［OK］をクリックします。

メモ　通知先に選択できるのは、アドレス帳に登録されている E メールアドレス 1 件、もしくは E メールアドレスグループ 1 件です。

7 E メールの件名を入力します。

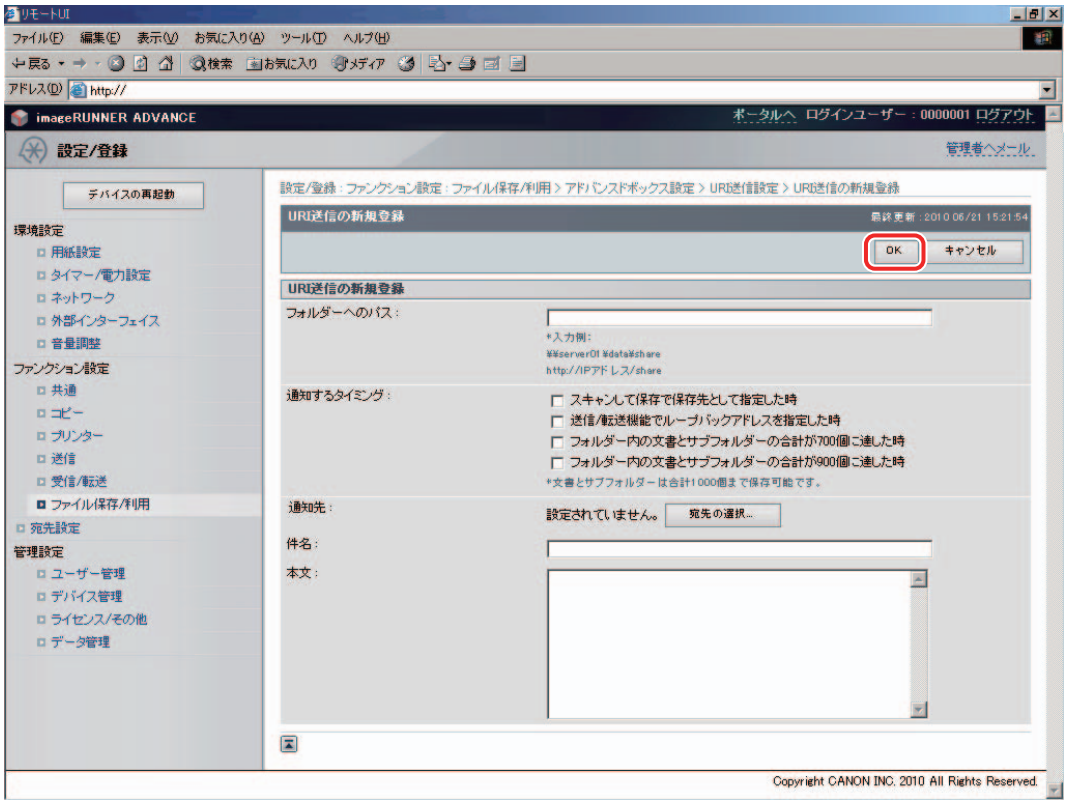
半角 40 文字まで入力できます。

8 E メールの本文を入力します。

半角 140 文字まで入力できます。

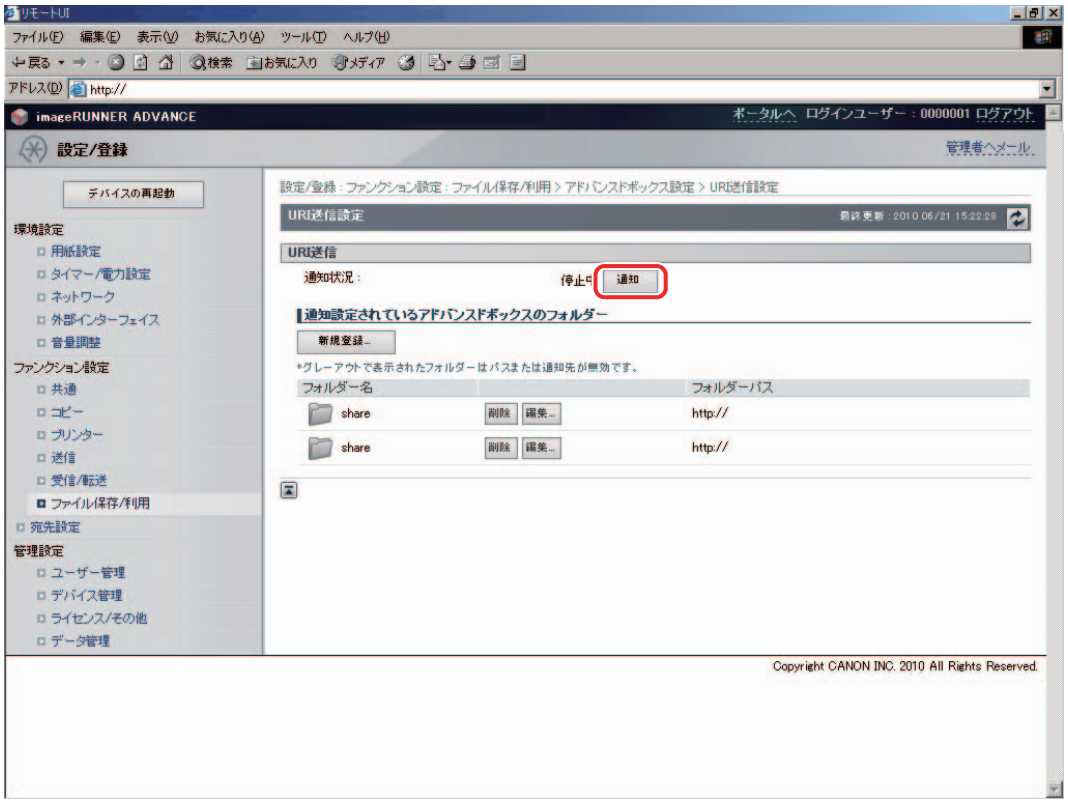
メモ　E メールの本文には、ここで入力した文字列のほかに、手順 4 で指定したフォルダーへのパスとファイル名が記載されます。

9 ［OK］をクリックします。



URI 送信設定の登録が終了しました。

10 ［通知］をクリックします。



通知状況が < 通知中 > に変わり、登録されているすべての URI 送信設定が有効になります。

URI 送信の通知を停止したい場合は、［停止］をクリックします。

● **登録済みのURI送信設定を削除する場合：**

□ 削除したいフォルダーの［削除］をクリックします。

● **登録済みのURI送信設定を編集する場合：**

□ 編集したいフォルダーの［編集］をクリックします。

本機のアドバンスドボックスをループバックアドレスで宛先に指定する

本機のアドバンスドボックスをループバックアドレスでアドレス帳に登録する際は、［ホスト名］を以下のように入力します。

メモ
- アドバンスドボックスをアドレス帳に登録する方法の詳細については、e-マニュアル > スキャンして送信を参照してください。
- ループバックアドレスで指定すると、［ファンクション設定］（設定／登録）の［外部からの書き込み禁止］を「ON」に設定している場合でもアドバンスドボックスに保存できます。（→e-マニュアル > セキュリティ）

■送信プロトコルに［Windows(SMB)］を選択した場合

1 以下のように入力します。

入力例：
共有スペースに保存する場合：\\127.0.0.1\share
個人スペースに保存する場合：\\127.0.0.1\users

重要
ループバックアドレスは以下のとおりです。
- IPアドレス（IPv4形式）の場合：
  127.0.0.1
- IPアドレス（IPv6形式）の場合：
  [::1]
- ホスト名の場合：
  localhost

■送信プロトコルに［WebDAV］を選択した場合

1 以下のように入力します。

入力例：
http:// 127.0.0.1

重要
- ［ホスト名］は、以下の形式で入力してください。
  - SSL無効時：
    http://IPアドレスまたはホスト名
  - SSL有効時：
    https://IPアドレスまたはホスト名
- ループバックアドレスは以下のとおりです。
  - IPアドレス（IPv4形式）の場合：
    127.0.0.1
  - IPアドレス（IPv6形式）の場合：
    [::1]
  - ホスト名の場合：
    Localhost
- 送信先のimageRUNNER ADVANCE機にimagePASSが装着されている場合は、［ホスト名］を以下のように入力してください。
  - imagePASSを装着した他機のアドバンスドボックスへ送信する場合：
    SSL無効時：http://IPアドレスまたはホスト名:18080
    SSL有効時：https://IPアドレスまたはホスト名:18443

監査ログを管理できるようになりました（監査ログのエクスポート／クリア）

重要　監査ログ管理機能を使用または使用できなかったことによって発生した損害については、弊社はその責任を追いかねますので、あらかじめご了承ください。

監査ログ管理機能と管理できるログの種類について

本機能を使用すると、本体内に保存されるログをリモート UI で収集／管理できるようになります。管理者は、収集されたログを確認することで、本体がどのように使用されているかを調査できます。

■ ログの種類について

本機能で管理できるのは、次のようなログになります。

- ユーザー認証ログ
  ユーザー認証の認証状況と、ユーザー情報の登録／変更／削除に関するログです。
  - ログイン／ログアウトのログ
  - ユーザー認証の成功／失敗のログ
  - SSO-Hで管理されているユーザー情報の登録／変更などのログ
  - Access Management Systemのロール管理（追加／設定／削除）のログ
- ジョブログ
  - コピー／スキャン／送信／プリントジョブの完了に関するログです。
- ボックス文書操作ログ
  - ボックス／システムボックス／ファクスボックス内のデータの操作に関するログです。
- ボックス認証ログ
  - ボックス／システムボックス／ファクスボックスの認証状況に関するログです。
- ネットワーク接続ログ
  - IPSec通信に失敗したときのログです。
- 本体管理ログ
  - 本体の（設定／登録）の内、ネットワークやセキュリティーに関する設定を変更したときのログです。また、本体の日付/時刻設定の変更も本体管理ログに含まれます。
- 監査ログ管理機能のログ
  - 本機能を使用して行える、ログのエクスポートや削除に関するログです。

重要
- 本機能で管理可能なログの件数は、ログの種類にかかわらず2万件までです。ログがいっぱいになった場合は、古いログが順に消去されて、新しいログに上書きされます。
- スリープ時の消費電力が［多い］に設定されている場合、本体がスリープ状態になっているときはログの収集が行われません。

メモ　本項目で紹介したログは、ユーザー操作の過程において本体システムでの処理により複数個、収集される場合があります。

ログを管理する

重要　ログを管理する場合は、管理者としてリモート UI にログインしている必要があります。

メモ
- 収集したログとエクスポートしたログには、日時、ユーザー名、操作種別、結果（OK/NG）の項目が含まれます。ジョブログには、他にジョブの種類についての項目が含まれます。
- ネットワーク接続ログ、ボックス認証ログ、ボックス文書操作ログ、本体管理ログを生成する場合は、［監査ログを取得］を「ON」に設定したあと、本体を再起動します。（→e-マニュアル > セキュリティ）

■ログの収集を開始／停止する

ログの収集を開始／停止できます。収集したログは、ひとつの監査ログファイルに保存されます。

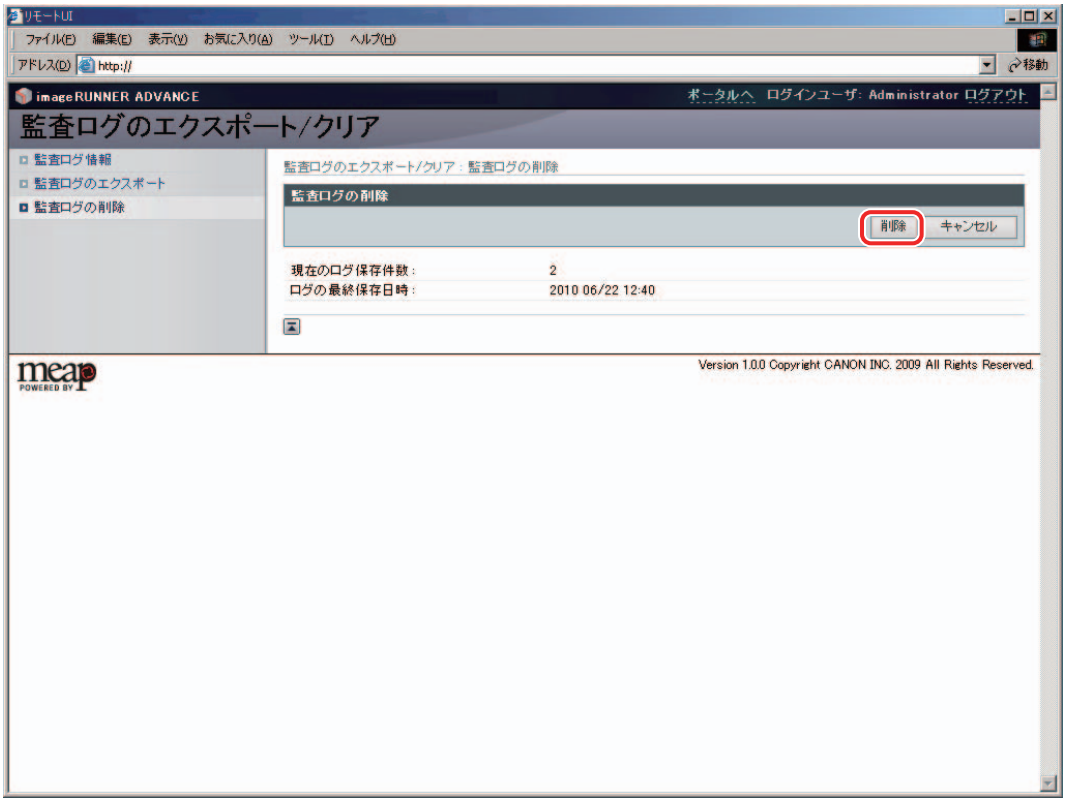
メモ
- 保存されたログは、収集された日付順に表示されない場合があります。
- 工場出荷時は、ログの収集は停止の設定になっています。
- ログの収集の開始または停止を設定すると、次に切り替えるまでは同じ状態が維持されます。本体の再起動では、設定は切り替わりません。
- ログの収集の開始を設定すると、設定後に生成されたログが収集されます。設定前に生成されたログは収集されません。

1　**［設定 / 登録］→［デバイス管理］→［監査ログのエクスポート / クリア］→［監査ログ情報］→ < 監査ログの収集 > の［開始］をクリックします。**

■ログの保存件数と収集／保存日時を確認する

本体から収集したログの保存件数と、収集／保存した日時を確認できます。

1 **［設定 / 登録］→［デバイス管理］→［監査ログのエクスポート / クリア］→［監査ログ情報］をクリックします。**



表示される項目

［現在のログ保存件数］：　現在保存されているログの件数が表示されます。

［ログの最終収集日時］：　最後に本体からログを収集した日時が表示されます。

［ログの最終保存日時］：　最後に本体から収集したログを保存した日時が表示されます。

■収集したログをエクスポートする

本体から収集した各種ログを、一括して CSV 形式でコンピューターに保存できます。

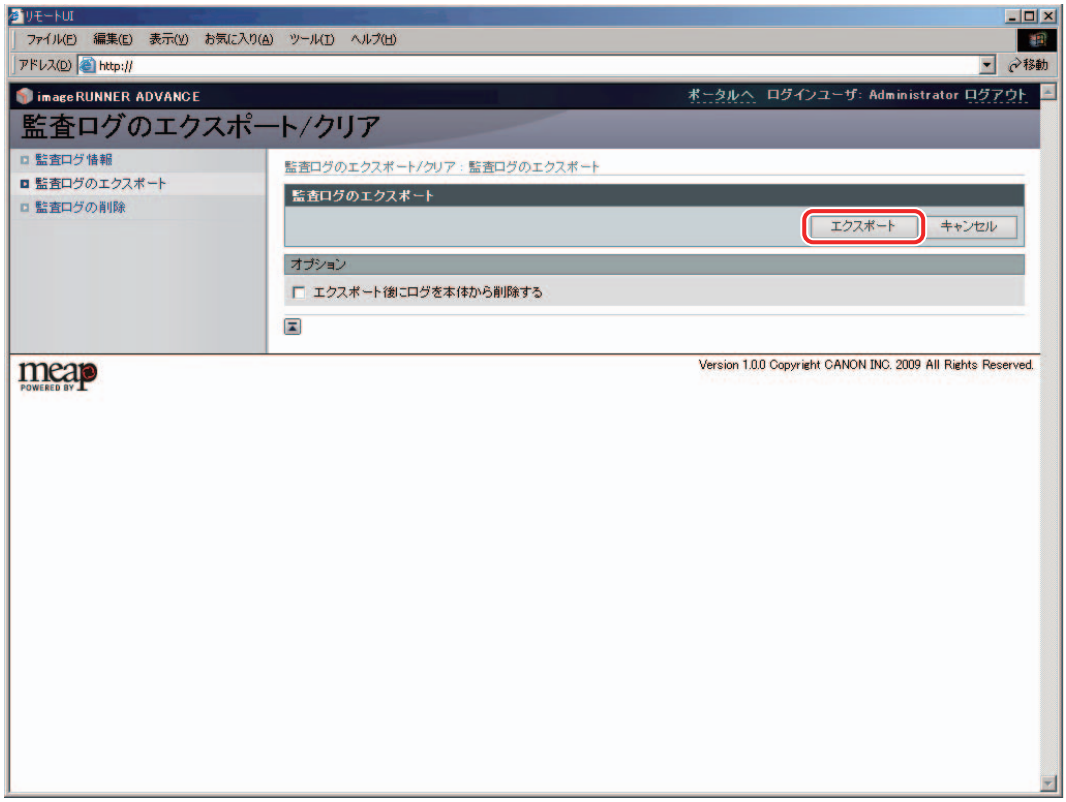
メモ　本体から収集した各種ログをエクスポートする際には、SSL または IPsec をご使用下さい。SSL を使用する場合は、［SSL を使用］を「ON」に設定したあと、本体を再起動します（→ e- マニュアル > リモート UI）。IPSec を使用する場合は、e- マニュアル > ネットワークを参照してください。

エクスポートされるログに記載されているログの種類の番号は、以下のログの種類と対応します。

4098	ユーザー認証ログ
1001/8193	ジョブログ
8197	ボックス文書操作ログ
8199	ボックス認証ログ
8200	ネットワーク接続ログ
8198	本体管理ログ
3001	監査ログ管理機能のログ

1 ［設定 / 登録］→［デバイス管理］→［監査ログのエクスポート / クリア］をクリックします。

2 < 監査ログのエクスポート > の［エクスポート］をクリックします。



エクスポートを行ったあと自動的にログを削除する場合は、［エクスポート後にログを本体から削除する］にチェックマークを付けます。

メモ ［エクスポート後にログを本体から削除する］にチェックマークを付けた場合は、［エクスポート］をクリックしたあと、必ず［保存］をクリックしてください。［キャンセル］をクリックすると、ログが保存されないまま削除されます。

3 画面の指示に従って、ファイルの保存場所を指定します。

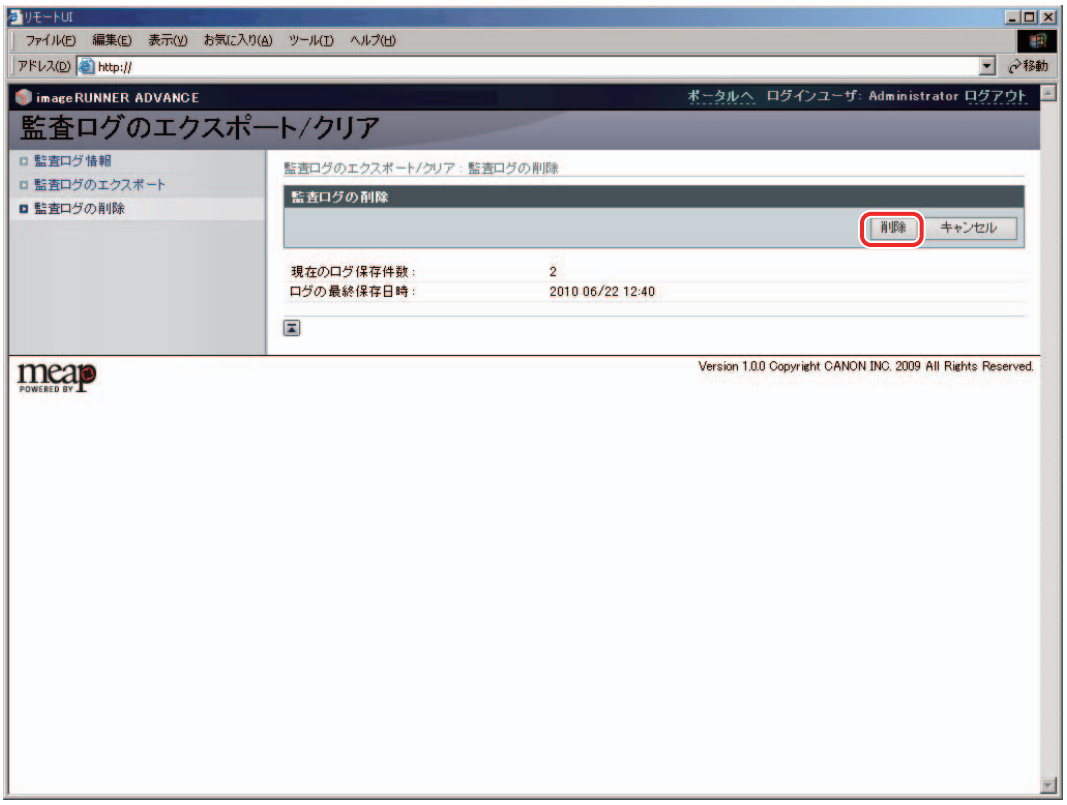
メモ
- エクスポート実行中は、ログの収集が停止されます。
- 本体の表示言語の設定がログを収集したときとエクスポートしたときとで異なる場合、ファイルの内容が文字化けすることがあります。

■収集したログを削除する

本体から収集したログを、一括して削除できます。

1 ［設定 / 登録］→［デバイス管理］→［監査ログのエクスポート / クリア］をクリックします。

2 < 監査ログの削除 > の［削除］をクリックします。



3 ［OK］をクリックします。

■エラーが表示されたときには

本機能で管理されるメモリー領域に何らかのエラーが発生した状態で、ログのエクスポートや削除を実行すると、リモート UI 上に「エラーが発生したため、監査ログの管理領域が壊れた可能性があります。システムの初期化を行います。」というメッセージが表示されます。

1 ［OK］をクリックします。

メモリー領域の初期化が実行され、正常な状態に回復されます。

メモ

- 初期化するとログの収集が停止し、それまでに収集したログはすべて削除されます。再度ログの収集を開始するには、e-マニュアル > リモートＵＩを参照してください。
- エラーが発生した場合、タッチパネルディスプレー上に「エラーのため監査ログを取得できません。」というメッセージが表示されます。

アドレス帳のエクスポート／インポートにパスワードを含めることができるようになりました

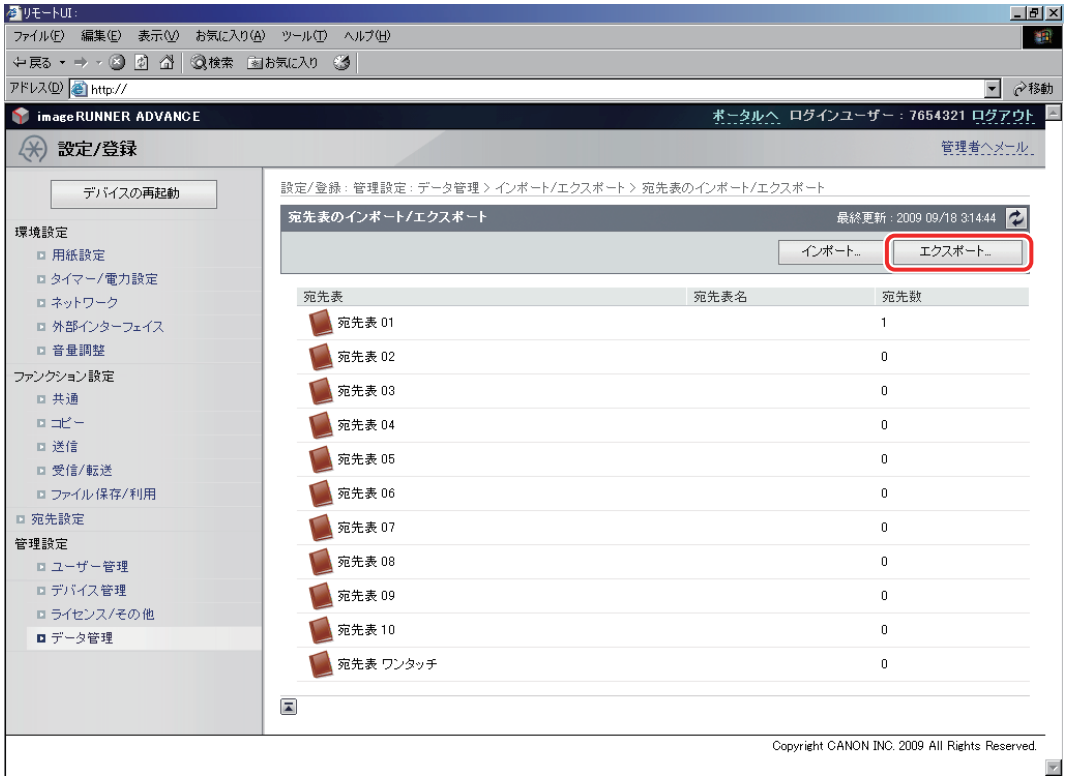
［宛先表］と［デバイス設定（転送設定、アドレス帳、送信のよく使う設定）］のアドレス帳のパスワード情報を暗号化してエクスポートできます。また、暗号化されたパスワード情報を複合化してインポートできます。ここでは、宛先表のエクスポート／インポート方法について説明します。デバイス設定のアドレス帳もパスワード情報の暗号化／複合化については、同様の手順となります。

宛先表／アドレス帳のエクスポート／インポート時にパスワード情報を含めるときは、あらかじめ［宛先設定］（設定／登録）の［アドレス帳エクスポートの対象にパスワードを含める］を ON にする必要があります。（→宛先表エクスポート時にパスワードを含めるかどうか設定できるようになりました：P.31）

宛先表をファイルに保存する（エクスポート）

宛先表の情報をファイルとしてコンピューターに保存できます。

1 **［設定 / 登録］をクリックして、管理設定に表示されるメニューから［データ管理］を選択したあと、［インポート / エクスポート］→［宛先表］→［エクスポート］をクリックします。**



宛先表に暗証番号が設定されている場合は、暗証番号を入力する画面が表示されます。宛先表の暗証番号を入力したあと、［OK］をクリックします。

2 宛先表とファイルの保存形式を選択したあと、［エクスポート開始］をクリックします。

表示される項目

［宛先表］：	ドロップダウンリストから、ファイルに保存する宛先表を選択します。
［フォーマット］：	ファイルの保存形式を選択します。 ・［専用フォーマット］の場合は、保存したファイルを同じ機種にインポートできます。 ・LDAP フォーマット］の場合は、保存したファイルを他のアプリケーションソフト（Microsoft Internet Explorer、Netscape Navigator、Microsoft Outlook、Eudora など）で利用できます。他のアプリケーションでは、LDAP データとしてインポートしてください。
［パスワード］：	宛先表の認証情報を暗号化するためのパスワードを入力します。
［確認入力］：	パスワードを再度入力します。異なるパスワードを入力した場合は、エラーのダイアログボックスが表示されます。

メモ

- ［パスワード］と［確認入力］は、以下の設定を行ったときに表示されます。
  ［設定/登録］→［宛先設定］→［アドレス帳のエクスポート設定］→［アドレス帳エクスポートの対象にパスワードを含める］にチェックマークを付けたとき
- ［LDAPフォーマット］で保存できるのは、Eメールアドレスのみです。宛先表に登録されているすべての情報を保存する場合は、［専用フォーマット］を選択してください。
- 宛先表の名称はエクスポートされません。

3 画面の指示に従って、ファイルの保存場所を指定します。

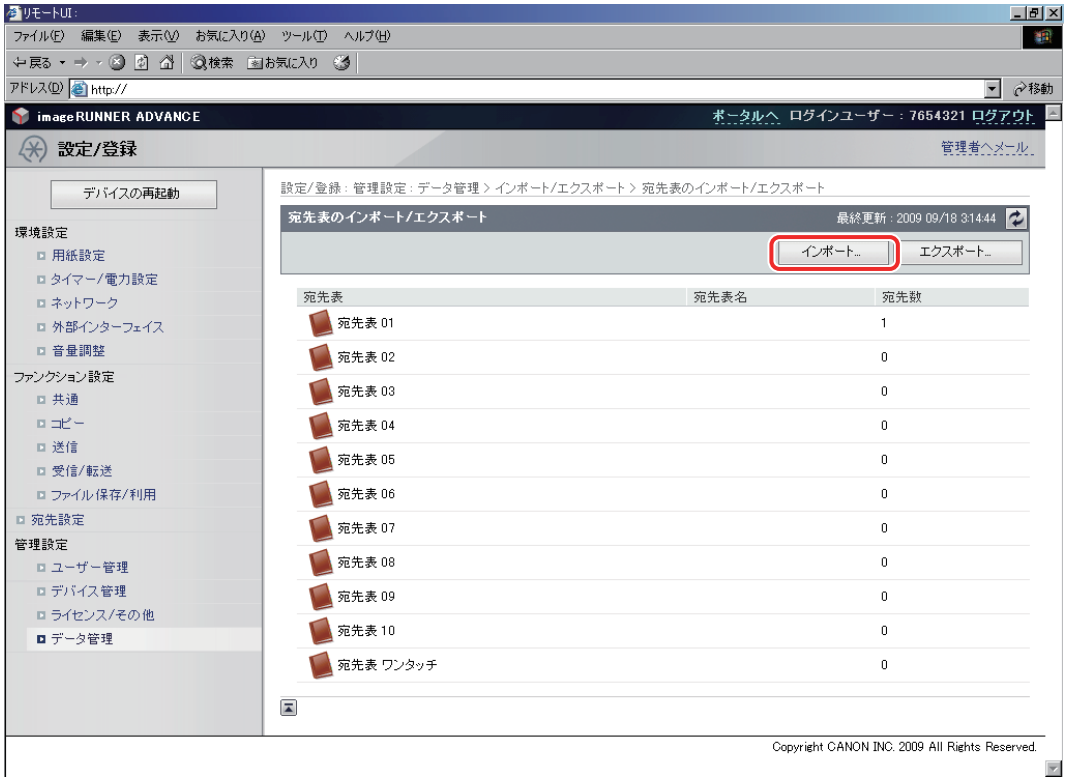
宛先表をファイルから読み込む（インポート）

コンピューターに保存したファイルから、宛先表の情報を本製品に読み込むことができます。

重要
- 宛先表（削除後に上書き）、転送設定、設定/登録のインポートを行うと、よく使う設定ボタンに登録されている内容は削除されます。
- 本製品が原稿を読み込んでいるときは、インポートを行うことはできません。

メモ
- 宛先表には最大1800件の宛先を登録できます（200件はワンタッチボタン用の宛先です）。宛先はそれぞれの情報が1件として扱われます。宛先を追加インポートするときは、すでに登録されている宛先との合計が1800件を超えないようにしてください。
- LDAPフォーマットのファイルをインポートするときは、Eメールアドレスが登録されている宛先が、本製品に登録されます。登録する宛先が1800件を超えないようにしてください。
- 宛先表のワンタッチボタンの情報は、LDAPフォーマットではインポートできません。

1 **［設定 / 登録］をクリックして、管理設定に表示されるメニューから［データ管理］を選択したあと、［インポート / エクスポート］→［宛先表］→［インポート］をクリックします。**



宛先表に暗証番号が設定されている場合は、暗証番号を入力する画面が表示されます。アドレス帳の暗証番号を入力したあと、［OK］をクリックします。

2 **インポートするファイルを選択したあと、必要な設定をして、［インポート開始］をクリックします。**

表示される項目

［宛先表］：　ドロップダウンリストから、更新する宛先表を選択します。

［インポート方法］：　宛先表の更新方法を選択します。

・［追加］の場合は、読み込まれたファイルの宛先が追加されます。現在登録されている宛先は変更されません。

・［削除後に上書き］の場合は、現在登録されている宛先が削除され、読み込んだファイルの内容に更新されます。

［ファイルへのパス］：　読み込むファイルの場所を指定します。

［フォーマット］：　ファイルの保存形式を選択します。

・［専用フォーマット］の場合は、同じ機種からコンピューターに保存したファイルをインポートします。

・［LDAP フォーマット］の場合は、他のアプリケーションソフトからインポートします。

暗号化された宛先をインポートする場合は、［宛先表の認証情報を復合化する］にチェックマークを付けたあと、パスワードの項目を入力してください。

重要
- 宛先表1～10をインポートする場合、［インポート方法］の［追加］を選択すると、すでに同じ名称の宛先が本製品に登録されていても、同一名称で新たに登録されます。
- 宛先表のワンタッチボタンをインポートする場合は、［インポート方法］の［追加］が［上書き］に切り替わります。
- ［インポート方法］で［削除後に上書き］を選択すると、本製品に登録されている宛先をすべて削除してから、読み込んだファイルの内容が登録されます。

メモ
- 「LDAPフォーマット」を選択できるのは、Eメールアドレスのみです。宛先表のワンタッチボタンの内容は、LDAPフォーマットではインポートできません。宛先表に登録されているすべての情報を保存する場合は、「専用フォーマット」を選択してください。
- 宛先表の名称はインポートされません。

鍵ペアとサーバー証明書、CA 証明書のアルゴリズムが変更されました

鍵ペアとサーバー証明書

本製品で使用可能な鍵ペアと証明書のアルゴリズムは以下のとおりです。

署名アルゴリズム	鍵の長さ
sha1RSA/sha256RSA/sha384RSA* /sha512RSA*/MD2RSA**/MD5RSA**	512 ビット /1024 ビット /2048 ビット /4096 ビット

* 鍵の長さが 1024 ビット以上の場合のみ使用できます。

** リモート UI からのインストール時のみ使用できます。

本製品で使用可能な鍵ペアと証明書のフォーマットは以下のとおりです。

証明書フォーマット	ファイルフォーマット	ファイル拡張子
X.509v1/X.509v3*	PKCS#12	.pfx/.p12

* リモート UI からのインストール時のみ使用できます。

CA 証明書

本製品で使用可能な証明書のアルゴリズムは以下のとおりです。

署名アルゴリズム	鍵の長さ
sha1RSA/sha256RSA/sha384RSA* /sha512RSA*/MD2RSA/MD5RSA	512 ビット /1024 ビット /2048 ビット /4096 ビット
sha1DSA	1024 ビット /2048 ビット /3072 ビット

* 鍵の長さが 1024 ビット以上の場合のみ使用できます。

本製品で使用可能な証明書のフォーマットは以下のとおりです。

証明書フォーマット	ファイルフォーマット	ファイル拡張子
X.509v1/X.509v3	PKCS#12	.pfx/.p12

MEAP 機能に関する変更

SMS は常時、SSL 暗号化通信で使用することになりました

SMS を SSL 暗号化通信で使用するには、事前に鍵ペアとサーバー証明書を使用鍵として設定しておく必要があります。本製品にはプリインストール済みの鍵ペアとサーバー証明書が登録されています。ここでは、この鍵ペアとサーバー証明書を使用鍵に設定する方法について説明します。

メモ　使用鍵を設定せずに SMS にアクセスすると、「HTTP 500 内部サーバーエラー」が表示されます。このエラーが出たときは必ず本手順に従って、SSL の使用鍵を設定してください。

1 **(設定／登録)→［環境設定］→［ネットワーク］→［TCP/IP 設定］→［SSL 設定］を押します。**

2 **［鍵と証明書］を押します。**

3 **「Default Key」（プリインストール済みの鍵ペアとサーバー証明書）を選択したあと、［使用鍵に設定］を押します。**

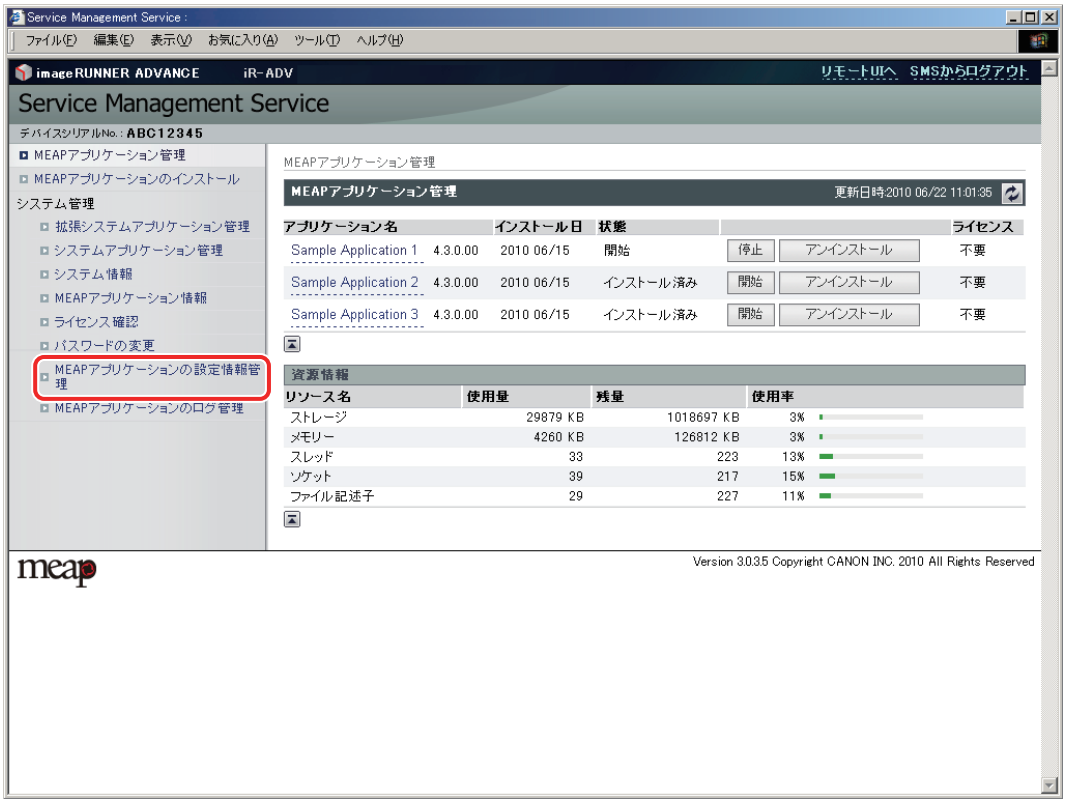
4 **［はい］→［OK］を押します。**

メモ
- 本製品の操作パネルでSSL暗号化通信に必要な鍵ペアと自己署名型サーバー証明書を作成する方法については、e-マニュアル > セキュリティーを参照してください。
- SMSは［管理設定］（設定／登録）の［MEAP設定］－［SSLを使用］のON/OFFに関わらず、使用鍵を設定することで、常時、SSL暗号化通信で行います。

SMS 使用時に MEAP アプリケーションの設定情報を管理できるようになりました（MEAP アプリケーションの設定情報管理)

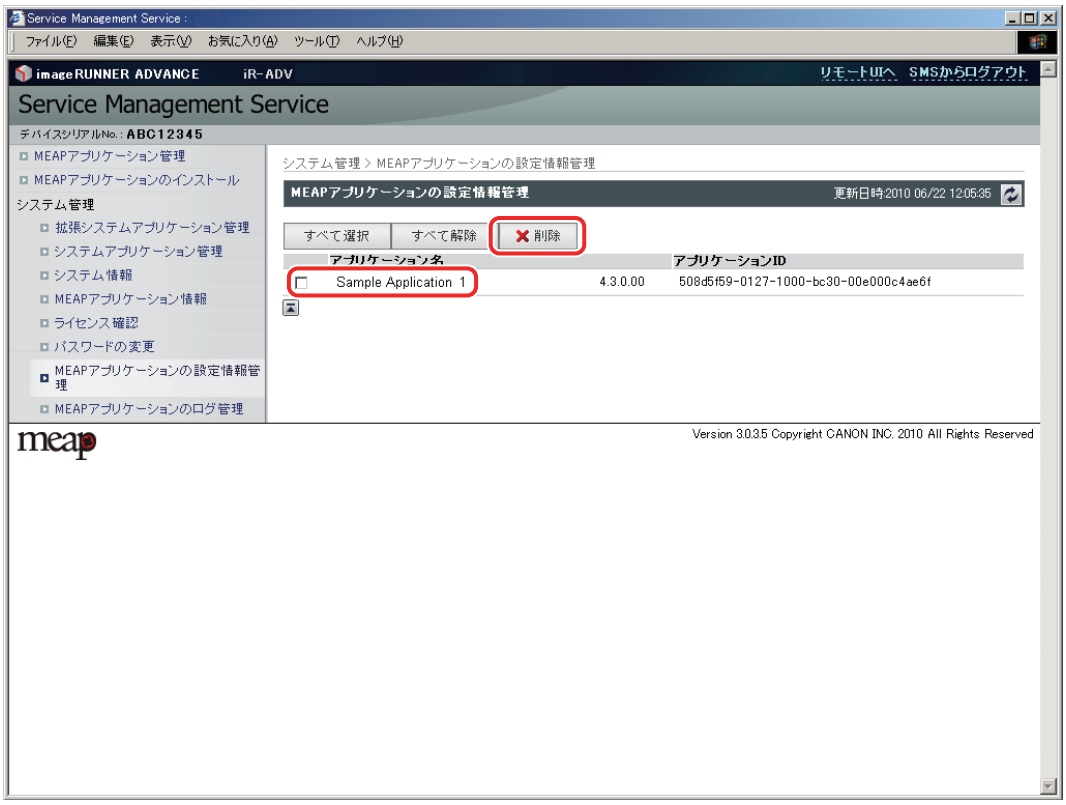
アプリケーションデータの削除を行います。

1 ［MEAP アプリケーションの設定情報管理］をクリックします。



［MEAP アプリケーションの設定情報管理］ページが表示されます。

2 削除するMEAPアプリケーションにチェックマークを付けたあと、[削除]をクリックします。



「選択した MEAP アプリケーションの設定情報を削除します。よろしいですか？」というメッセージが表示されます。

メモ　登録されている全てのアプリケーションを選択するには、［すべて選択］をクリックします。

3 削除する内容を確認して、［はい］をクリックします。

「MEAP アプリケーションの設定情報を削除しています ... しばらくお待ちください。」というメッセージが表示されたあと、削除が始まります。

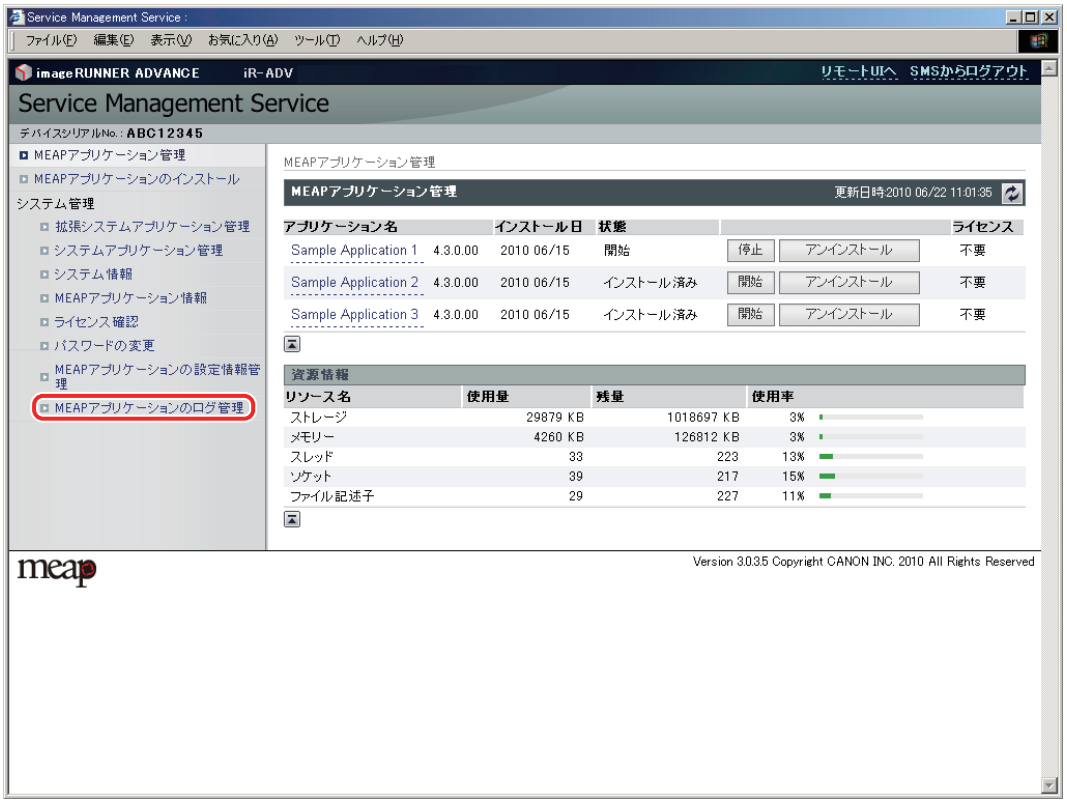
削除が成功すると、完了をお知らせするメッセージが表示され、［MEAP アプリケーションの設定情報管理］ページに戻ります。

SMS 使用時に MEAP アプリケーションのログを管理できるようになりました (MEAP アプリケーションのログ管理)

アプリケーションのログデータのダウンロードや削除ができます。

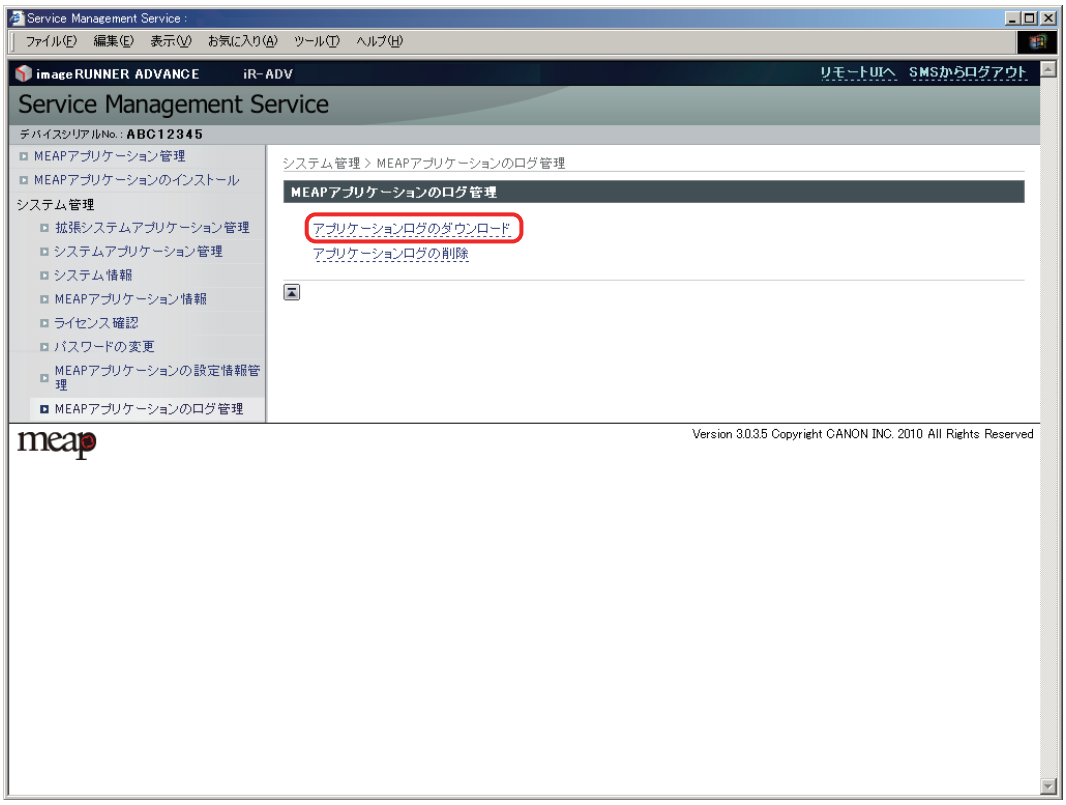
アプリケーションログのダウンロード

1 ［MEAP アプリケーションのログ管理］をクリックします。



［MEAP アプリケーションのログ管理］ページが表示されます。

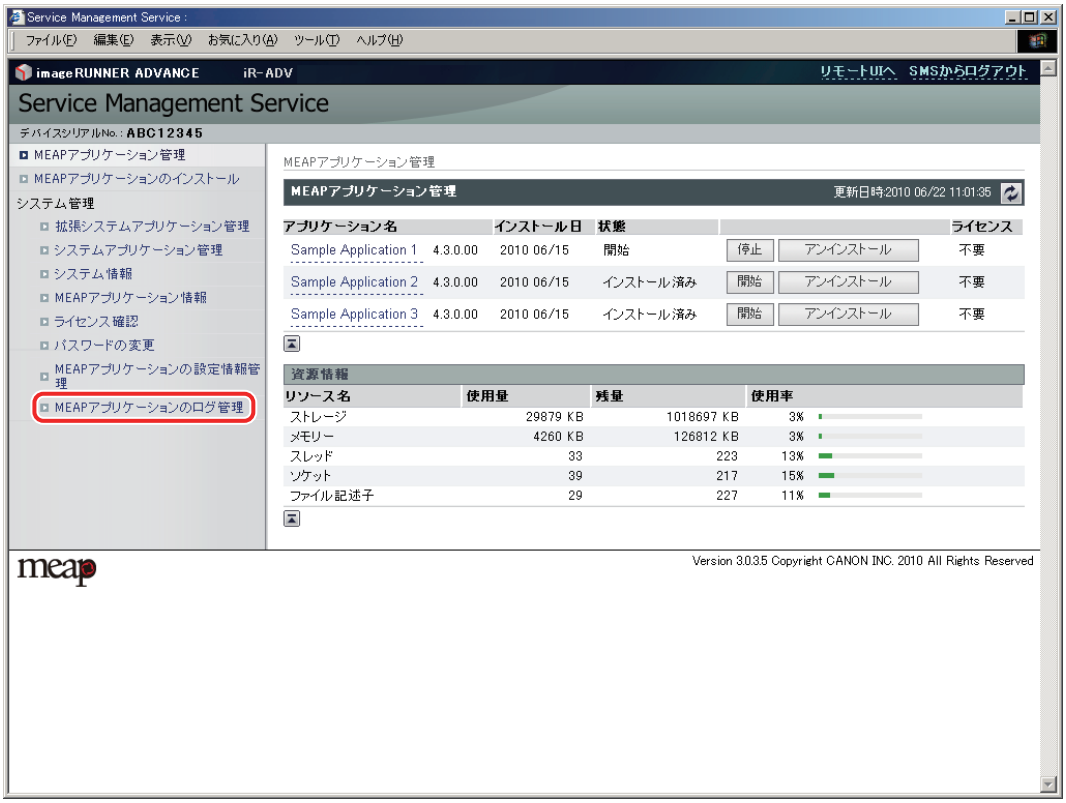
2 ［アプリケーションログのダウンロード］をクリックします。



表示されたダイアログボックスに従ってログファイルのダウンロードを行います。

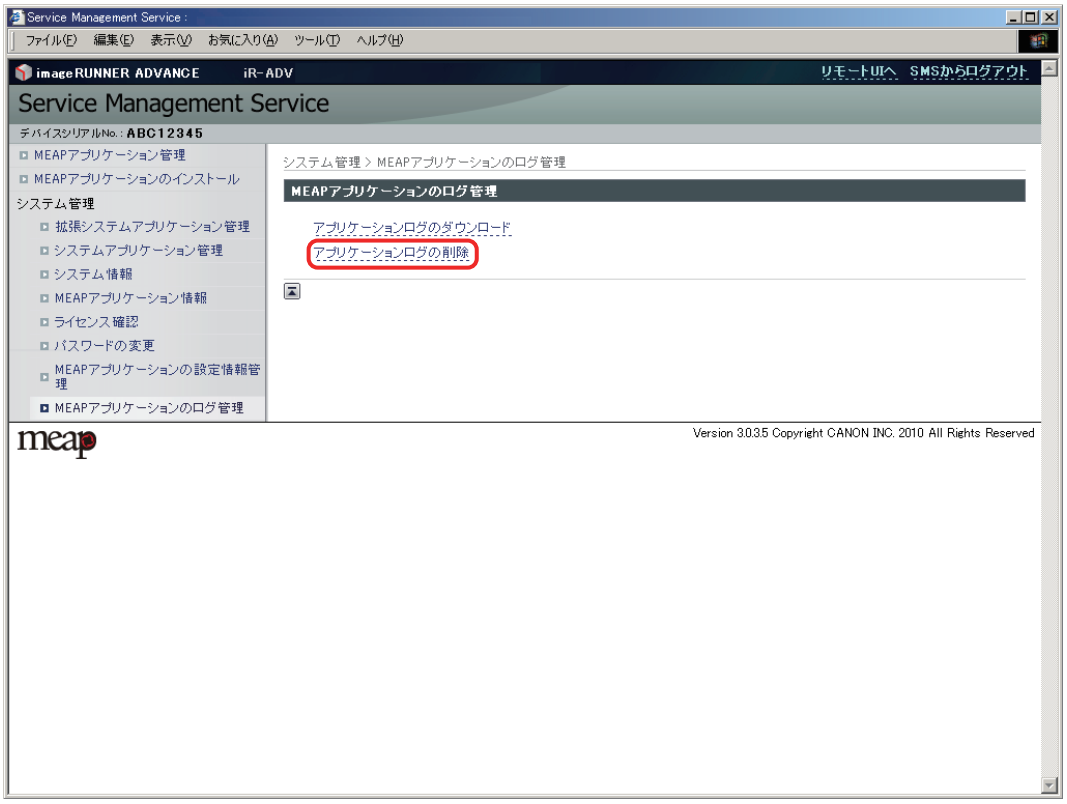
アプリケーションログの削除

1 ［MEAP アプリケーションのログ管理］をクリックします。



［MEAP アプリケーションのログ管理］ページが表示されます。

2 ［アプリケーションログの削除］をクリックします。



［アプリケーションログの削除］ページが表示されます。

「アプリケーションのログをすべて削除します。よろしいですか？」と表示されます。

3 ［はい］をクリックします。

削除が成功すると、完了をお知らせするメッセージが表示され、［MEAP アプリケーションのログ管理］ページに戻ります。

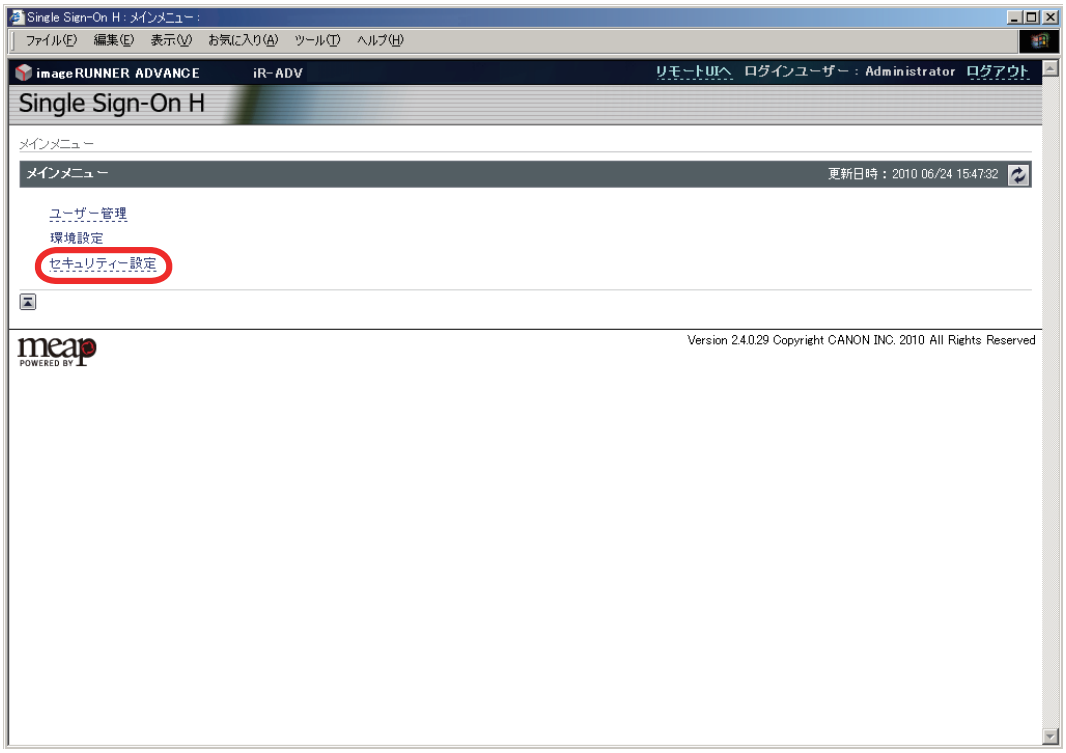
SSO-H 使用時にデフォルトパスワードでのログインを許可できるようになりました（管理者がデフォルトのパスワードで運用することを許可する）

タッチパネルディスプレーから、システムアドミニストレーター（Administrator）が工場出荷時のユーザー名とパスワードで本体にログインするときに、パスワードの変更を促す画面が表示されないように設定できます。

重要　工場出荷時のパスワードのままで SSO-H を使用すると、セキュリティー面で問題が起こる可能性があります。パスワードを変更して SSO-H を使用することをおすすめします。

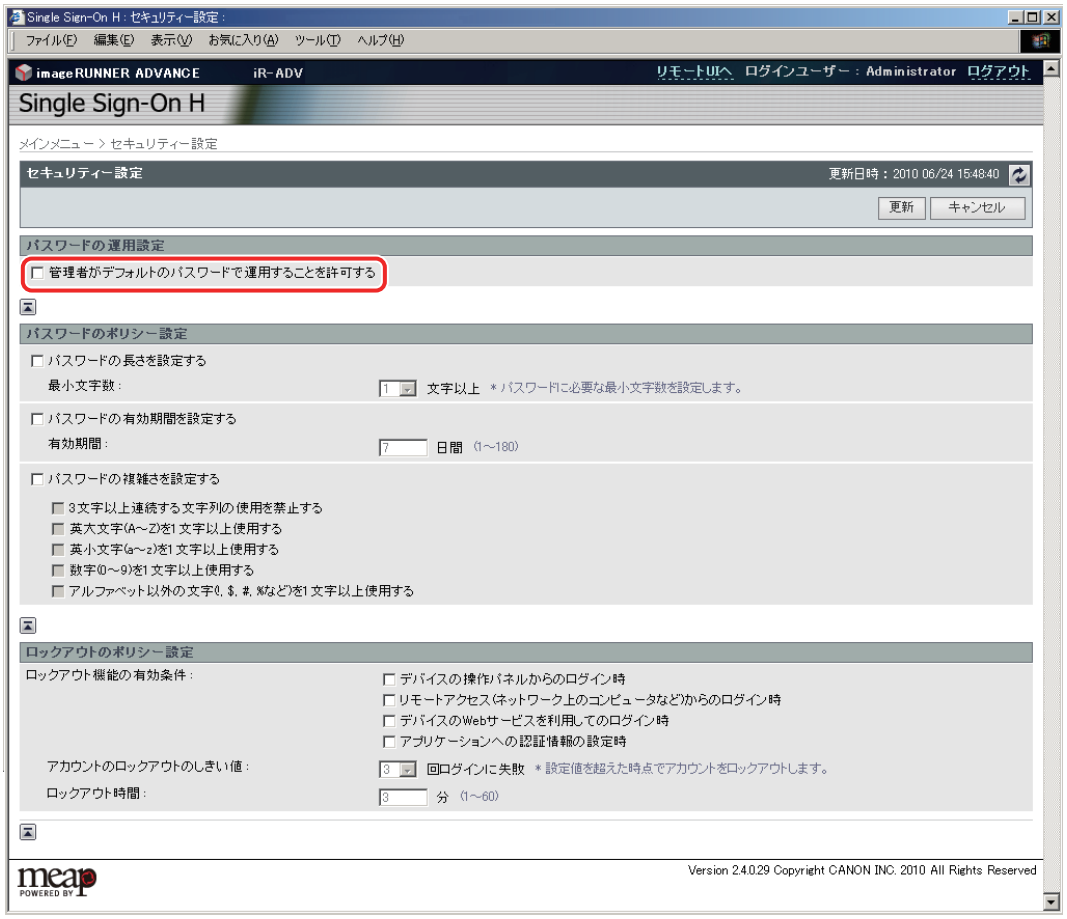
メモ　パスワードの有効期限が切れた場合は、この設定にかかわらずパスワードの変更画面が表示されます。

1 **ログインしたあと、［セキュリティー設定］をクリックします。**



［セキュリティー設定］ページが表示されます。

2 ［管理者がデフォルトのパスワードで運用することを許可する］にチェックマークを付けます。



3 ［更新］をクリックします。

情報セキュリティ規格（IEEE 2600）について

本製品は、IEEE Std 2600™-2008（以下、IEEE 2600）という複合機・プリンターの情報セキュリティーに関する国際的な規格に準拠しており、IEEE 2600 で定められたセキュリティーを実現することができます。

メモ
- IEEE 2600 で定められた各セキュリティー要件に関する本製品での対応については、下記「IEEE 2600 で定められたセキュリティーについて」を参照してください。
- 本製品ではIEEE 2600.1 CC 認証は取得しておりません。

IEEE 2600 で定められたセキュリティーについて

IEEE 2600 で定められたセキュリティー機能要件と、本体でその要件を満たすために使用する機能は、下記のとおりです。

セキュリティー機能要件	本機で使用する機能	内容
ユーザー認証／ユーザー情報管理 本体を使用するユーザーを認証管理して、不正アクセスを防止	SSO-H(Single Sign-On H)	・ユーザー名／パスワードを登録して、本機を使用するユーザーの個人認証を行います。 ・ユーザー情報として、ユーザー名／パスワードのほか、部門 ID やロール（権限）などを管理します。
アクセス制御 ユーザーごとの機能操作を制限	ACCESS MANAGEMENT SYSTEM 拡張キット *1	ユーザーごとにプリントやコピーなどの機能に対してアクセス制限を行います。
監査ログ *2 セキュリティーに関わるユーザー操作を監視	監査ログの生成／エクスポート	ユーザー認証ログやジョブログなどを生成して、リモート UI から csv 形式でエクスポートできます。
残存データの消去 本体内のハードディスク等に残存するデータを完全消去	データ消去キット *1	ハードディスク内の不要なデータを削除する際に、データを上書き消去します。
本体内のデータ保護 *3 ハードディスク内の各種データや機密情報を保護	HDD データ暗号化／ミラーリングキット *1	ボックスの保存ファイル、アドレス帳の登録情報やパスワード情報などハードディスクに格納されたデータを暗号化します。
ネットワーク上のデータ保護 暗号化通信により送受信データを保護	IPSec セキュリティーボード *1	暗号化通信のためのセキュリティーポリシーを作成して、IP ネットワーク上で送受信されるデータを盗聴、改ざんやなりすましの脅威から保護します。
ソフトウェア検証 セキュリティー機能の自己検証	IPSec セキュリティーボード *1	IPSec 設定が有効時、本体起動時に暗号モジュールの自己テストを自動的に行います。

*1：オプション
*2:「スキャンして保存」／「保存ファイルの利用」のアドバンスドボックス／ネットワーク／メモリーメディアの操作は、監査の対象外となります。
*3：メモリーメディア内のファイルは、暗号化されません。

ホールド機能の追加

ジョブホールド機能が追加されました。

ジョブホールド機能について

ジョブホールド機能とは、プリントのジョブデータを本製品内のホールドキューという特殊なボックスに一時的に保存する機能です 。

プリントとホールド

本製品へのジョブの投入時に、ジョブをプリントとホールドどちらで処理するかを選択できます。

■ プリント

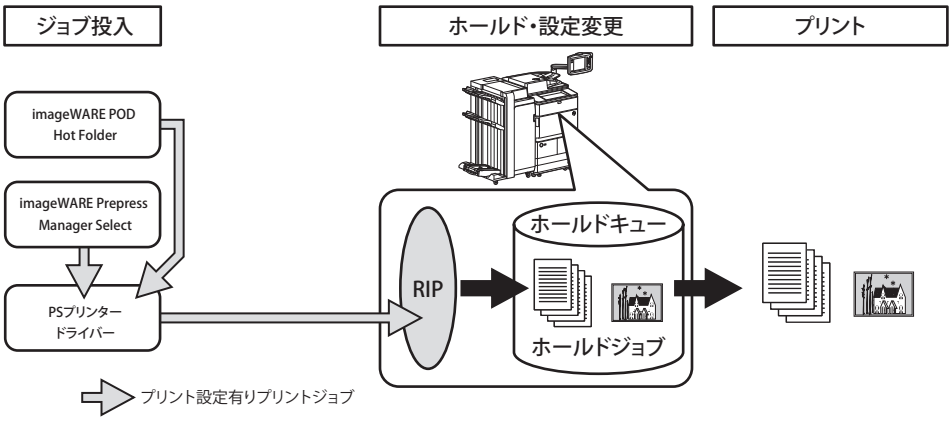
プリントとは、プリントキューに直接ジョブを送信して、すぐにプリントを実行することを指します。プリントは、送信したジョブをそのまま印刷しても問題がないことを確認したうえで行う必要があります。

■ ホールド

ホールドは、ジョブをホールドキュー内で保存し、ホールドジョブリストからジョブを選択して、プリントを実行します。ジョブをホールドすることにより、プリント前に確認してからプリントすることができます。

ホールドキューとは

本製品に投入されたホールド状態のジョブは、ホールドキューに格納されます。ホールドキュー内のジョブは RIP（Raster Image Processor）処理が終了しています。ホールドされたジョブに対して出力を指示すると、プリントされます。

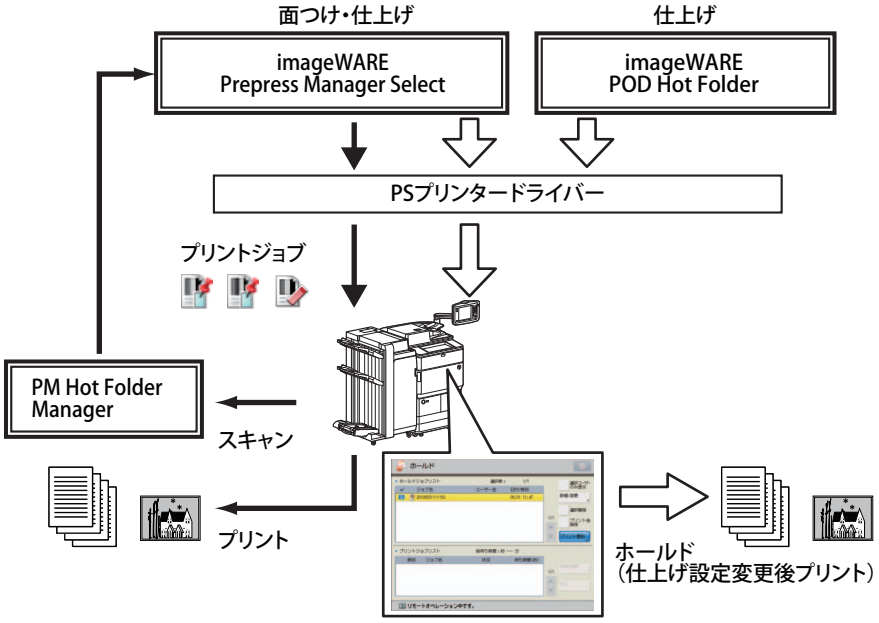


メモ

- ジョブホールド機能を使用する場合は、［ファンクション設定］（設定／登録）の［ホールド］の［ホールド機能を使用］を「ON」に設定してください。
- ホールドジョブは一定時間を過ぎるとホールドキューから自動的に消去されます。自動消去までの時間は、ホールドジョブを投入してから、またはジョブの設定を変更してから3日です。ホールドジョブの自動消去までの時間は、［ファンクション設定］（設定／登録）の［ホールド］の［ホールドジョブの自動削除までの時間］で変更できます。
- 以下のような場合には、ホールドキューにジョブを保存することができません。（ハードディスクの使用状況によっては記載値に満たない場合があります。）
  - ボックス全体とホールドキューに、合計2000件のファイルが保存されているとき
  - ボックス全体とホールドキューに、合計約8000ページのファイルが保存されているとき

imageRUNNER ADVANCE 8085 PRO と関連アプリケーション

ジョブホールド機能を最大限に活用するために、以下の印刷支援アプリケーションがラインアップされています。



■ PSプリンタドライバー

本体を PS プリンターとして使用するためには、オプションの PS 拡張キットが必要です。オプションの詳細については、e- マニュアル > オプション／ソフトウェアについてを参照してください。以下で示す印刷支援アプリケーションや出力管理アプリケーションを使用するときに必要です。

■ imageWARE Prepress Manager Select

Prepress Manager は、印刷支援アプリケーションです。幅広い面付け機能によって、さまざまなドキュメントを作成し、編集、印刷することができます。エクスポート機能を使って、取り込んだデータを PDF、JPEG、TIFF、BMP へ変換できます。また、取り込んだスキャン画像を、付属のイメージエディタで編集、補正することもできます。

■ PM Hot Folder Manager

PM Hot Folder Manager は、Prepress Manager に付属するスキャン支援アプリケーションです。コンピューターからリモートスキャンを行ったり、コンピューター上のフォルダーへ自動的に画像を取り込んだりできるホットフォルダー [*1] 機能を持っており、定型業務を設定しておくのに適しています。

■ imageWARE POD Hot Folder

ホットフォルダー [*1] として登録されているコンピューター上のフォルダーを定期的に監視します。サポートしている PDF ファイルが当該フォルダーへドラッグ＆ドロップされると、あらかじめ設定されている仕上げ設定などを付加し、PS プリンタードライバーへファイルを送信します。

ジョブチケットを利用したワークフロー

JDF（Job Definition Format）*2 の属性情報（ジョブチケット）を持っているホールドジョブは、本製品にセットされている用紙の種類やサイズを確認してからプリントしたり、試し印刷をして、仕上げの設定変更を行ってからプリントしたりするなど、1 ステップごとに確認しながら作業を進められます。JDF 以外の属性情報を持つジョブの設定変更は、プリンタードライバーや imageWARE Prepress Manager などの関連するアプリケーションから行います。

重要　プリンタードライバーから投入したジョブは、ジョブチケットの編集はできません。

メモ
- ジョブチケットにはジョブ全体に適用されるものと、ジョブをページ単位で区切ったページ範囲ごとに適用されるものがあります。
- 設定項目によって、ジョブチケットの編集ができるものとできないものとがあります。
  詳しくは次の表を参照してください。

ジョブチケットの編集が可能な設定項目	ジョブチケットの編集が不可能な設定項目
部数 用紙選択（用紙タイプ／給紙段） とじしろ（とじ位置／とじしろ量） 印字領域の移動 　仕上げ 　ホチキス 　ソート 　グループ 　シフト 　排紙面指定	両面／片面 用紙選択（用紙サイズ） ページ番号印字 部数印字 表紙／裏表紙／合紙／インデックス紙 仕上げ 　Z 折り／ 2 つ折り／ C 折り／外 3 つ折り／ 4 つ折り 　パンチ 　製本

*1 ホットフォルダー (Hot Folder)：
コンピューター上のフォルダーにあらかじめ印刷属性を設定しておき、そこへファイルをドラッグ & ドロップするだけで生産機器へ印刷データを送信することができる。複雑な設定でもその都度設定する必要が無いため、プリントオンデマンド業務の効率化、標準化を図ることができる。

*2 JDF（Job　Definition Format）：
国際協議会 CIP4 が提唱する XML ベースのプリントジョブチケット規格。印刷の全工程（プリプレス、プレス、ポストプレス）における属性情報が記述されている、マネジメントシステムと生産機器間の情報伝達を双方向で行うための業界標準フォーマット。

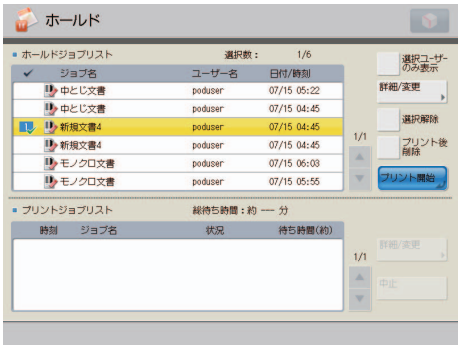
ホールド画面について

メインメニュー画面から［ホールド］を選択すると、ホールド画面が表示されます。ホールド画面には、上段にホールドジョブリスト 、下段にプリントジョブ リストが表示されます。

ホールドジョブリスト画面には、ホールドキューに保存されているすべてのホールドジョブが表示されます。

プリントジョブリストには、プリントおよびプリント待機中のジョブが表示されます。

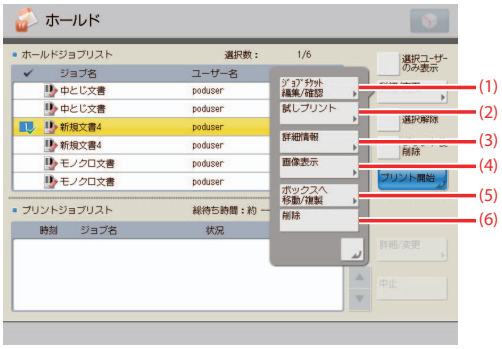
■ ホールド画面



■ ホールドジョブリスト／プリントジョブリスト画面

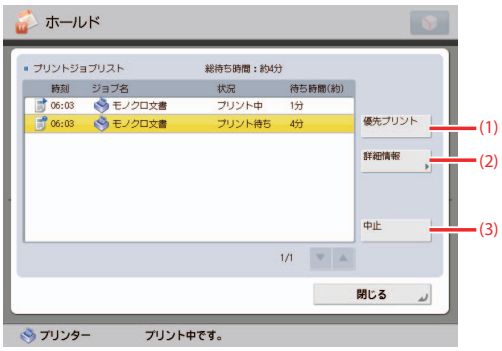
1	**ホールドジョブリスト** ホールドキューに保存されているジョブを表示します。	6	**プリント開始** 選択したジョブのプリントを開始します。
2	**全ユーザーを表示／選択ユーザーのみ表示** ジョブを投入したユーザー名に基づいて表示を切り替えます。すべてのユーザーのジョブを表示したり、指定したユーザーのジョブのみを表示したりできます。	7	**詳細 / 変更（プリントジョブリスト）** ［優先プリント］、［詳細情報］のボタンを表示します。
3	**詳細 / 変更（ホールドジョブリスト）** ［ジョブチケット編集／確認］、［試しプリント］、［詳細情報］、［画像表示］、［ボックスへ移動 / 複製］、［削除］のボタンを表示します。	8	**中止** 選択した実行中ジョブのプリントを中止します。
4	**全選択（100 まで）／選択解除** ホールドジョブリストのジョブを全選択したり、選択を解除したりできます。	9	**プリントジョブリスト** プリント中、プリント待機中のジョブを表示します。
5	**プリント後削除** プリント終了後、ジョブを自動的に削除する設定ができます。		

■ ホールドジョブ詳細／変更画面



1	**ジョブチケット編集 / 確認** 選択したジョブのジョブチケットを編集または確認します。（→ジョブホールド機能について P.75） ［ジョブチケット編集 / 確認］はジョブチケットを持っているジョブを選択した場合のみ有効です。プリンタードライバーから投入されたジョブを選択した場合は、ジョブチケットの編集はできません。	4	**画像表示** 選択したジョブのプレビューを表示します。（→ジョブの画像を確認する P.84）
2	**試しプリント** 選択したジョブの試しプリントをします。（→プリントの仕上がりや保存ファイルの内容を確認する（試しプリント）P.83）	5	**ボックスへ移動 / 複製** 選択したジョブをボックスに移動または複製できます。（→ボックスへジョブを移動／複製する P.85）
3	**詳細情報** 選択したジョブの詳細情報を表示したり、ジョブ名の変更ができます。（→ジョブの詳細情報を確認する P.84）	6	**削除** 選択したジョブをリストから削除します。

■ プリントジョブ詳細／変更画面



1	**優先プリント** リストから選択したジョブを優先してプリントします。（→優先プリントする P.86）
2	**詳細情報** ジョブを一時的に停止する場合は、［一時停止］を押します。メモリーに残ったプリントデータを強制的にプリントする場合は、［排出］を押します。エラーを一時的に解除してプリントを続行する場合は、［エラースキップ］を押します。プリントジョブを選択したとき、エラースキップで一時解除できるエラーの種類については e- マニュアル > プリントを参照してください。
3	**中止** 選択した実行中ジョブのプリントを中止します。

ホールドキューにファイルを保存する

ホールドキューにファイルを保存する方法について説明します。

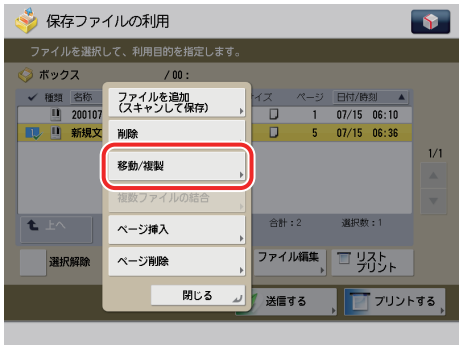
メモ
- ホールドキューに文書を保存する方法は以下のとおりです。
  - ボックスにある文書を移動／複製する
  - プリンタードライバーからホールドキューへ保存する
- プリント設定のないファイルはホールドキューに移動または複製できません。
- プリンタードライバーからファイルを保存する方法については、e-マニュアル > プリントを参照してください。

ボックスからファイルを移動／複製する

重要
- 受信トレイにある文書や、アドバンスドボックス、ネットワーク、メモリーメディアにあるファイルは、ホールドキューに移動したり複製したりすることはできません。
- ボックスで［ファイル編集］の［複数ファイルの結合］または［ページ挿入］を行ったファイルは、ホールドキューに移動したり複製したりすることはできません。

1 **メインメニュー画面から［保存ファイルの利用］を押したあと、［ボックス］を押します。**

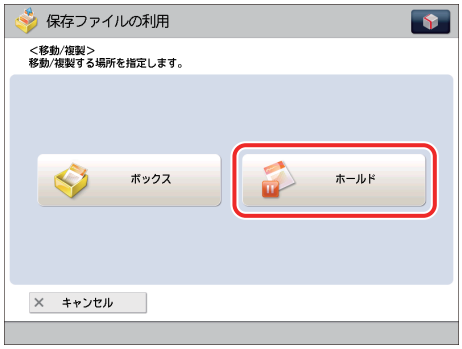
2 **目的のボックスを指定して、移動または複製するファイルを選択したあと、［ファイル編集］→［移動 / 複製］を押します。**



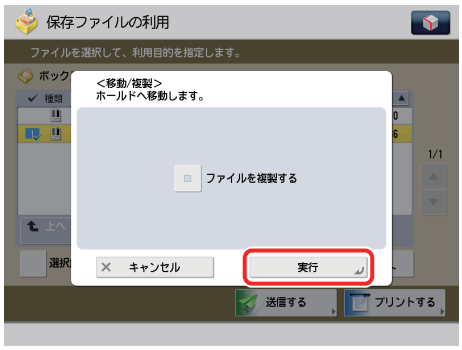
ボックス内のファイルを先頭から 100 ファイル目まですべて選択するには、［全選択（100 ファイルまで）］を押します。（ファイルを選択しているときは、［選択解除］に変わります。）

メモ
- 選択したファイルは、もう一度押すと選択を解除することができます。
- ファイルの選択をすべて解除するには、［選択解除］を押します。（このとき［選択解除］は、［全選択（100ファイルまで）］に変わります。）

3 ［ホールド］を押します。



4 ［実行］を押します。



ホールドキューにファイルが保存されます。

［ファイルを複製する］にチェックを付けると、ボックスのファイルを残したまま、ホールドキューにコピーを作成することができます。

ホールドキューにファイルが移動または複製できない場合は、実行できないことを知らせるメッセージが表示されます。

ファイルを移動または複製することができなかった場合は、もとのボックスにそのまま残ります。

複数ファイルの移動または複製中にエラーが発生した場合は、正しく移動または複製できたファイル数が表示されます。

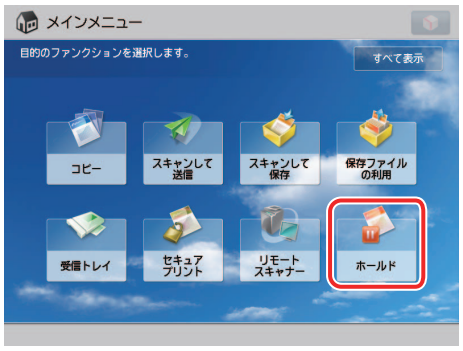
メモ
- 移動または複製したファイルのファイル名は、もとのファイル名と同じです。
- 移動または複製中に操作部電源スイッチが切れた場合は、その時点で完了したところまで移動または複製されます。

ホールドキュー内のファイルをプリントする

ホールドキュー内に保存したファイルを本製品からプリントする方法について説明します。

プリントする順番は指定できます。

1 ［ホールド］を押します。



2 ホールドジョブリストからプリントする順番にジョブを選択したあと、［プリント開始］を押します。

7 件以上のジョブが保存されている場合は［▼］［▲］を押して表示させます。複数のジョブを選択できます。

［全選択（100 まで）］を押すと、ホールドキュー内のジョブを先頭から 100 ジョブ目まですべて選択できます。（ジョブを選択しているときは、［選択解除］に変わります。）

メモ

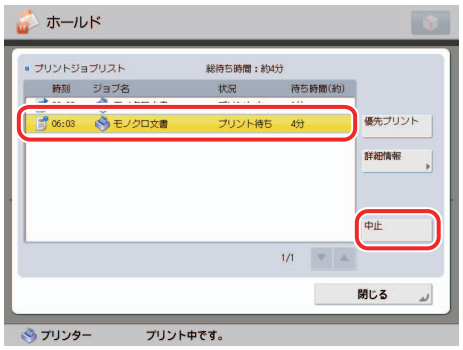
- 選択した順に番号が表示され、番号順にプリントされます。
- 選択したジョブは、もう一度押すと選択を解除できます。
- ［選択解除］を押すと、ファイルの選択がすべて解除されます。（このとき［選択解除］は、［全選択（100まで）］に変わります。
- ［プリント開始］を押すと、プリントジョブリスト画面が表示されます。

ジョブを中止する

ホールドキュー内に保存したファイルのプリントは、タッチパネルディスプレーや状況確認／中止画面から中止できます。

タッチパネルディスプレーから中止する

1 **プリントジョブリスト画面で中止するジョブを選択したあと、［中止］を押します。**

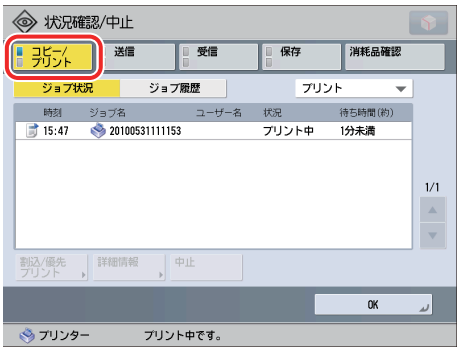


ジョブが中止されます。

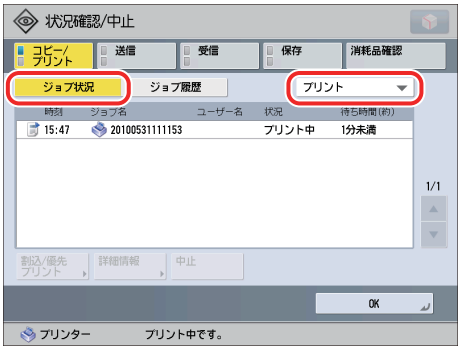
状況確認／中止画面から中止する

1 **（状況確認／中止）を押します。**

2 **［コピー / プリント］を押します。**



3 **［ジョブ状況］を押したあと、ドロップダウンリストから［プリント］を選択します。**



複数のジョブを選択して中止することはできません。1 つずつ選択して中止してください。

4 **中止するジョブを選択したあと、［中止］を押します。**

5 ［はい］を押します。

ジョブが中止されます。

メモ　中止したジョブは、ジョブ履歴の画面で「NG」と表示されます。

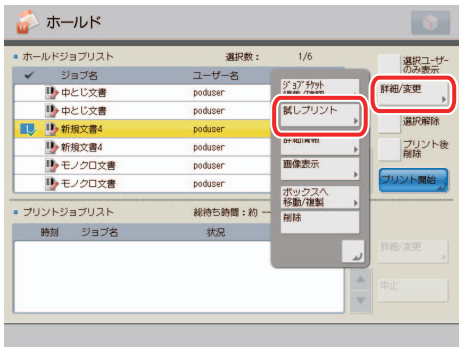
6 ［OK］を押します。

プリントジョブリスト画面に戻ります。

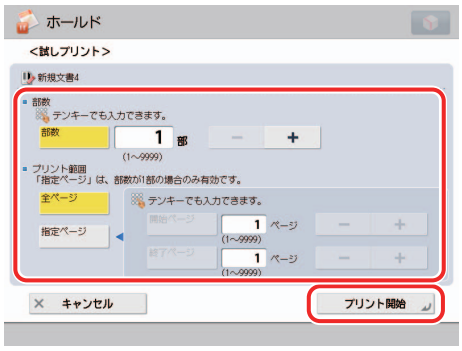
プリントの仕上がりや保存ファイルの内容を確認する（試しプリント）

ホールドキュー内に保存したファイルを、部数とプリント範囲を変更してプリントすることができます。プリント結果を確認して、必要に応じて設定を変更します。

1 ホールドジョブリストから目的のジョブを選択したあと、［詳細 / 変更］→［試しプリント］を押します。



2 部数、プリント範囲を設定し、［プリント開始］を押します。



メモ　プリンタードライバーから投入されたジョブによってはプリント範囲が設定できないジョブがあります。

● ［指定ページ］を選択した場合：

□ ［開始ページ］、［終了ページ］を押して、試しプリントをする最初と最後のページをそれぞれ［−］［+］で選択します。

メモ
- 指定ページを選択した場合、指定したページ数は、仕上がりのページ数に準じます。
- 指定ページを選択した場合、ホチキス、パンチ穴、折り、製本、断裁などの処理は行いません。
- 指定ページは部数が 1 部の場合のみ有効です。
- 試しプリント出力後に［全ページ］と［指定ページ］を選択しなおすことはできません。
- ［指定ページ］を指定した場合、試しプリント出力後に指定したページ数を変更することはできません。

3 ［閉じる］を押します。

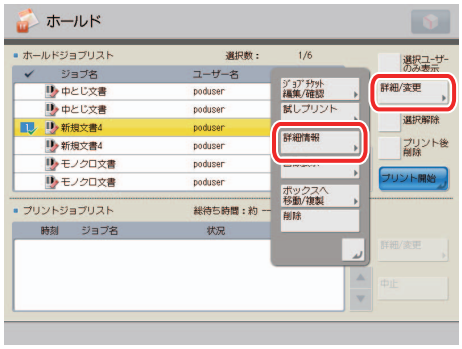
4 出力された内容を確認して、［プリント開始］または設定の変更を行います。

ホールドキュー内のファイルを整理する

ホールドキュー内に保存されているジョブの名称を変更したり、詳細情報を表示したり、ジョブを移動／複製したり、内容を表示したりすることができます。

ジョブの詳細情報を確認する

1 **ホールドジョブリストまたはプリントジョブリストから目的のジョブを選択したあと、［詳細 / 変更］→［詳細情報］を押します。**



メモ
- 複数のジョブを選択して［詳細情報］を押した場合は、選択されている（色つき）ジョブのみ詳細情報が表示されます。
- ジョブ名を変更する場合は、［ジョブ名を変更する］を押して、変更するジョブ名を入力したあと、［OK］を押します。
- ジョブ名なし（空欄）の場合、［OK］を押すことはできません。

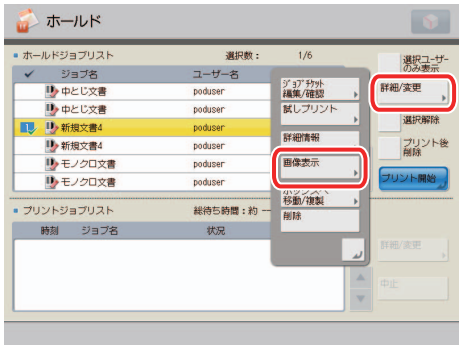
2 **詳細情報を確認したあと、［ＯＫ］を押します。**

メモ
- 「カラー／白黒」には、ジョブを読み込んだときのカラー情報が表示されます。
- ボックスから移動／複製したジョブやプリンタードライバーから投入したジョブは、「プリント設定あり」の状態になります。JDF対応のアプリケーションから投入したジョブは、「ジョブチケットあり」の状態になります。

アイコン	ファイルの種類	カラー／白黒
	プリント設定あり	白黒 2 値
	プリント設定あり	白黒（CMYK）
	ジョブチケットあり	白黒 2 値

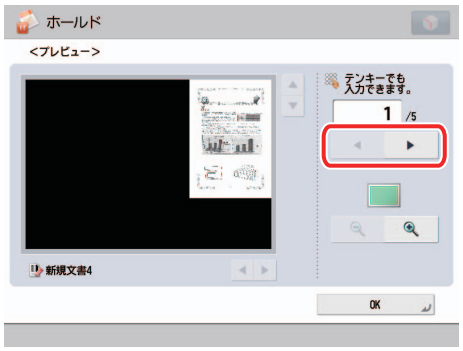
ジョブの画像を確認する

1 **ホールドジョブリストから目的のジョブを選択したあと、［詳細 / 変更］→［画像表示］を押します。**



メモ
複数のジョブを選択して［画像表示］を押した場合は、選択されている（色つき）ジョブのみプレビューが表示されます。

2 ［◀］［▶］を押して確認したいページを選択します。



3 画像を確認したあと、［OK］を押します。

［ 🔍 ］［ 🔍 ］を押して画像の倍率を変更することができます。

拡大した画像は、［◀］［▶］［▼］［▲］を押して、表示箇所を移動することができます。 で表示されている画像の位置を確認することができます。

ボックスへジョブを移動／複製する

1 ホールドジョブリストから、移動または複製するジョブを選択したあと、［詳細 / 変更］→［ボックスへ移動 / 複製］を押します。

ホールドキュー内のファイルを先頭から 100 ファイル目まですべて選択するには、［全選択（100 まで）］を押します。（ファイルを選択しているときは、［選択解除］に変わります。）

メモ
- 選択したファイルは、もう一度押すと選択を解除することができます。
- ファイルの選択をすべて解除するには、［選択解除］を押します。（このとき［選択解除］は、［全選択（100まで）］に変わります。）

2 ジョブを移動または複製するボックスを選択したあと、［移動］または［複製］を押します。

ボックスにジョブが保存されます。

ボックスにジョブが移動または複製できない場合は、実行できないことを知らせるメッセージが表示されます。

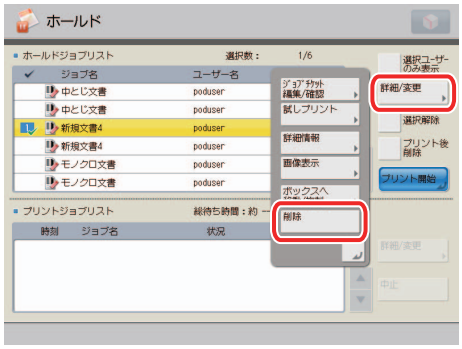
ジョブを移動または複製することができなかった場合は、もとのホールドキューにそのまま残ります。

複数ジョブの移動または複製中にエラーが発生した場合は、正しく移動または複製できたジョブ数が表示されます。

メモ
- 移動または複製したジョブのジョブ名は、もとのジョブ名と同じです。
- プリンタードライバーから投入されたジョブによってはボックスに移動できないジョブがあります。
- 移動または複製中に操作部電源スイッチが切れた場合は、その時点で完了したところまで移動または複製されます。

ジョブを削除する

1 **ホールドジョブリストから目的のジョブを選択したあと、[詳細 / 変更] → [削除] を押します。**



ホールドキュー内のファイルを先頭から 100 ファイル目まですべて選択するには、[全選択（100 まで）] を押します。（ファイルを選択しているときは、[選択解除] に変わります。）

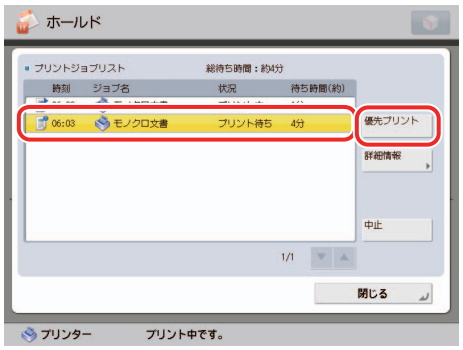
メモ
- 選択したファイルは、もう一度押すと選択を解除することができます。
- ファイルの選択をすべて解除するには、[選択解除] を押します。（このとき [選択解除] は、[全選択（100まで）] に変わります。）

2 **[はい] を押します。**

優先プリントする

優先プリントを行うと、現在プリント中のジョブの次にプリントを開始します。

1 **プリントジョブリストから目的のジョブを選択したあと、[優先プリント] を押します。**



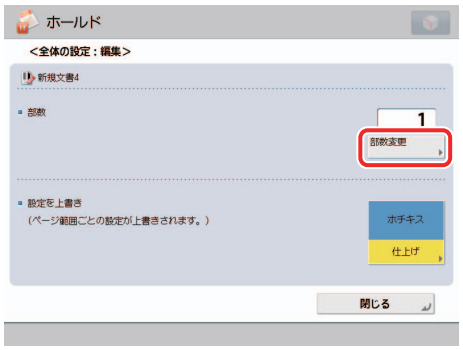
ジョブの部数を変更する（部数）

重要　本機能は、ジョブチケットがないジョブには使用できません。

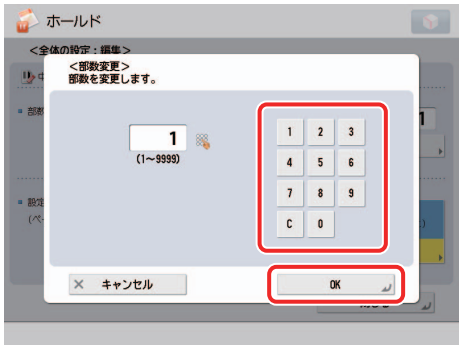
1 目的のジョブを選択して、［詳細 / 変更］→［ジョブチケット編集 / 確認］を押します。

2 ＜全体の設定＞の［編集］を押します。

3 ［部数変更］を押します。



4 部数を入力して、［OK］を押します。



5 ［閉じる］を押します。

プリントした用紙を仕分ける（仕上げ）

仕上げモードを設定すると、プリントした用紙をページで分けたり、部数で分けたりして排紙できます。

この機能を使用するために必要なオプションについては、e- マニュアル > オプション／ソフトウェアについてを参照してください。

重要
- 本機能は、ジョブチケットがないジョブには使用できません。
- 本機能と組み合わせて使用できない機能についてはe-マニュアル > 保存ファイルの利用を参照してください。
- フリーサイズ、はがき、OHPフィルム、ラベル用紙を選択した場合は、仕上げモードを設定することはできません。
- ホチキスを設定した場合は、常に印刷した面を裏側にして出力します。

メモ
- フィニッシャーの詳細については、e-マニュアル > オプション／ソフトウェアについてを参照してください。
- 設定を解除するには、［仕上げ］→［キャンセル］を押します。
- ［仕上げ］を設定していないときは［グループ(ページごと)］を設定したときと同じように排紙されます。

各オプション装着時に設定できる仕上げモードと指定できる用紙サイズは、以下のとおりです。

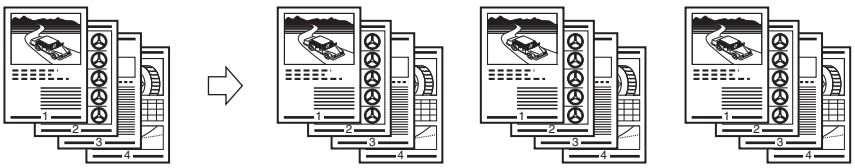
■ ステイプルフィニッシャー・D1／中綴じフィニッシャー・D1を装着した場合

装着オプション	シフト（ずらし）	ホチキス			断裁	排紙面指定
		コーナー	ダブル	中とじ		
ステイプルフィニッシャー	○ A3、B4、A4、A4R、B5	○ A4/B5（100 枚）、A3/B4/A4R（50 枚）	○ A4/B5（100 枚）、A3/B4/A4R（50 枚）	×	×	○
（ステイプルフィニッシャー＋パンチャーユニット）	（○ A3、B4、A4、A4R、B5）	（○ A4/B5（100 枚）、A3/B4/A4R（50 枚））	（○ A4/B5（100 枚）、A3/B4/A4R（50 枚））	（×）	（×）	（○）
（ステイプルフィニッシャー＋ペーパーフォールディングユニット）	（○ A3、B4、A4、A4R、B5）	（○ A4/B5（100 枚）、A3/B4/A4R（50 枚））	（○ A4/B5（100 枚）、A3/B4/A4R（50 枚））	（×）	（×）	（○）
中綴じフィニッシャー	○ A3、B4、A4、A4R、B5	○ A4/B5（100 枚）、A3/B4/A4R（50 枚）	○ A4/B5（100 枚）、A3/B4/A4R（50 枚）	○ 330 × 483 mm、320 × 450 mm（SRA3）、305 × 457 mm、A3、B4、A4R（20 枚）	×	○
（中綴じフィニッシャー＋パンチャーユニット）	（○ A3、B4、A4、A4R、B5）	（○ A4/B5（100 枚）、A3/B4/A4R（50 枚））	（○ A4/B5（100 枚）、A3/B4/A4R（50 枚））	（○ 330 × 483 mm、320 × 450 mm（SRA3）、305 × 457 mm、A3、B4、A4R（20 枚））	（×）	（○）
（中綴じフィニッシャー＋ペーパーフォールディングユニット）	（○ A3、B4、A4、A4R、B5）	（○ A4/B5（100 枚）、A3/B4/A4R（50 枚））	（○ A4/B5（100 枚）、A3/B4/A4R（50 枚））	（○ 330 × 483 mm、320 × 450 mm（SRA3）、305 × 457 mm、A3、B4、A4R（20 枚））	（×）	（○）
（中綴じフィニッシャー＋インナートリマー）	（○ A3、B4、A4、A4R、B5）	（○ A4/B5（100 枚）、A3/B4/A4R（50 枚））	（○ A4/B5（100 枚）、A3/B4/A4R（50 枚））	（○ 330 × 483 mm、320 × 450 mm（SRA3）、305 × 457 mm、A3、B4、A4R（20 枚））	（○ 330 × 483 mm、320 × 450 mm（SRA3）、305 × 457 mm、A3、B4、A4R）	（○）

■ **「ソート」を設定した場合**

ページぞろえを行い、排紙します。プリントは次のように排紙されます。

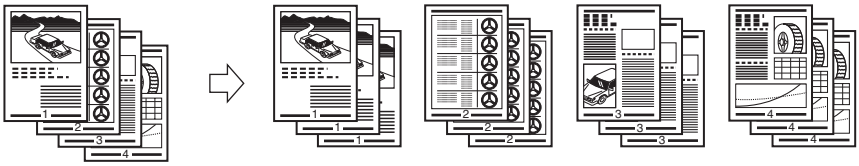
例：プリント 3 部指定



■ **「グループ」を設定した場合**

原稿の各ページごとに仕分けして排紙します。プリントは次のように排紙されます。

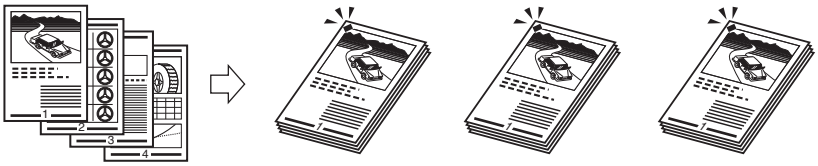
例：プリント 3 部指定



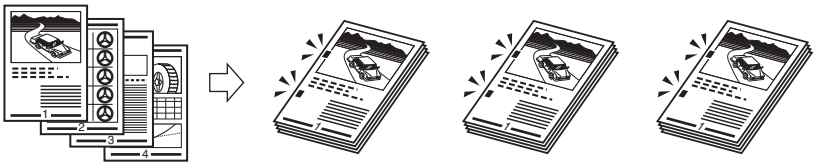
■ **「ホチキス」を設定した場合**

ページぞろえを行い、ホチキスします。プリントは次のように排紙されます。

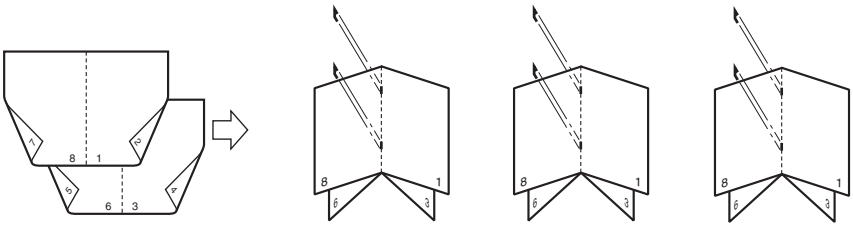
［コーナー］（左上）を選択した場合（プリント 3 部指定）



［ダブル］（左）を選択した場合（プリント 3 部指定）



［中とじ］を選択した場合（プリント 3 部指定）



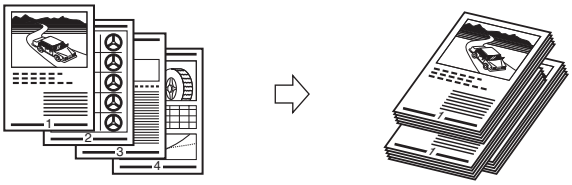
重要
- ［中とじ］は、両面プリントを設定している場合のみ設定できます。
- 中とじは、紙の種類、枚数によっては、折り具合が異なることがあります。

メモ

上のイラストのように、小冊子になるように読み込んだ文書をセットしてください。（→ e- マニュアル > 保存ファイルの利用、e- マニュアル > スキャンして保存 ）

■ **「シフト（ずらし）」を設定した場合**

用紙を手前にずらして排紙します。「指定部数シフト（ずらし）」を設定した場合は、指定した部数ごとに用紙を手前にずらして排紙します。



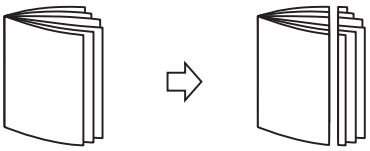
■ **「排紙面指定」を設定した場合**

出力する用紙の面をオモテ面にするかウラ面にするかを指定できます。［排紙面指定］を押して、以下の項目を選択します。

［自動］：	1 枚の原稿を読み込んでプリントした場合は、印刷した面を表側にして出力します。それ以外の場合は、印刷した面を裏側にして出力します。
［フェイスダウン（正順排紙）］：	常に印刷した面を裏側にして出力します。
［フェイスアップ（逆順排紙）］：	常に印刷した面を表側にして出力します。

■ **「断裁」を設定した場合**

中とじした用紙の小口を切りそろえます。



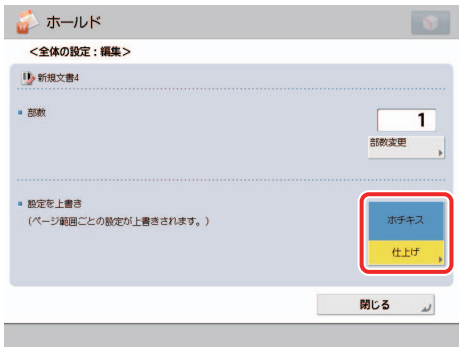
重要
- ［断裁する］は、インナートリマーを装着しているときに表示されます。
- ［断裁する］は、［中とじ］を選択した場合に設定できます。

ページをそろえてプリントする（ソート）

1 **目的のジョブを選択して、［詳細 / 変更］→［ジョブチケット編集 / 確認］を押します。**

2 **< 全体の設定 > の［編集］を押します。**

3 ［仕上げ］を押します。



4 ［ソート（1 部ごと）］を押します。

排紙面を選択するときは、［排紙面指定］を押します。

5 ［OK］を押します。

指定したモードが設定され、全体の設定画面に戻ります。

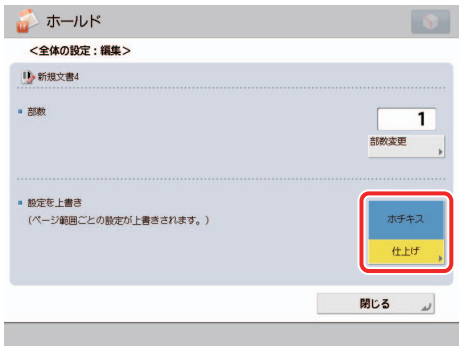
6 ［閉じる］を押します。

ページごとに仕分けてプリントする（グループ）

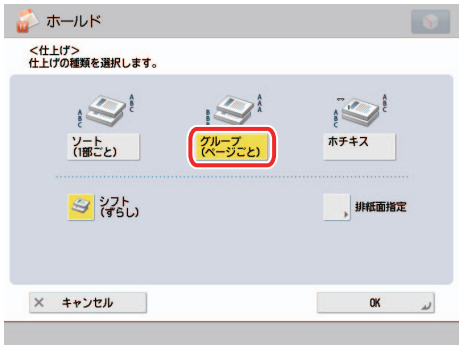
1 目的のジョブを選択して、［詳細 / 変更］→［ジョブチケット編集 / 確認］を押します。

2 < 全体の設定 > の［編集］を押します。

3 ［仕上げ］を押します。



4 ［グループ（ページごと）］を押します。



排紙面を選択するときは、［排紙面指定］を押します。

5 ［OK］を押します。

指定したモードが設定され、全体の設定画面に戻ります。

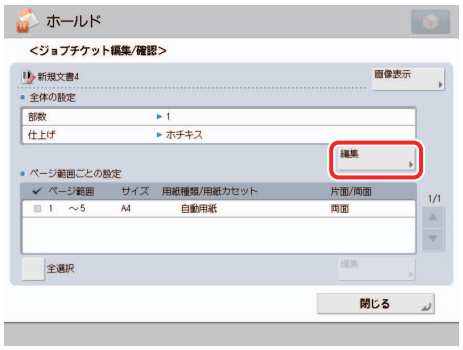
6 ［閉じる］を押します。

ページ順に仕分けてホチキスする（ホチキス）

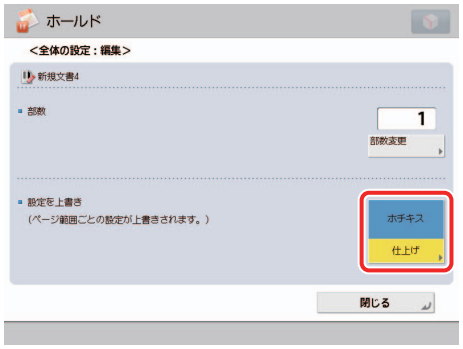
重要　用紙の種類は必ず正しく設定してください。特に厚紙など、特別な種類の用紙にプリントする場合は正しく設定されていないと画像不良が起こる可能性があり、定着器が汚れたり紙の巻きつきが発生したりして、担当サービスによる修理が必要になる場合もありますので、必ず正しく設定してください。

1 目的のジョブを選択して、［詳細 / 変更］→［ジョブチケット編集 / 確認］を押します。

2 ＜全体の設定＞の［編集］を押します。



3 ［仕上げ］を押します。



4 ［ホチキス］を押します。

● **ステイプルフィニッシャーを装着している場合：**

□ ［次へ］を押します。

□ ホチキスの種類（［コーナー］または［ダブル］）と位置を選択したあと、［OK］を押します。

● **中綴じフィニッシャーを装着している場合：**

□ ［次へ］を押します。

□ ホチキスの種類（［コーナー］、［ダブル］、［中とじ］）を選択します。

［コーナー］または［ダブル］を選択した場合は以下の手順になります。

［コーナー］または［ダブル］を押して、ホチキスの位置を選択したあと、［OK］を押します。

［中とじ］を選択した場合は以下のようになります。

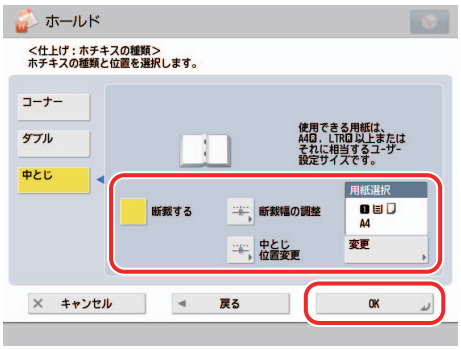
［中とじ］を押します。

用紙の中とじ位置をずらしたい場合は、［中とじ位置変更］を押して、調整する用紙を選択、位置を調整したあと、［OK］を押します。

断裁する場合は、［断裁する］を押します。

メモ ［断裁する］は、インナートリマーを装着しているときに表示されます。

断裁幅を調整する場合は、［断裁幅の調整］を押して、断裁幅を調整したあと、［OK］を押します。



本文に使用する用紙を選択する場合は、［変更］を押して、本文に使用する用紙の給紙箇所を選択したあと、［OK］を押します。

本文に使用する用紙を［手差し用紙変更］から選択した場合は、用紙サイズを選択したあと［次へ］を押し、用紙種類を選択したあと［OK］を押します。

重要
- 中綴じフィニッシャー・D1の場合、本文にする用紙は、60～220 g/m^{2}のものを使用してください。
- ［ダブル］または［中とじ］を選択している場合はシフトを設定することはできません。

メモ
を押すと、選択されている用紙の詳細情報が表示されます。

5 ［閉じる］を押します。

ページ範囲ごとの設定を編集する

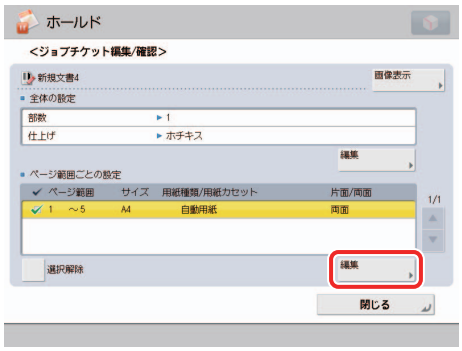
ジョブの全体にではなく、ジョブをページ単位で区切ったページ範囲ごとに対して適用されるジョブチケットの編集について説明します。

［排紙方法］の各項目は、ページ範囲ごとの設定では変更できません。全体の設定で変更してください。

重要
- 本機能は、ジョブチケットがないジョブには使用できません。
- 本機能と組み合わせて使用できない機能についてはe-マニュアル > 保存ファイルの利用を参照してください。

1 目的のジョブを選択して、［詳細 / 変更］→［ジョブチケット編集 / 確認］を押します。

2 該当するページ範囲を選び、<ページ範囲ごとの設定>の［編集］を押します。



3 件以上のページ範囲が保存されている場合は［▼］［▲］を押して表示させます。

複数のページ範囲を選択することもできます。複数のページ範囲は 100 件まで選択できます。

メモ
- 選択したページ範囲は、もう一度押すと選択を解除することができます。
- ページ範囲の選択をすべて解除するには、［選択解除］を押します。（このとき［選択解除］は、［全選択］に変わります。）

3 各項目を設定したあと、［OK］を押します。

メモ　複数のページ範囲を選択したときに、各ページ範囲で設定が異なる場合は、［出力用紙サイズ］は［混在］、その他の項目は［ページ範囲ごと］または［ページ範囲ごとの設定に従う］と表示されます。

● 用紙供給箇所を設定する場合：

□ ［用紙選択］を押します。

□ 給紙箇所から用紙を指定する場合は、［用紙カセットで指定］を押して、給紙箇所を選択したあと、［OK］を押します。

メモ　 を押すと、選択されている用紙の詳細情報が表示されます。

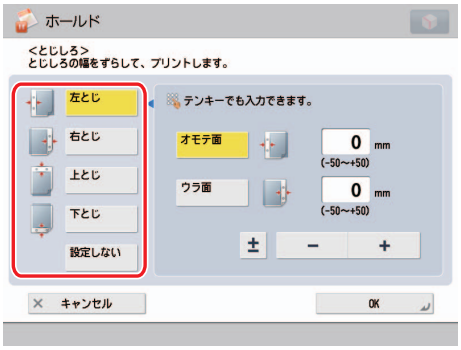
□ 用紙種類から用紙を指定する場合は、［用紙種類で指定］を押して、リストから用紙を選択したあと、［OK］を押します。

メモ
- 画面に表示される以下のアイコンは、それぞれ次の意味を示しています。
  - ：［複製］から登録して、設定を変更していない用紙
  - ：［複製］から登録して、設定を変更した用紙
- ドロップダウンリストで、表示する用紙種類を選択できます。
  - ［すべて］：基本用紙とユーザー設定用紙のすべての用紙種類を表示する
  - ［基本用紙］：基本用紙のみを表示する
  - ［ユーザー設定用紙］：ユーザー設定用紙のみを表示する
- リストのソートドロップダウンリストで、登録順、名称順、坪量順にリストの並べ替えができます。

● とじしろを設定する場合：

□ ［とじしろ］を押します。

□ とじしろの種類を選択します。



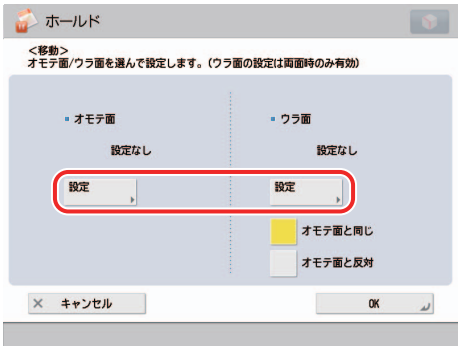
□ ［オモテ面］、［ウラ面］の各キーを押して、［－］［＋］を押してとじしろ幅を設定したあと、［OK］を押します。

メモ
0 以外のとじしろ幅を入力したときに［±］を押すと、＋と－を入替えることができます。
例：(+)10 → ［±］ → -10
-50 → ［±］ → (+)50

● **印字領域の移動を設定する場合：**

□ ［印字領域の移動］を押します。

□ オモテ面またはウラ面の［設定］を押します。



□ 移動する幅を⓪～⑨（テンキー）で入力し、［OK］を押します。

□ ［OK］を押します。

USRM1-8459-01
© CANON INC. 2011